326
284

始

大禮奉祝記

金澤市

326-284

大禮奉祝記

斯大禮奉祝記ハ昨年　卽位ノ大禮ヲ行ハセ給フニ際シ杯曁ヒ
市民ガ慶祝シ奉レル事象幷ニ記念ノ爲ニシタル事業ヲ記シ以
テ後來ニ傳ヘンカタメニ編纂シタルモノニシテ官幣社奉幣養
老杯下賜幷ニ地方賜饌等ハ其事固ニ　聖旨ニ出デ大禮ト關聯
スルヲ以テ併セ錄セリ又新聞若クバ雜誌ニ錄セラレ參照ニ資
スベキ事項ハ二三ヲ採錄セリ覽者諒セヨ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ惟神ノ寶祚ヲ踐ミ爰ニ卽
位ノ禮ヲ行ヒ普ク爾臣民ニ誥ク
朕惟フニ皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ列聖統ヲ
紹キ裕ヲ垂レ天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬世一
系ノ帝位ヲ傳ヘ神器ヲ奉シテ八洲ニ臨ミ皇化
ヲ宣ヘテ蒼生ヲ撫ス爾臣民世世相繼キ忠實公
ニ奉ス義ハ則チ君臣ニシテ情ハ猶ホ父子ノコ
トク以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ
皇考維新ノ盛運ヲ啓キ開國ノ宏謨ヲ定メ祖訓
ヲ紹述シテ不磨ノ大典ヲ布キ皇圖ヲ恢弘シテ
曠古ノ偉業ヲ樹ツ聖德四表ニ光被シ仁澤遐陬
ニ霑洽ス
朕今丕績ヲ纘キ遺範ニ遵ヒ內ハ邦基ヲ固クシ
テ永ク磐石ノ安ヲ圖リ外ハ國交ヲ敦クシテ共
ニ和平ノ慶ニ賴ラムトス朕カ祖宗ニ負フ所極
メテ重シ祖宗ノ神靈照鑑上ニ在リ朕夙夜兢業
天職ヲ全クセムコトヲ期ス朕ハ爾臣民ノ忠誠
其ノ分ヲ守リ勵精其ノ業ニ從ヒ以テ皇運ヲ扶
翼スルコトヲ知ル庶幾クハ心ヲ同クシ力ヲ戮
セ倍〻國光ヲ顯揚セムコトヲ爾臣民其レ克ク朕
カ意ヲ體セヨ

天皇陛下聰明聖哲仁德靖淵　踐祚シタマヒテヨリ政績日ニ熙マリ國光年ニ揚リ黎庶鴻恩ニ沐浴セリ去年令月良辰ヲ擇ヒ　卽位ノ大禮及ヒ大嘗祭ヲ行ハセタマヒ朝野俱ニ慶シ遐邇齊ク賀シマツレリ

陛下東宮ニ在シマシシ時民情ヲ軫シタマハントテ遍ク國內ヲ巡啓シ明治四十二年　鶴駕遙ニ北陸ニ枉ケサセタマヘリ斯時我金澤市民　英姿ニ咫尺シマツリ益廣大無疆ノ休ヲ享クルヲ思ヒ感激ノ至ニ勝ヘス謹ミテ報效ヲ期セリ千載一遇ノ　大禮ヲ擧サセ給フニ及ヒ歡忻抃舞恭ク賀表ヲ上ツリ敬ミテ方物ヲ獻ケ大禮奉祝會ヲ興シ小學校運動會ヲ催シ敎育品展覽會ヲ開キ又大禮記念事業ヲ經始シタリ因リテ吏僚ヲシテ此書ヲ編マシメ印

行シテ記念ニ當テ併セテ後人ニ諗ク

大正五年紀元節　　金澤市長山森隆謹ミテ識ス

大禮奉祝記目次

一、卽位の大禮及大嘗祭期日の告示……（一）
二、大禮記念事業の決定……（三）
三、大禮奉祝方法の協議……（一三）
四、特産物の獻上……（一五）
五、大禮奉祝に關する注意……（二八）
六、大禮當日の市中……（三二）
七、大禮當日の市會と捧呈の賀表……（三五）
八、贈　位……（三八）
九、賜　杯……（五三）
十、市民の萬歲三唱……（六〇）

十一、市の奉祝式……（六〇）
十二、市立各學校の奉祝式……（六二）
十三、官衙學校等の奉祝式……（六五）
十四、市民の奉賀簿記名……（六五）
十五、萬歳臺の築造……（六六）
十六、市立各小學校聯合運動會……（六六）
十七、市中各青年團聯合大會……（七四）
十八、市立各小學校聯合提灯行列……（七九）
十九、尾山神社の大嘗祭……（八二）
二十、縣社の大祭……（八三）
二十一、鄕社村社の大祭と幣帛供進……（八四）
二十二、賜饌……（八七）
二十三、大禮奉祝會……（八九）
二十四、市立各學校教育品展覽會……（九七）
二十五、旗行列提灯行列の催行……（一二五）
二十六、市立各學校の記念植樹……（一三〇）
二十七、個人の獻上品……（一三〇）
二十八、奬學基金等の寄附……（一三二）
二十九、神社の記念事業……（一三三）
三十、佛教日曜學校等の設定……（一三五）

挿畫目次略ス

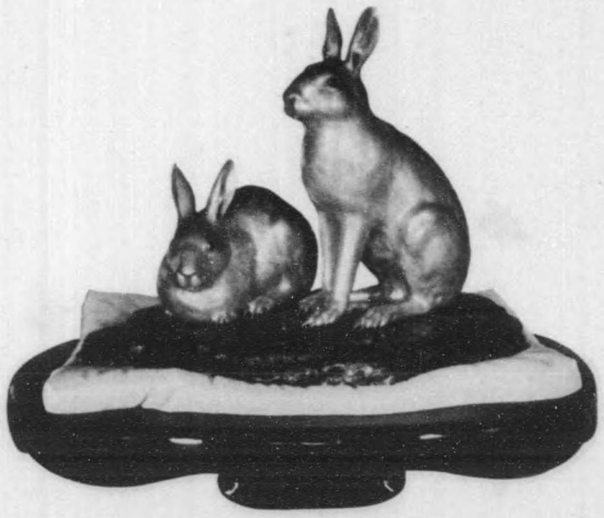
市大禮奉祝行事槩要日表

月日	大禮諸儀式	金澤地方天氣	市行事槩要
十一月十日（水曜日）	賢所大前ノ儀 午前八時ヨリ同十一時三十分マテ 紫宸殿ノ儀 午後一時三十分ヨリ同四時三十分マテ	晴	○市會ヲ開キ賀表ヲ讃定ス ○市長賀表ヲ捧持シテ京都ニ上ル ○午後三時三十分ヲ期シ號砲ヲ卯辰山ニ發ツ市民皆萬歳ヲ唱フ ○市奉祝式ヲ市議事堂ニ擧ク ○市立各學校ハ奉祝式ヲ擧ク ○是日ヨリ十四日ニ迄ル市民市議事堂ニ到リ奉祝簿ニ記名ス
十一月十一日（木曜日）	賢所御神樂ノ儀 午後三時三十分ヨリ翌十二日午前零時二十分マテ	晴	○市長京都ニ著シ賀表ヲ捧呈ス ○市立各小學校聯合運動會ヲ出羽町練兵場ニ催行ス ○青年團聯合大會ヲ開キ提灯行列ヲ催ス

十一月十日（日曜金）	十一月十一日（日曜土）	十一月十二日（日曜日）
		大嘗宮 午後四時二十分ヨリ 悠紀殿供饌ノ儀 午後六時ヨリ同十時マテ
雨曇	晴	晴
○市立各小學校聯合提灯行列ヲ催ス		○各郷社村社ニ幣帛ヲ供進ス ○是日ヨリ二十日ニ迄ル市立各學校教育品展覽會ヲ小將町高等小學校ニ開催ス

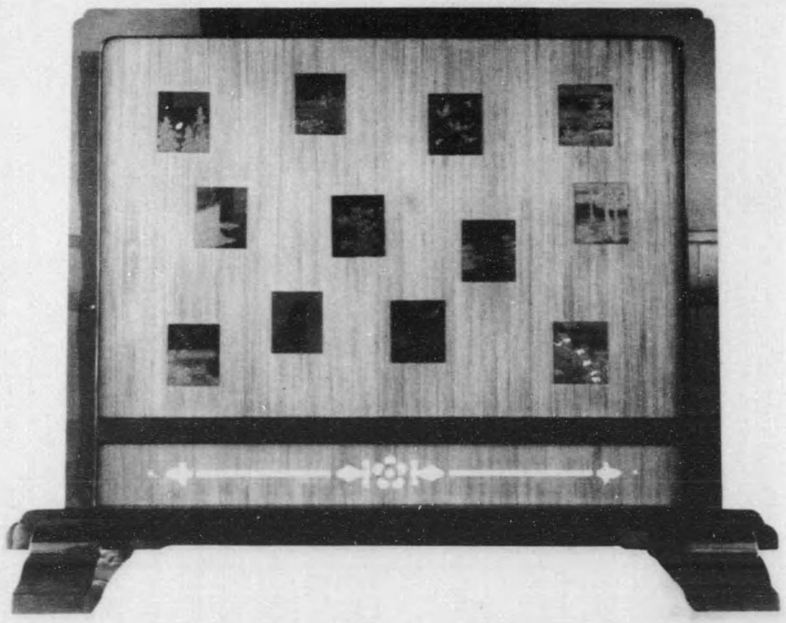
十一月十三日（日曜月）	十一月十四日（日曜火）	十一月十五日（日曜水）
主基殿供饌ノ儀 午前一時ヨリ同五時マテ	大饗第一日ノ儀 午 十二時ヨリ	大饗第二日ノ儀 午後六時ヨリ 大饗夜宴ノ儀 午後九時ヨリ
晴	晴	晴
	○市ノ大禮奉祝會ヲ出羽町練兵場ニ開ク	

献上品（其壹）



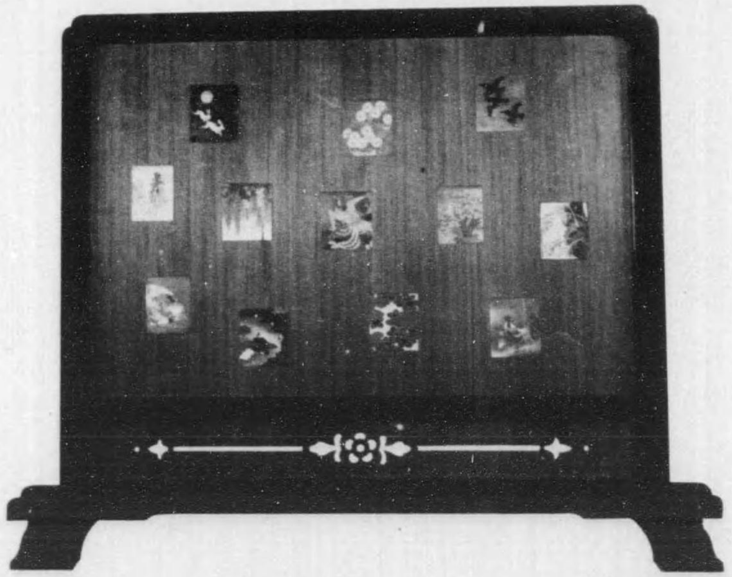
巖上雙兎の置物

献上品（其貳）



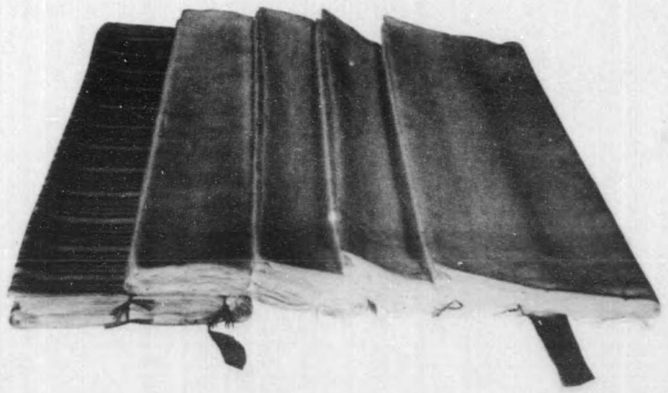
衝立の一面

献上品（其貳）



面反の立衝

献上品（其參）



輸出羽二重

大禮奉祝記

大正四年四月十九日。官報を以て、卽位禮及び大嘗祭の期日を告示せられたり。是より先き、金澤市民卽位の大禮を奉祝せんが爲に、參賛計畫する所あり、丞に大禮の期日を知らんと欲する、猶大旱に雲霓を望むがごとし。此に於て、市民額手して千載一遇の典儀を拜瞻するを慶べり。

是日官報を以て卽位の禮及び大嘗祭の期日を左記の如く告示せられたり

卽位ノ禮及大嘗祭ノ期日左ノ通定メラル

卽位ノ禮　大正四年十一月十日

大嘗祭　同　年同月十四日

大正四年四月十九日

内閣總理大臣　伯爵大隈重信
宮内大臣　男爵波多野敬直
内務大臣　子爵大浦兼武
外務大臣　男爵加藤高明
陸軍大臣　岡　市之助
海軍大臣　八代六郎
大藏大臣　若槻禮次郎
文部大臣　法學博士一木喜德郎
司法大臣　尾崎行雄
逓信大臣　武富時敏
農商務大臣　河野廣中

是より先き市民心竊に大禮奉祝の準備を爲し市の計畫に參賛する所あり是日大禮の期日を知るを得遂に齊しく起ちて準備を進行するに至れり

八月十九日市會を開き、卯辰山公園の登路に當る歸厚坂を改修して、通行に便し、以て大禮の記念とするの議を決む。是より先き、大禮記念事業を査覈し、并に大禮奉祝準備を周悉せむが爲に、規程を定め、委員を置き、以て遺缺なきを期せり。

是日市會を開き卯辰山公園道路改修費金壹萬五千圓を支出し以て大禮記念事業に當つるの議案に對し全員一致して可決確定せり其歸厚坂改修前後の比較は左記の如し

	延長	路面幅	平均勾配
改修後	三九四・一間	二・五間	一五・四分ノ一
改修前	一六五・〇	自一・七 至三・〇	六・五分ノ一

又議案は實に左記の如し

自大正四年度 至大正五年度 金澤市卯辰山道路改修費繼續年期及支出方法

一金壹萬五千圓　卯辰山公園道路改修費

内譯　一金八千圓　大正四年度支出額

一金七千圓　大正五年度支出額

右ハ大典記念事業トシテ本市卯辰山公園道路ヲ改修シ之ヲ貳ケ年繼續費トシテ支出スルモノトス

理由

本案ヲ發スルハ本市卯辰山公園ニ達スル阪路ハ急傾斜ニシテ行路太タ困難ナルモノアリ爲ニ公園地タルノ目的ニ副ハザル傾向アルヲ以テ今爾　大典記念事業トシテ特ニ是ヲ經營シ永ク本市住民ヲシテ其懿德ヲ仰カシメムトスルニ由ル

○大禮記念事業の調査　是より先き一月二十七日市に大禮記念事業調査委員を置き左記市吏員に其委員を命じ豫じめ査覈を悉さしめたり

委員長　飯尾次郎三郎

委員　宮川米次郎　廣瀨博久　吉田鋒三郎　松江甚吉　中西與七　高橋覺吉　由比勝之　大森多三郎　松任外次郎　矢部彌太郎　和田文次郎

○大典記念事業調査委員規程と其委員　六月十二日市會を開き大典記念事業調査委員規程案を議す市長山森隆發案の理由を辨じて云ふ

大典記念事業ニ關シ市ニ於テ調査ヲ遂ケタリ然レトモ記念事業ノ如キハ愼重熟議シテ違算ナキヲ期セサルヘカラス依リテ特ニ本案ヲ提出シタリ

と其規程案は實に左記の如し

金澤市記念事業調査委員規程

第一條　市制第八十三條ニヨリ大典記念事業調査ノ爲メ臨時委員ヲ置ク

第二條　調査委員ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

市參事會員　二名

市會議員　十名

市公民　五名

第三條　委員ハ記念事業ノ施設ニ關シ調査ヲ遂ケ其結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第四條　委員ノ處務ニ必要ナル規定ハ市長之ヲ定ム

附則

第五條　本規程ハ大正四年六月十二日ヨリ之ヲ施行ス

異議なし即ち可決確定し委員は議長の指名選擧に任す議長林直の指名選擧したる委員は左記の如し

市參事會員選出委員

清水兼之　高坂三松

市會議員選出委員

二木二三郎　髣谷與右衛門　杉原幹男　今村源右衛門

西永公平　油谷定吉　領家久太郎　篠原讓吉

釣谷他吉　林直

市公民選出委員

男爵本多政以　男爵横山隆俊　上田計二　村彦兵衛

○記念事業の選定　記念事業調査委員は屢〻凝議調査するところあり七月二十九日專務委員の調理に係る案件に關し討議を盡し遂に左記の三方案を選定して市長に報告せり

一、市内大手町舊金澤醫學專門學校跡建物敷地ヲ縣ヨリ讓受ケテ一大體育館ヲ建設スルモノニシテ其經費ハ建設費九千五百圓維持費毎年千五百圓トス

二、市内長町五番丁舊長町小學校舍ヲ授産場ニ替ヘ無職者ニ職業ヲ授ケ別ニ小資本ヲ貸附ケテ家内工業並ニ手工業ヲ奬勵スルモノニシテ其經費ハ開設費二千六百圓維持費毎年八千七百圓トス

三、卯辰山ゆざや谷ニ二萬五千坪ヲ買入レテ大運動場ヲ建設シ其通路ニ當ル歸厚坂切下工事ヲ行フモノニシテ其經費ハ運動場設置費三萬圓歸厚坂切下工事費六千圓トス

後ち前記の方案に就き總委員會に於て第二案の授産場設置、第三案の一部歸厚坂改鑿を是認せり

八月十四日市會を開き記念事業に關する協議會を開き助役飯尾次郎三郎は記念事業調査委員の經過と授産場設置、歸厚坂改鑿の二方案を是認したる趣を報告し賛否の意見を求め遂に歸厚坂改鑿に一決せり

○記念事業調査委員の再置　八月十九日市會を開き市長より新たに發案したる市記念事業調査並奉祝準備委員規程を議し可決確定せり其規程は左記の如し

金澤市記念事業調査並奉祝準備委員規程

第一條　大典記念事業調査及奉祝準備ノ爲メ委員ヲ設ク

第二條　委員ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

市參事會員　六名

市會議員　二十七名

市公民　五名

第三條　前條ノ委員ハ記念事業施設及奉祝準備ニ關シ調査ヲ遂ケ其結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第四條　委員ノ處務ニ必要ナル規定ハ市長之ヲ定ム

附則

第五條　本規程ハ大正四年八月二十日ヨリ施行シ金澤市記念事業調査委員規程ハ同時ニ之ヲ廢止ス

次で議長林直は其委員を指名選擧せり卽ち左記の如し

市參事會員選出

八日市屋清太郎　清水兼之　阿部太右衞門　高坂三松

辰村米吉　米村吉太郎

市會議員選出

平田孫太郎　清水清二　杉原幹男　西永公平
林　直　篠原讓吉　松田文太郎　釣谷他吉
小森新太郎　山田定吉　阿部太右衛門　額谷喜兵衛
永井喜之男　油谷定吉　國原喜平　石川仁三郎
中堀米藏　中太吉　領家久太郎　小鍛冶市左衛門
二木二三郎　今村源右衛門　横井伊佐美　石澤辰太郎
中島喜三次　餝谷與右衛門　坂野權次郎　田村岩松

市公民選出

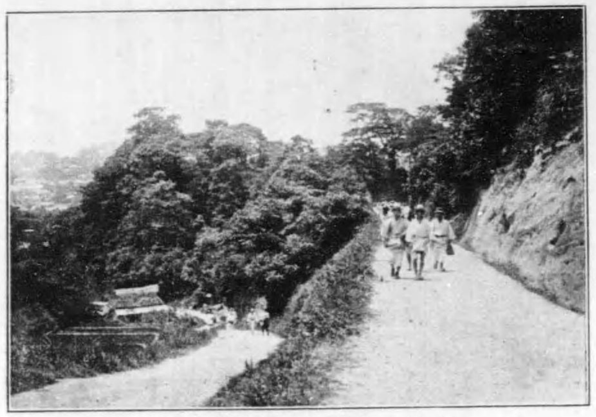
男爵本多政以　男爵横山隆俊　村彦兵衛　上田計二
市村塘

○記念事業の報告　九月七日市長山森隆は市の大禮記念事業を石川縣知事に報告せり其報告は左記の如し

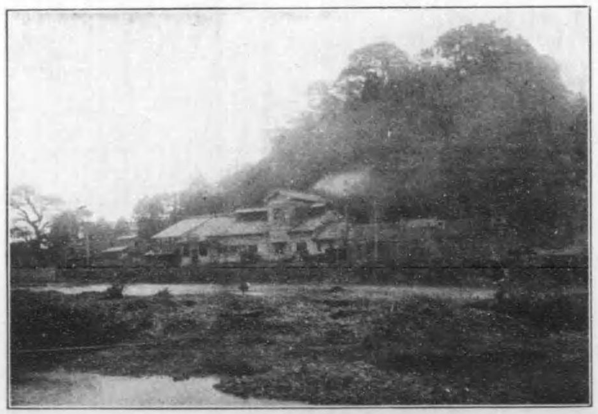
事業調査書

金澤市

大禮記念事業

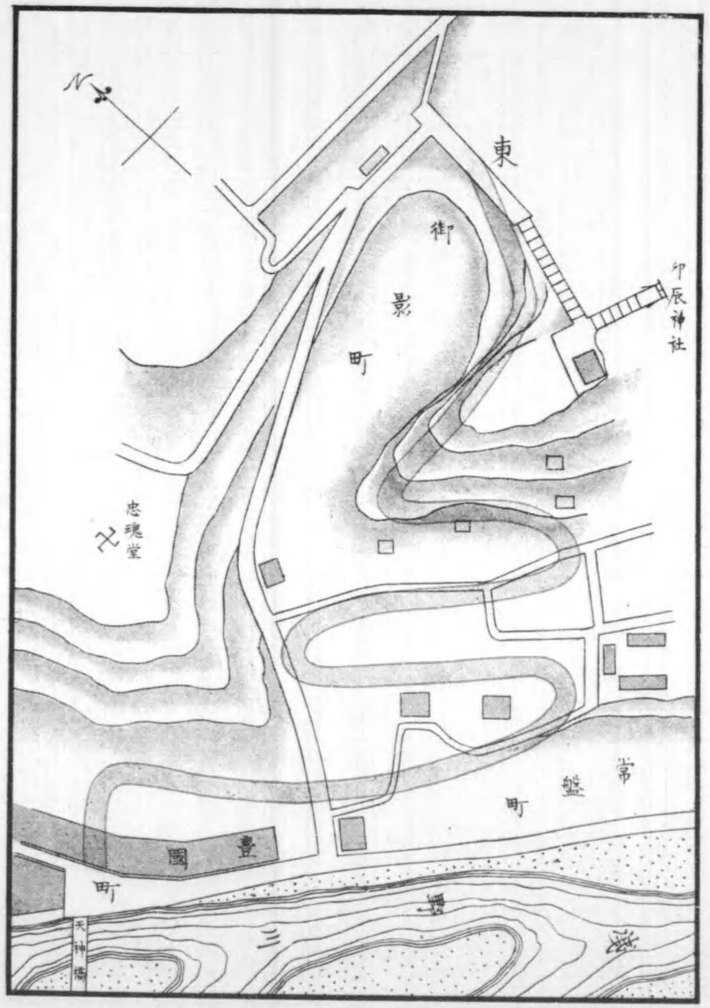


舊來の卯辰山歸厚坂



歸厚坂の舊登路と新整すべき登路口

卯辰山公園道路帰厚坂改築工事見取平面圖



一、事業ノ種類

金澤市卯辰山公園道路改修

二、事業經營ノ方法

卯辰山公園ニハ俗稱歸厚坂ト唱フル急峻ナル坂路アリ遊客ノ多クハ此ニ依リ登山スルヲ常トス然モ勾配七分ノ一乃至十分ノ一ニ上ルヲ以テ諸車ノ通行ハ固ヨリ徒歩猶且難澁ニ付之カ勾配ヲ緩メ交通ヲ便ニシ又路傍ニ樹木ヲ植込ミ風致ヲ添ヘントス改修線延長約三百四十五間平均勾配十五分ノ一トシ實用幅員二間半トス

三、事業ノ經費及支出方法

事業ノ經費ハ貳ケ年繼續トシ左ノ通リ之ヲ支出スルモノトス

金壹萬五千圓　卯辰山公園道路改修費

内譯

金八千圓　大正四年度支出額

金七千圓　大正五年度支出額

四、本事業ヲ撰擇シタル事由

卯辰山ハ舊稱ヲ茶臼山トイヒ雅名ヲ臥龍山又ハ夢香山ト稱シ昔者上杉謙信此山上ニ陣營ヲ張レリ慶應三年初メテ山上ヲ開拓シ市街地ニ編入セリ山容秀靈眺望絶佳ニシテ山上ニ祠宇散點シ街路縱横シ特ニ市ハ近年ニ至リ之ヲ公園トナシ險キヲ夷ケ隘キヲ擴メ花卉ヲ植エナトシ設備ヲ悉セルヲ以テ四時縱遊ノ者衆シ是レ市ハ將來ニ於テ山上ニ貳萬五千坪以上ノ大運動場ヲ設ケ共進會博覽會等ノ開催ヲナシ市ノ發展上裨益スルコト大ナラシメムトスルノ計畫アルニ依レリ然ルニ登山スル者何レノ坂路ヨリスルモ傾斜急ニシテ行路太タ困難ナルモノアリ爲ニ其目的ニ副ハサルノ傾向アリ依テ市ハ今次大典記念事業トシテ特ニ歸厚坂ノ改修ヲ經營シ永ク本市住民ヲシテ懿德ヲ仰カシメムトスルニ由ル

十月十八日市記念事業調査竝奉祝準備委員會は、大禮奉祝の方法を協議せり。後一切其所定に據りて行ひたり。

十月十八日市記念事業調査竝奉祝準備委員會に於て大禮奉祝に關する方法を協議決定せり其方法は左記の如し

一、賀表ノ奉呈

十一月七日午後一時市會ヲ招集シ賀表奉呈ノ決議ヲ爲ス事

二、奉祝式ノ擧行

十一月十日午後一時三十分市名譽職及市吏員一同市議事堂ニ參集シテ奉祝式ヲ擧ケ司會者萬歲ヲ奉唱シ一同之ニ和スル事

三、奉祝名簿ノ備附

十一月十日ヨリ同十五日マテ毎日午前九時ヨリ午後四時マテ市議事堂ニ奉祝名簿ヲ備ヘ置キ市民ヲシテ隨意記名セシムル事

四、運動會ノ開催

十一月十一日午前十時出羽町練兵場ニ於テ市立各小學校運動會ヲ催シ午後三時終了但シ雨天ノ節ハ同十三日マテ順延ノ事

五、提灯行列ノ催行

十一月十二日午後五時市立各尋常小學校四學年以上及高等小學校兒童全部ノ提灯行列ヲ催ス事

六、幣帛ノ供進

十一月十四日十五日兩日大嘗祭執行指定神社ニ供進使ヲ派シ祝詞ヲ奏シ幣帛料ヲ献スル事

七、奉祝會ノ擧行

十一月十六日午後三時出羽町練兵場ニ於テ奉祝會ヲ開催シ記念杯ヲ頒チ交名簿ヲ配布スル事

又協議したる事項は左記の如し

一、市中裝飾ハ十一月十日ヨリ十七日マテノ事

二、市民ノ餘興ハ十一月十六日以後ヲ可トスル事

三、市民ハ大嘗祭當日氏神ニ參拜スル事

四、青年會提灯行列ハ十一月十七日午後四時擧行ノ事

五、奉祝會加盟申込ハ十月二十日ヨリ三十一日マテノ事

六、市内各町ノ裝飾ハ隨意トシ注連繩ヲ張ル事

十一月二日。大禮奉祝の微忱を表せん爲め製造せし金屬製置物・木材製衝立・輸出羽二重の三品、皆竣工せしを以て、市助役捧持して東京に上り、四日赤坂離宮に獻上せり。是より先き市會の決議にて市の特産物を獻上することゝなり、百方撰擇して此三品と定めたりしなり。

市の大禮奉祝獻上品は市の特産品の尤なる金屬器・漆陶磁器並に輸出羽二重に選定せられ金屬器は巖上に雙兎を置ける高一尺四寸餘幅之に稱ひたる置物、漆器磁器製は高六尺六寸幅之に稱ひたる衝立にして前者は山川幸次曁び金工會に命して製作せしめ後者は石川縣立工業學校に製作を囑し輸出羽二重は白綾縞縮子入各一疋白平地三疋に

して各幅一尺八寸長十二丈あり男爵本多政以外四人をして製織せしめたり皆成るに及び大禮奉祝準備委員等の拜覽を歴獻上の儀を採納せられたるに因り市助役飯尾次郎三郎（市書記池田陸隨行）は是日捧持して東京に上り四日赤阪離宮に獻納し七日歸れり

聞く　天皇陛下には十二月二十二日赤阪離宮に行幸あらせられ官民より獻上せる大禮奉祝品を天覽あらせ給へりと

○特産品獻上の決議　八月二十七日市會を開き大禮奉祝の爲にする特産品獻上と明治神宮への樹木獻納との二事に對し臨時費三千五百圓の支出を求む其理由に云ふ

本案ヲ發スルハ今秋御卽位式御擧行ニ際シ本市ハ其盛典ヲ奉祝センカ爲地方ノ特産品ヲ撰擇シテ之ヲ獻納シ又明治神宮建設ニ方リ該神苑ヘ適當ノ樹木ヲ獻納セムトスルニ由ル

全員起立して原案を可決確定せり此に於て市助役飯尾次郎三郎豫め市會の承認を求むる所あり言ふ

本案獻上品ノ製作ニ就テハ規定上之ヲ公入札ニ附スルヲ要スト雖特殊ノ技能ヲ要スルモノナルニ因リ之ヲ指名請負ニ附スルコトヲ本會ニ於テ承認シ尙其旨ヲ會議錄ニ明記スルヲ望ム

と異議なくして之に決せり

○獻上品に關する通牒　會地方公共團體よりの獻上品に關し其筋の通牒の中に云ふ

獻上品ハ其地方ニ於ル特産品ヲ撰擇スル等可成奉祝ノ誠意ヲ表スルニ止メ苟モ華美ニ流レ高價ニ過クル物品ヲ獻納セムトスルカ如キコト無之樣注意スヘキコト

と市の獻上品は特産品にして華美に流れす高價に失せす寔に其宜しきに適ひたるを幸とせり

○特産品獻上の出願　十月十六日市長山森隆は石川縣知事を經由し特産品獻上の儀を宮内大臣に出願し添ふるに獻上品說明書を以てせり其願書並說明書は左記の如し

製産品獻上願

一、金屬製置物　壹　個

巖上ノ雙兎　高壹尺四寸壹分、幅壹尺八寸、縱壹尺貳寸

雙　兎　金澤市　山川孝次謹製

巖　金澤市　金工會謹製

壹　基

一、木材製衝立

兩面ニ漆器並磁器製式紙形ヲ嵌入ス

高六尺六寸、幅七尺五寸　石川縣立工業學校謹製

五　疋

一、輸出羽二重　各幅壹尺八寸、長拾貳丈物

白綾羽二重　目形參百貳拾匁　壹　疋　金澤市　和田權五郎謹製

縞縮子入羽二重　目形四百參拾匁　壹　疋

白平地羽二重　目形貳百參拾四匁拾四デニール二本縱横織　壹疋　金澤市　男爵本多政以謹製

白平地羽二重　目形百六拾四匁　壹　疋　金澤市　大西文次郎謹製

白平地羽二重　目形百九拾八匁縱壹本横貳本織　壹　疋　金澤市　北岩松謹製

御大典ヲ奉祝スルノ微衷ヲ表センカ爲前記金澤市製産品獻上仕度候間御許可相成度奉願候也

大正四年十月十六日　金澤市長　山森隆

宮内大臣男爵波多野敬直殿

獻上品說明書

一、金屬製置物

品題

恭ク惟ミルニ

陛下ノ降誕アラセ給ヒタル歳ト大典ヲ擧行セサセ給フ歳ト干支相同シク孰レモ卯歳ナルニ因リ特ニ雙兎ヲ品題ニ上セ　寶祚ノ無疆ヲ祝ヒマツリ　寶算ノ長久ヲ壽キマツルノ微忱ヲ表セリ

原　型

原型ハ北國産ノ野兎卽チ石川縣河北郡小坂村ニ於テ特ニ生獲シタルモノヲ以ヒタリ

原　料

雙兎ハ銀材巖ハ朧銀材ヲ以ヒタリ

一、木材製衝立

用　材

中板ハ神代杉材ヲ用ヒ腰ハ梅ノ透彫ヲ施シ緣足孰レモ黑蠟色塗ナリ

圖　樣

中板ノ一面ニハ漆器蒔繪式紙形十二枚ヲ反面ニハ磁器上繪式紙形十二枚ヲ嵌入シ孰レモ大體ノ意匠ヲ十二ケ月ニ因ミ大典奉祝ノ意ヲ寓シタルモノ及ヒ金澤市ノ景致四季ノ風物等ヲ圖樣トス

磁器上繪

鳥　日像及ヒ新年ヲ寓意シ一月ニ因ム

檜扇　檜扇ニ梅ト瑞雲ノ模樣ヲ配シ二月ニ因ム

旭櫻　兼六公園旭櫻ノ景ナリ三月ニ因ム

桐ニ鳳凰　花咲キ滿ツル桐ノ枝ニ鳳凰翼ヲ張リ將ニ飛翔セントスルノ樣ニシテ四月ニ因ム

藤　兼六公園瓢池ノ景ナリ五月ニ因ム

御祓　御祓ヲ行フ樣ニシテ六月ニ因ム

鷄ニ竹　畏レ多クモ陛下ノ御干支ノ七ツ目ヲ壽キマツル意ヲ表シ七月ニ因ム

月ニ玉兎　月像ヲ寓意シ八月ニ因ム

菊ニ瑞雲　白菊咲キ匂フ處瑞雲棚引ケル樣ニシテ九月ニ因ム

橘　右近ノ橘ニ意ヲ通ハシ十月ニ因ム

稻　豐穰ノ樣ヲ描キ大嘗祭ニ意ヲ通ハシ十一月ニ因ム

雪　舊金澤城石川門ノ雪景ナリ十二月ニ因ム

漆器蒔繪

若松　御代萬歲ヲ壽キマツル意ヲ表シ一月ニ因ム

宮居ニ梅　長閑ナル春ノ日ニ寓意シ二月ニ因ム

櫻　左近櫻ニ意ヲ通ハシ三月ニ因ム

蝶ニ鳥　春色ヲ天平式模樣ニ象リ四月ニ因ム

菖蒲　兼六公園曲水附近ノ景ナリ五月ニ因ム

杉ニ月　杉間ヲ洩ル月影ニ杜鵑啼キ渡ルノ意ニシテ六月ニ因ム

螢　夏夕ノ景ナリ七月ニ因ム

竹ニ月　明月ノ意ナリ八月ニ因ム

秋草　秋色ノ意ナリ九月ニ因ム

菊　菊花ノ咲キ匂フ樣ニシテ十月ニ因ム

几帳　几帳模樣ニ寓意シ十一月ニ因ム

虎ニ雪　畏レ多クモ皇后陛下ノ御干支ノ七ツ目ヲ壽キマツル意ヲ表シ雪ヲ配シテ十二月ニ因ム

○獻上品採納の通牒　十月二十七日宮內大臣は市の特產品獻上採納の儀を石川縣に指令し市は十一月一日を以て其通牒に接せり指令に云く

指令第二二〇號　石川縣

大正四年十月十八日附收御第七二九七三〇號進達金澤市長山森隆出願御大典奉祝ノ爲金屬製置物壹個木材製衝立壹基輸出羽二重五疋

聖上へ獻納ノ件採納可相成現品ハ十一月一日以後赤坂離宮ニ於テ

受理可致候

大正四年十月二十七日

宮内大臣男爵波多野敬直

【參照】

山川孝次が金澤市の献納品の工作に從事しつゝあつた今頃は多分出來上つた事と同氏を訪ふた丁度物産陳列館圖案部の鈴木成夫、置物臺の工作者高田與三次等も來合せて居て今出來上つたばかりの物を工作場から座敷に運ばれる處であつた本献品は既報の如く長くも今上陛下の御干支に因んだ巖上雙兎の置物であるが兎は殆ど實物大で巖の厚さが約二寸餘ある、そして臺は高田氏が最も丹精を凝した蠟色塗の幅約一尺五寸に二尺三寸高さ三寸のもので總量目約六貫目、價格は臺が七拾圓金工が壹千參百圓といふのであろ兎は銀製其眼は金四分一巖は四分一で作られた金色の苔で散らしてあるが初め此の献品を作るに當り兎は家畜でなく野棲のものに據らればならぬとの事で之迄家畜兎を見馴れて居た人の眼にはなかなか其野棲兎の眞相を捉へる事が出來ないので是非とも其實物を得ればならぬと云ふので苦心の結果幸にして一頭を得たのは全く天與であると工作者は語つて居た元來家畜は極めて柔順なもので耳が長くて常に背後に垂れ又た前足も餘程短いが野棲のものは足が割合に長く耳も亦た短かくていつも夫れを立て居り面も眼光の鋭いあたりは如何にも雪中の山野をはね廻りはね廻る勇ましい風がある之れをそつくり型にはめて生き〳〵した處を現はし得て遺憾なきに至らしめた工作者の苦心は恐らく一ト通りではあるまい殊に四十日の短時日で工を終つた事は寧ろ不思議とすべき位である之れが若し實品で然得の爲なれば迚も迚も出來得るものでないが只家門の名譽は勿論從業せる各技術者の光榮であるといふ觀念が大に力となつて晝夜兼行努力した結果であると山川は云つて居る例の標本となつた山兎は其後無事健全に飼育されて今では餘程柔順になつたさうだが早晩元の故郷に放還されるとの事彼れも亦た此の光榮ある大任を全うして嘶かし滿足に思ふであらう――（石川新聞）――

御大典奉祝として金澤市より献上すべき置物は巖上の兎と決し兎は山川孝次の手にて籠製することゝし巖は金工會員の手にて引受け高畠豐太郎方を工場に充て從事員何れも齋戒沐浴して調製に從ひ居り愈々見事に出來したり兩頭の兎は地を銀とし眼には四分一を使ひ瞳子を金とせるものにて兎の高さ二寸五分又巖は全部四分一とし處々金にて草を飾め高さ三寸縦二尺二寸横一尺五寸の臺の上に据え付けられて頗る優美に出來上り直に市役所へ納むることゝしたるが山川方にては兎の標本として一頭の野兎を捕へ來りて飼育し九月十日より原型に着手し全く製作に從事したるは十月の始なる由にて同家にては漸く馴染みし兎を再び放すは可愛想なれば光榮ある仕事の記念として長く此儘飼ひ置かんとも考へ居れりとのことなるが尙床の間には孝次氏の親父と非常に仲の善かりし光清氏の筆になれる金工の守神石凝戸命の畫像を懸け神酒を供へて粗漏なからんことを祈り日夜燈明を絶たず不斷に香を炷きて丹精を籠めたりといふ――（北國新聞）――

衝立は高さ六尺六寸、横七尺五寸、臺の長さ八尺七寸に及べる見事なものにて板は全部神代杉を用ひたり其の木目の緻密なること羽二重の縦糸を見る如く縁は蝦色に塗りしことゝて神代杉との配色調和して頗る品位を備へたりこれに挿入する色紙形の漆器、陶器とも十二枚宛にて一面を漆器とも一面を陶器とせるか此の製作に就ては工業學校の面目重大なるより志筑校長以下殆んど寢食を忘れて從事したるにぞ

出來榮頗るよく應用美術の範を示したりと云ふべく色紙形は山本光汀氏圖案主任として其衝に當り漆器の蒔繪は藤岡金吾地塗は多田義孝を擔當者に擧げ陶器は塚田政雄全般を督し繪付は安達正太郎之に任し去九月以來齋心の末に成就したるものにて繪付の模樣は新派舊派は素より土佐風狩野風を蒐めてよく其の變遷を現はしたり色紙の繪模樣は十二月に配し漆器の分は一月を若松、二月を宮居、三月を櫻、四月を蝶鳥、五月を兼六公園の曲水と菖蒲、六月を杉に、七月を蛇籠と撫子に螢、八月を若竹に鈴虫、九月を薄に桔梗に葛、十月を菊花、十一月を几帳と文臺に料紙、十二月を雪中の虎とし又陶器の分は一月を朝日鶏、二月を檜扇に梅、三月を左近の旭櫻、四月を桐鳳凰、五月を公園瓢池の藤、六月を鍾馗、七月を若竹に鷄、八月み月に兎、九月を白菊、十月を右近の橘、十一月を稻穂、十二月を石川門の雪景としたるが何れも精巧を極めたり——（北陸新聞）——

御大典に就き金澤市より献上すべき衝立は目下石川縣立工業學校で製作中だから記者は其模樣を聞くべく志筑校長を同校に訪ふた校長に記者を製作場に伴ふて極めて親切に一々説明を與へられたが單に素人として實地に見聞した一斑を紹介するの外はないのである」衝立の大さは丈は六尺六寸幅七尺五寸と云ふ實に素晴しい物で縁は蠟色塗生地と腰板は神代杉で作られ腰板には梅の透し彫りが出來て居る生地の片面には九谷燒の粹を盡したる色紙形十二枚が嵌込れる而して他の片面には金澤蒔繪の特長を發揮したれも十二枚の色紙形が嵌め込まれるので何れも六寸に七寸の大さである製作は約八分通りまで進行し本月中には完成するとのことである九谷燒の方はと云へば第一着に色紙形の生地の作製に就き非常に苦心をしたのださうで元來圓筒形の物を燒くには左程骨も折れないが平面板の面も僅に二三分の厚さのものを燒き付ける事は極めて至難の業でトモすると板面に狂ひが來る製傷が生じる殊に之れまで當業者間

に於ても同校に於ても曾て作製を試みた事がないさうである夫れから此色紙面の圖案は何れも聖代の瑞象に因み且つ極めて幽婉の雅趣あるものを選擇したので十二月の花鳥風月が畫かれてある其内御祓の圖（七月）涙に兎（八月）稻（十一月）の如きは最も九谷燒の氣體を極めたもので瑠璃色の如き燒付けには非常の苦心を要したとのこと其他桐に鳳凰（五月）の金地の如きは全く艶消にして奥床しい氣分を發揮せしめたなど一と通りの工夫でないことを察せらるゝのである

一面蒔繪の方も同じく十二ヶ月の模樣で大体が前と相似て居り吉祥瑞氣に因めるものである即ち一月の若松は新春の瑞氣漲る大空に不老長生の壽を畫きたるもの、二月宮殿の圖は幽嚴壯麗なる殿閣の傍らに在る梅の古木に小鳥の千代を謠へる模樣、三月の櫻は天女も降りやせんと思はるゝ梨地に樹立の櫻を畫きたるもの、四月蝶と鳥は所謂鳥が謠へば蝶が舞ふなる陽春の景で南洋產の貝の彩色は實に美事なり、五月あやめは兼六公園の夫れを模したるもので白色の花瓣は丁貝を以て作らる、六月の杉森は銀月林間にかゝれる處其神々しさは亦格別なり、七月の螢は世の暗黑も心の灯火に依て迷ふことなき古の教びに傲ひしものとも見るべきか螢は青具の嵌込み、八月秋草の圖は氣澄み物靜なる野邊の草花は百卷の書にも勝りて修養の好伴侶たるべきか　九月竹に鈴虫は未成品で作者の卓上には鈴虫の實物が小さな籠の中に描寫の光榮を謝し居る樣に見えた、十月は菊花で、十一月の几帳は紅葉の模樣を散らし側の机上に鹿の文鎭を見はせるもの、十二月雪中の虎は皇后陛下の御干支より七つ目に當れるを祝し奉り畫きたるもの、以上は極めて淺薄な見方であつて且つ未成品ではあるが之れが獨々成工して賢き邊の何處にか飾り付けられた時は實に其の立派さが偲ばるゝ尙志筑校長の談に依ると何分にも作成の期日が短かく九月の一日に起工して十月一杯に仕上るとすれば其間僅かに六十日しかない、普通一寸した盆の如きも一年の

歳月を要する譯であるから尋常ならば到底出來得べき限りではないが何れも絶大の名譽に驀進せられて献身的に從事した結果が即ち之れであるとのことであつた――(石川新聞)――

十一月三日。市は大禮奉祝に關し、書を以て豫め市民に注意する所あり。市民率由して絶えて一人の之に違ふ無し。

是日市は「大禮奉祝に關する注意」を印刷し各戸に頒布して以て率由する所を知らしめたり其注意書に云ふ

一、御大禮期間ハ各自靜粛恭敬ヲ旨トシ非禮ニ渉ラサル樣心懸クヘキコト

二、卽位禮當日(十一月十日)ヨリ卽位禮及大嘗祭後夜宴ノ儀ノ當日(十一月十七日)マテ各戸ニ注連繩ヲ張リ國旗ヲ掲クルコト

三、十一月十日紫宸殿御前ニ於テ內閣總理大臣カ萬歳ヲ發聲スル時刻(午後三時三十分)ヲ期シ卯辰山ニ於テ號砲ヲ發射ス之ヲ合圖トシテ一齊ニ萬歳ヲ奉唱スルコト

但シ異樣ノ物ヲ鳴ラスヘカラサルコト

四、大嘗祭當日(十一月十四日)及翌十五日市內各神社ニ於テ祭祀ヲ行ハルヘキニ付可成最寄リノ神社ニ參拜スヘキコト

五、十一月十日ヨリ同十四日マテ市議事堂ニ奉賀名簿ヲ備附ケ置クヘキニ付午前九時ヨリ午後四時マテノ間ニ隨意記名スヘキコト

六、旗又ハ提灯行列等ノ萬歳奉唱ノ用ニ供スルタメ出羽町練兵場內ニ萬歳臺ヲ設ク

七、旗又ハ提灯行列ニハ可成羽織袴ヲ着用スヘキコト

催シ物ハ服裝等特ニ注意スヘキコト

八、御大禮中ハ特ニ火氣ニ注意シ可成町內ニ夜廻リヲ設クル樣ニスヘキコト

○神職會の大禮奉祝方法　是より先き十月二十六日石川縣神職會金澤市支部は大禮奉祝方法に關し皇典講究所の發表したる左記方案を一般に行はしめんことを決議せり

御卽位禮當日

各戸ニ於ケル奉祝

一、大禮新年ノ儀ニ準シ門戸ニハ國旗ヲ揭ケ松竹或ハ榊ナトノ常磐木ヲ立テ注連縄ヲ張ルコト

二、神棚及靈屋ヲ淨メ供物ヲ奉リ鏡餅ヲ供ヘ其ノ他相當ノ裝飾ヲ施シ酒肴餅又ハ赤飯ヲ調ヘ一家團欒シ聖壽ノ萬歲ヲ祝シ奉ルコト

日蔭蔓ヲ門又ハ床柱等ニ懸クルモ可ナルヘシ

三、神社ニ參拜スルコト

公共的奉祝

一、式場ノ入口ニハ各自ノ門戸ニ於ケルト同樣ナル裝飾ヲ施シ尙式場適宜ノ場所ニ萬歲旛ヲ立ルモ可ナルヘシ

二、式ノ次第　來會者着席　一同敬禮　君が代合唱　祝辭　奉祝歌合唱　萬歲三聲合唱　一同敬禮　散會

萬歲ハ當日紫宸殿ノ御儀ニ於テ總理大臣萬歲ヲ唱フル時刻ヲ以テ之ヲ唱フルヲ可トス

三、街頭ノ設備　國旗ノ外注連縄、榊等其他成ヘク御大禮ニ緣アル物ヲ用ヒテ裝飾ヲ施スヲ可トス標ノ木ニ象リテ山車、山鉾等ヲ飾ルモ可ナルヘシ

大嘗祭當日

一、神社ニ參拜スルコト

二、當日官國幣社ハ勿論其ノ他ノ神社モ大祭アルヘキヲ以テ參列ヲ差許サルヽモノハ之ニ參列スルヲ可トス

三、酒食ヲ調ヘ神棚靈屋ニ供ヘ且家內一同會食スルコト

酒ハ白酒、黑酒、清酒、甘酒等適宜ニ用ヒテ可ナルヘシ

食ハ餅、飯、赤飯或ハ米、粟ノ粥等モ趣アルヘシ

菜ハ成ルヘク鰒、烏賊、鮭、鯛、鰹魚、鱈、鯉、鮒、昆布、海松、海苔、栗、柿、柑橘等御祭儀ニ緣アルモノヲ適宜ニ交ヘ用フル方可ナルヘシ

大饗當日

奉祝ノ宴會、餘興ナトモ此ノ日ニ於テ開催シ盛ニ祝賀ノ至情ヲ表スヘキナリ

門戸街頭ノ裝飾ハ御卽位禮當日ニ通スルモノトス

○大典奉祝に關する通牒　十月二十一日石川縣內務部長は大典奉祝に關する依命通牒を市長に致し奉祝は至誠質實を旨とし華美虛飾に流れしめざるやう指導を要めたり其通牒に云ふ

御大典奉祝ニ關シテハ專ラ至誠質實ヲ旨トシ徒ニ華美虛飾ニ流レ之カ爲負擔ノ重キヲ來サシムルカ如キコト無之樣豫テ夫々御指導相成居候儀ト存候處地方ニ依リテハ右奉祝ノ爲ニスル裝飾用ノ物件若クハ門松等ノ價格形式等ヲ一定シ之カ調製ヲ爲サシメ其奉祝費トシテ寄附募集ヲ爲ス等ノ向モ有之ヤニ聞及候趣ヲ以テ其筋ヨ

リ通牒ノ次第モ有之候條能ク地方民ノ負擔ヲ顧ミス强テ斯ノ如キ計畫ヲ實行セムトスルニ於テハ是カ爲下層者等ニ對シ少カラサル苦痛ヲ感セシムルノ虞ナキニアラスト被存候此際是等ノ點ニ付テハ十分御留意ノ上苟モ奉祝ニ關シ負擔ニ苦マシムルカ如キ事無之樣可然御措置相成度候也

十一月十日。昧爽慶鐘鳴り、午下祝砲轟く。市中は國旗風に飜り、裝飾善を盡し、瑞祥の氣空に漲り、慶驩の聲衢に盈てり。人皆斯の如く盛大莊嚴なるは、開市以來、未だ曾て比類を睹ずといふ。

是日午前五時寺院は百八の慶鐘を撞き午後三時師團は百一の祝砲を發ち市中は戸毎に國旗を揭け注連繩を張り尙軒提灯を吊るもあり殊に本通各町は街頭に綠門を樹て軒頭に幔幕を張り裝飾は華美を避けたれども莊重敬虔の趣を失はず瑞氣碧空を蔽ひ歡聲巷衢に溢れたり舊藩時代に於ける諸般の慶事並に明治時代に於ける開市祭の類も負

本通の裝飾（其壹）

南町通

石浦町通

本通の裝飾（其貳）

十間町通

片町通

安江町通

に之に及ばじと古老は語り合へり

【參照】

橋場町　高さ八尺許りの白木綿を以て樹身を掩ひし柱を三間程隔て、建て天地を赤とせる中に一筋の白線を抜たる幕を張り柱の頂點に注連を結びたる榊を附し柱と柱の中間には抱菊に奉祝の文字を記したる棗形の提灯を吊し一樣の國旗を掲出せり

尾張町　全町一帶白地に菊と鳳凰とを藍色に染め出したる幕を張り廻し紅燃ゆる新調の日章旗と共に棗形の奉祝提灯を掲げたり町が眞直なるだけ揃つて美し又博勞町にては青白の幕を張り松の翠し枝に菊桐を描きたる提灯を吊り國旗を掲げたり

十間町　大和田銀行の前面をトして町幅一杯の大綠門を設け翠滴たる杉の葉越しに奉祝と菊花にて織りたる扁額を掲げ其の上に櫻と橘とを兩面に別ち門の尖頭に數竿の日章旗を樹て門柱には電燈を中心として月桂樹を表し額の四方に電燈を取付けたる外、街路一面に萬歲旛と日の丸とを交互にせる彩旗を縱横に張渡し軒毎に桐に鳳凰を描ける提灯を吊し國旗を掲揚せり

安江町　紅白の幕を兩側一面に張り渡し日の丸に奉祝と記せる提灯を吊り前口五間以内は一旒、五間以上は二旒の萬歲旛を飜して竿頭なる金色の三叉劍に燦々たる日光を映せしめ、町内の一個所には御尊影を奉安して紫縮緬に菊花を染め抜きし幕を張り街上に白木作りの枠を置き幣を添へし榊を樹て注連縄を張れり

兩堤町　上堤町にては青白の段々幕にて西側の軒を覆ひ松の頂花に金色と銀色の小短册を吊し奉祝の二字と日の丸とを記せる白張の提灯を掲げ外に新調せる揃の國旗を慶風に飜せり又下堤町にては紅白の

段々幕を兩側の軒に垂れ幕の上部に金屬製の大菊花を配し中に電燈を取付けたれば夜間は内部の朱塗に反映して彩華眩然たり其下方に白地に奉祝と記せし楕形の提灯を吊れり

南　町　北國新聞社前と十二銀行の前と兩方に高御座を象りたる綠門を建設し街の兩側には淺黄と白の段々幕を隈なく張渡し白地に奉祝と記せる奉提灯を吊り新調せるモスリンの日章旗を戸毎に飜へせり

石浦町　日本銀行支店の前に直線式の奉祝門を樹てたるが兩柱の上部に奉祝の二字を月桂樹に包みて布を長く垂らし門の頂上に萬歳旛と國旗とを順序よく排列し眞中には目も覺むるばかりに出來上りたる造花の菊と桐と抱合ひたる花環を掲げ夜間は之にイルミネーションの裝飾をなせり町の兩側には紅白の段々幕を張廻し四尺六寸の奉提灯に日の丸と奉祝の二字とを記せるを軒毎に掲げ尙配するに新調せる日章旗を以てせり

片　町　各町と趣向を異にし戸毎に眞白の奉祝電燈を取り之を包むに紅白の菊花を以てし店前には榊を植ゑ竹簀にて根を固め楕形の白張提灯に日の丸を描き國旗を掲げ香林坊と屋川大橋側とへは大榊二本宛を植ゑ記念のため十八日には石浦神社へ寄附すべしといふ――（北國新聞）――

市内大通筋に於ける裝飾の中石浦町の奉祝門は費用のかゝりしだけ見事に出來て人目を惹き十間町の綠門は格好の整へるを取柄とし南町の綠門は上部に造れる鳳凰か呼物となれるものゝ如し其他の各町又思ひ思ひの裝飾を凝し町内各所に儲し物をなせるか取分け近江町は道幅の狹き爲兩側に吊れる提灯の重なり合はん許に賑はしく夜に入れは宛然灯の林を潛るに似て壯觀を極め居れり殿町にては門並に翠滴たる竹を植え注連縄を張渡し奉祝提灯を吊り森下町は新調の奉提灯に美を競ひ居れるが草津の湯より以北は丸形の提灯にて目先を變へ上石引町は一定の幕に提灯を添へ中石引町は提灯に注連縄を張りたり其他の

各町何れも大同小異にて夜は到る處奉祝の燈光燦然ならざるはなく加州銀行の奉祝綠門亦燦然として行人を眩惑せしめ居れり――（北國新聞）――

是日市會を開き、敬んで賀表を譔定し、市長をして親ら捧呈せしむ。市長因りて京都に上り、十一日宮内省出張所に其執奏を請へり。賀表に曰く。

日神ノ垂統天壤ト偕ニ窮ナク
列聖ノ繼述日月ヲ重子テ光アリ臣隆誠歡誠
喜頓首頓首伏シテ以ミルニ
陛下聖明　天心ノ眷ル攸　神器ノ傳フル攸
福應益顯レ國運益盛ナリ本日ヲ以テ　卽位
ノ大禮ヲ行ハセ給フ群僚祥光ヲ仰キ黎民休
徵ヲ慶フ洵ニ曠古ノ盛儀ナリ臣隆誠歡誠喜

頓首頓首伏シテ以ミルニ

陛下聖明

祖宗ノ遺烈ヲ承ケサセ給ヒ

先帝ノ洪範ニ則ラセ給ヒ百工惟レ時ニ庶績

惟レ熙ル文物益盛ニシテ武威益揚リ　皇風

六合ニ遍ク　聖德八紘ヲ掩ヒ中外ノ悅服萬

邦ノ瞻仰至レル哉大ナル哉臣隆此大禮ニ會

ヒ抃舞ニ勝ヘス市會ノ決議ヲ以テ市民ニ代

リ表ヲ上リ伏シテ　寶祚ノ無疆ヲ禱リ奉ル

臣隆誠歡誠喜頓首頓首謹言

大正四年十一月十日　金澤市長勳四等臣山森隆上表

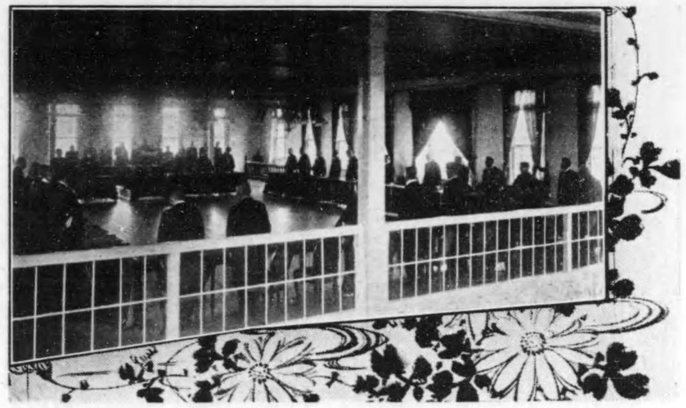
賀表を宮內省に捧呈したる

市長　山森　隆

獻上品を赤阪離宮に献納したる

助役　飯尾　次郎三郎

即位の禮當日の市會



議長林直賀表案を朗讀す

市會議長　林　直

市會副議長　横井伊佐美

是日午後二時市會を開く賀表調査委員清水兼之起ちて言ふ

本員ハ賀表調査委員會ノ經過ヲ報告スルノ光榮ヲ荷ヒ欣喜ノ至ニ堪ヘス昨日開キタル委員會ニ於テ文案ニ對シ一句一字ヲ改メスシテ是認シタルニ因リ議決ノ上ハ市長自ラ上京捧呈セラレンコトヲ決議セリ各員ノ賛成ヲ請フ

此に於て議長林直恭敬の態度を持し起ちて賀表の文案を朗讀し全員起立して敬意を表し些の異議なし

晡に及ひ市長山森隆（市書記河崎吾郎隨行）賀表を捧持して京都に之き十一日宮内省總務課出張所に出頭し式部官に面し親しく賀表の執奏を請ひ十二日歸れり

○賀表捧呈の決議　是より先き十一月八日市會を開き市長山森隆劈頭起ちて謹嚴の態度を以て陳へて言ふ

聖上陛下御即位ノ大典ヲ擧ケサセラレ國民ハ空前ノ御盛儀ニ遭遇シ普天ノ下率土ノ濱悉ク歡喜ニ滿ツ此時ニ際シ市會ノ決議ヲ經テ

賀表ヲ奉呈セント欲ス諸君ノ賛成ヲ請フ

議員清水兼之之を賛し尚賀表調査委員五名を選み委員は議長の指名に一任せんことを發議し滿場之を容る議長林直因りて委員を左の如く指名せり

杉原幹男　油谷定吉　横井伊佐美　飯谷與右衛門
清水兼之

是日功績を錄して位階を贈られたる者、市に三人あり。安達幸之助に正五位を贈られ、清水誠・關口開に從五位を贈られたり。是より先き、市は功績を精覈して上申したる者、實に三十有餘人に及べり。

○功績者内申の訓令　三月二十四日石川縣知事は市に訓令し功績を内申せしめて云ふ

今年秋冬ノ間ニ於テ行ハセラルヘキ卽位ノ禮及大嘗祭ハ　至尊一世ノ盛儀ナルヲ以テ我國民齊シク滿腔敬虔ノ誠意ヲ捧ケテ皇運ノ隆昌ヲ禱リ期セスシテ思ヲ建國ノ由來ニ致シ擧國一心誓テ金甌無缺ノ國體ヲ愛護シ祖先思誠ノ赤心ヲ承述シテ奮勵努力益國史ノ成蹟ヲシテ永遠ニ光輝アラシメム事ヲ冀フノ秋ナルハ申ス迄モ無キ所ナリトス依テ此ノ機會ニ於テ古來國家ニ功ヲ建テ績ヲ顯ハシタルモノニシテ未タコレニ相當セル表彰ノ典アラサル者ニ對シ贈位ノ恩命ヲ降シ給フニ於テハ聖恩枯骨ニ及ヒ世道人心ニ裨益スル所亦誠ニ尠カラスト認ラルヽヲ以テ左記各號ニ該當シ功績永ク後代ニ殘リ大ニ國家ノ進運ヲ扶翼シタル者ヲ精選シ贈位方内申スヘシ

一皇室國家ニ對シ精忠ヲ抽テタルモノ

一文化風敎ノ爲貢献シタルモノ

一殖産興業ノ爲盡瘁シタルモノ

○功績者の内申　市は石川縣知事の内訓に本づき國家の進運を扶翼し其功績顯著なる者の事歴を詮衡して内申したるは左記の如くにして清水誠暨び關口開は實に其中に在り

皇室國家に對し精忠を抽てたる者　十一人
文化風敎の爲に貢献したる者　十九人
殖産興業の爲に盡瘁したる者　六人

○贈位者の功績　贈正五位安達幸之助・贈從五位清水誠・贈從五位關口開の事歴は大概左記の如し

安達幸之助

幸之助は兵部大輔大村益次郎の門人なり益次郎任に軍務總督に就くや我邦兵制の改革を畫策するところあり幸之助軍務官を以て其審議立案に預れり益次郎京都に在りて難に遭ふや幸之助身を以て師に代らんと欲し自から益次郎なりと名いひ奮戰して遂に斃れしかば賊首を斫りて去れり益次郎間を得て免れ大阪病院に療養し臥蓐六旬兵制改革の意見を悉し三條公に建議し公概ね之を容れ次を以て時に行はれたるは幸之助殉難の私説なりといふ

【參照】

安達幸之助ノ事歴

其一、我國兵制ノ改革ト其殉難者　明治二年九月四日賊數輩兵部大輔大村益次郎ヲ京都木屋町ノ客舍ニ襲ヒ益次郎ヲ傷ケ座客安達幸之助ヲ殺ス幸之助ハ加賀藩士ニシテ曾テ益次郎ニ學ヒ其薦ヲ以テ現ニ軍務官兵學二等教授ニ任シ伏見練兵館ヲ督シ常ニ益次郎ノ輔翼ニ參セシモノナリ是ヨリ先キ幕府大政ヲ返上シ諸藩封土ヲ返還スルヤ朝廷諸藩士ニ命シ各知藩事ノ職ヲ以テ兵馬財政ノ權ヲ掌ラシム益次郎兵部大輔ニ擧ケラレ軍務總督ノ任ヲ帶フルヤ深ク海外ノ形勢ニ察シテ我國陸海軍ノ基礎ヲ固メントシ鋭意畫策スル所アリ幸之助其信託ヲ受ケ一切改革ノ事審議立案セサルナシ當時改革ノ條目ハ徵兵令、廢刀令、廢藩置縣ノ議、海陸兵學校ノ擴張、造兵局ノ新設、七道鎭臺ノ分置等ニ渉ル而シテ徵兵令ヲ布クニ先チ諸藩ノ常祿ノ士ヲ解キテ親兵ヲ海内ニ募ルノ議アリ將ニ頒布セラレントス守舊頑迷ノ徒聞テ之ヲ喜ハス乃チ益次郎ヲ刺シテ以テ事ヲ沮止セント欲シ相率ヰテ其居ヲ襲ヒシナリ是日益次郎幸之助ト客舍ノ樓上ニ對坐ス賊十餘名突然闖チ排シテ入ル幸之助事急ナルヲ見、身ヲ以テ其師ニ代ラントシ自ラ益次郎ナリト名リ刀ヲ拔キテ衆ニ當ル奮鬪數刻終ニ創ヲ被テ斃ル益次郎間ヲ得テ逃カレ階下ノ浴槽内ニ潛ム賊幸之助ノ首ヲ斬リ大村益次郎ノ頭ヲ得タリト叫ヒ共ニ歡呼シテ去レリ益次郎死ヲ脫スルヤ深ク幸之助ヲ惜ミ爲メニ奏請スル所アリ朝廷幸之助ノ遺子ニ金百五拾兩ヲ賜セラレ命シテ東山ノ靈山ニ葬リ少將鷲尾隆聚ヲシテ兵ヲ率ヰテ護送セシメラル遠近之ヲ榮トス當時賜フ所ノ書ニ曰ク

昨夜大村兵部大輔旅館ヘ狼藉者入込候節拔刀及鬪爭遂ニ致横死候ニ付不取敢爲葬送手當金百五拾兩被下候事

九　日

益次郎傷ヲ養フコト六旬終ニ起タス十一月五日逝ク然レトモ夢ニ在ルノ間一切軍制改革ノ意見ヲ草シ之ヲ三條公ニ呈ス公概ネ之ヲ可トシ次ヲ以テ時ニ行ハル蓋シ我國陸海軍ノ基礎主トシテ益次郎ノ献替ニ出ツルト言フモ亦大過ナシト云フ按スルニ維新兵制ノ改革ハ其國運ノ發展ニ資スルコト極メテ重且大ナルモノアリ後年日清日露ノ役ニ武名四海ニ揚ルニ及ンヲ最其然ルコトヲ見ル而シテ益次郎ノ名ハ青史ニ赫奕タリト雖獨リ幸之助ニ至テハ湮滅世ニ傳ハルナシ眞ニ憾ムヘシトナス故ニ其行事ヲ叙スル略ノ如シ

其二、幸之助ノ略傳　安達幸之助名ハ寛栗藩士辻平之丞ノ家臣中宮五左衞門ノ第二子ナリ稍々長シテ藩士園川某ノ家僕トナル時新正ニ當リ某幸之助ヲシテ賀客ノ姓名ヲ錄セシム既ニシテ一客到ル幸之助其名ヲ書スル能ハス字ヲ同僚ニ問フ同僚幸之助ヲ罵リ且之ヲ撲チテ曰ク嗚這個ノ易文字ヲ知ラサルカト幸之助大ニ慚憤シ其夜市ニ往キテいろは節用集ヲ購ヒ連夜之ヲ繙キ刻苦勉勵一字ヲ記憶シ了ル毎ニ書中其字アル所ヲ斷チ之ヲ嚼下シ終ニ全篇ニ及ヘリト云フ後藩儒井口濟ノ門下ニ入リ勉勵衆ニ超エ期年ニシテ樹立スル所アルニ至ル天保中藩ノ足輕安達六郎ニ養ハレ其後ヲ襲ク安政三年足輕小頭トナリ尋テ江戸ノ邸ニ役シ途ニ請フテ留リ西洋學ヲ村田藏六ノ門ニ受ケ主トシテ兵書ヲ學フ幸之助精勵比ナク夜ヲ以テ晝ニ繼キ徹宵寢ニ就カス几ニ倚リテ機ニ假眠スルノミ斯クノ如キモノ數年業大ニ進ミ遂ニ識拔セラレテ其塾頭ト爲ル萬延元年幕府幸之助ヲ聘シテ西洋兵學ヲ講武所ニ講說セシメ賞賜スル所アリ翌年藩ニ歸リ擢テラレテ徒士ト爲ル壯猶館教授ニ任シ洋書ヲ飜譯ス慶應三年新番徒士ニ進ミ俸六十包三斗ヲ受ク明治元年命ヲ受ケ京都ニ出テ藏六ニ邂逅ス藏六時ニ大村益次郎ト稱シ征東官軍ノ參謀トナリ將ニ東下セントス因テ幸之助ヲ薦メ伏見兵學校ノ教授ト爲ス東北鎭定シ益次郎京都ニ歸リ三條木屋町ノ旅舍ニ宿ス幸之助屢〻往來シテ事ヲ議ス會〻一夜賊數人拔刀突入シ一擊益次郎ヲ斬ル幸之助刀ヲ拔キ賊ニ當ル力闘數刻終

ニ創ヲ被テ斃ル年四十七時ニ九月四日ナリ益次郎モ亦尋テ卒ス官二人ノ死ヲ悼ミ各賻ヲ賜ヒ官費ヲ以テ之ヲ葬ル

其三、幸之助ノ事業　萬延元年幕府ノ聘ニ應シテ講武所ノ教官トナリ西洋ノ兵學ヲ講說ス文久元年加賀藩壯猶館ノ教授ニ任セラレ在職八年其間藩士ノ子弟ニ教ユルニ西洋兵學ヲ以テスルノ外治務ノ海外ニ關スルモノハ概ネ諮問ニ與ラサルナク或ハ外國ノ事物ヲ調査シ或ハ原書ヲ飜譯シ或ハ大砲小銃彈藥製造等ノ議ニ參ス戊辰ノ役官軍長驅シテ越後ノ賊ヲ征スルヤ其ノ使用スル所ノ武器概ネ加賀藩ヨリ提供ス而シテ之ヨリ先キ加賀藩ニ於テ豫メ之ヲ選擇シ之ヲ充實セシモノハ主トシテ幸之助ノ力ナリ明治元年軍務官ニ徵セラレ兵學二等教授ニ任シ伏見練兵場內兵學校(今ノ海軍兵學校ノ前身)ヲ董督シテ兵學及英書ヲ教授シ傍ラ大村益次郎ヲ輔ケテ我國兵制改革ノ議ニ參與ス二年九月四日賊大村益次郎ヲ襲擊スルヤ代テ難ニ死ス益次郎亦タ負傷ノ爲メ終ニ起ツヲ得サリシト雖モ伏罪六旬ノ間ニ一切兵制改革ノ意見ヲ編成シ之ヲ錄シテ三條公ニ上ルヲ得タリ是實ニ幸之助殉難ノ私既也——(傳前田侯爵家編修調査)——

清水誠

誠は明治七年を以て再び佛國に留學す會〻吉井友實巴里に漫遊し旅舍に誠と相語り本邦輸入の輸出に超ゆるを慨き卓上の燐寸を指し其輸入を仰ぐの愚を笑ふ誠心大に動き歸朝の後燐寸を創製せんことを誓ふ我邦の燐寸業は實に此時に胚胎せり八年誠歸朝し新燧社を東京に起し次で清國に輸出せり後ち瑞典に赴き安全燐寸の製

法を究め歸朝して益〻斯業を隆にし經營慘憺たりしが十三年に至り始めて燐寸の輸入を杜絶し次で各種の燐寸製造機械を發明せり誠は實に我邦燐寸製造の始祖なり

【參照】

清水誠ハ弘化二年十二月二十五日ヲ以テ金澤安江町ニ生ル舊氏ハ嶺通稱金之助嶺新兵衛ノ五男ナリ世々加賀藩前田侯ニ仕フ誠幼ニシテ出デ、清水氏ヲ繼ク天性慧聰ニシテ事務ニ敏ナリ夙ニ神童ノ名ヲ得タリ長シテノ後チ金澤藩ニ拔擢セラレ明治三年佛國ニ留學ス麻藩置縣ニ當リテ文部省ノ留學生トナリ六年冬工藝大學ニ入リ專攻ス七年春文部省ハ一時海外留學生ヲ廢ス是ニ於テ誠モ亦歸朝スルノ已ムヲ得ザルニ至ル會〻同國大學院金星經過測檢員ニ聘用セラレ月俸百弗ヲ得是ヲ當時我邦人ノ外國政府ニ招聘セラレタル嚆矢トス而シテ星學士「ジジャンサン」ノ我國ニ來ルヲ機トシ共ニ同年十月ヲ以テ歸朝シ十月九日神戸諏訪山ニ於テ其測檢ヲナセリ今尚ホ同地ニ其顚末ヲ記セル碑石アリテ存ス即チ左ノ如シ

（表　面）

I C I

OBSERV ON + PASS OF PLAN TE

VENUS

D + DECEME + 1874

COMM ON + AST + FRANC E

J. JANSSEN.

ACAD. DC PARIS.

LELACR OIX+CHIMI ZOU OBSS

KANDA Eq.T Cr.E DE HIOCTO

（裏　面）

佛國派出人員

長官星學士　ジジャンサン

附屬測檢　ドラクルワ

同　清水誠

兵庫縣令神田孝平在任

金星過日測檢之處

明治七年十二月九日

緯　赤道以北

經　巴里偏東

八年二月始メテ金澤ニ歸ル是ヨリ先キ明治七年夏佛國ニ留學中故宮內次官吉井伯佛國巴里ニ漫遊シ一夕誠ヲ旅館ニ招キ時事ヲ談ス偶〻卓上ノ燐寸ヲ見テ嘗嘆シテ曰ク近時本邦酷〻輸出入ノ平均ヲ失シ斯ノ如キ些品ニ至ルマテ悉ク輸入ヲ仰グヲ以テ益〻輸入ノ超過ヲ招致シ眞ニ國家ノ將來ニ關シ痛慮ニ堪ヘズ是ヲ以テ之ヲ防止セント欲シ本邦ノ學士ニ其製造ヲ議シタルニ斯業ハ實ニ危險ニシテ之ヲ爲スヲ得スト子幸ニ之ヲ起スヲ得ザルヤト誠曰ク本邦ハ由來山林ニ富ム之ヲ以テ其輸入ヲ防グガ如キ敢テ難キニアラズ其製法ノ如キハ余嘗ニ大學ニ於テ研究シツ、アルヲ以テ他日歸朝セバ奮ヒテ斯業ヲ起サンコトヲ誓フト

伯因テ頗ル喜ヘル色アリ抑モ本邦今日ノ燐寸業ハ此一夕ノ談話ニ胚胎シ實ニ伯カ臺國ノ至誠ニ出デシ賜ト云フベシトイフ八年四月東京ニ適キ三田四國町故吉井伯ノ別邸ヲ假工場トナシ燐寸業ヲ創始シ試賣セシニ到ル所頗ル好評ヲ博セリ當時燐寸ノ原料タル白楊樹ノ如キ未ダ何地ニアルヲ知ラザルヲ以テ人ヲ各地ニ派シテ搜索セシメ遂ニ日光ニ於テ之ヲ得後ヲ富士山及信州諏訪ニ於テ之ヲ得タリキ爾來數年ヲ經テ十四年ニ至リ始メテ北海道ニ白楊樹ヲ發見シ之ヲ伐採利用スルニ至レリ白楊樹ハ燐寸業ノ創始以前ニ在リテハ無用ノ長物ニ過ギザリシガ此ヨリ以後重要物產ノ原料品トシテ貴重セラルヽニ至レリ八年六月官ニ仕ヘ主船察七等出仕ニ補セラレ横須賀造船所ニ在勤スルヲ以テ別ニ人ヲシテ燐寸業ヲ管理セシメ公務ノ餘暇常ニ東上シテ之ヲ監督セリ同年主船察少匠司ニ進ム九年二月造船課長トナリ機械課兼務ノ命ヲ拜セリ而シテ誠ノ意タル燐寸業ヲ起シテ其輸入ヲ防ギ尙進ミテ海外ニ輸出セントノ大計畫アリシヲ以テ十二月官ヲ辭シテ一意燐寸業ニ從事ス當時燐寸ノ需用ハ益〻盛ナリト雖モ得失相償ハス前途甚憂慮スベキモノアルヲ以テ大久保内務卿ハ誠ニ内旨ヲ授ケテ曰ク造船ノ事至重ナリト雖モ他ニ人ナキニアラズ燐寸ノ業私事ニ屬スト雖モ而モ亦國家ノ輸出入ニ關ス君幸ニ退官シテ自ラ擔任セヨト是ニ於テ病ニ托シテ官ヲ辭シテ東京ニ移轉シ爾來專ラ斯業ニ從事スルニ至レリ

是ヨリ先明治九年三田四國町ノ假工場ヲ廢シ本所柳原町ニ一大工場ヲ創設シ呼デ新燧社ト稱セリ是實ニ本邦燐寸工場ノ濫觴ニシテ時恰モ維新ノ後日尙淺ク遊民無職ノ徒多クシテ士族授產貸民救助ノ論囂々タリシ際ナルヲ以テ該工場ニ於テハ務メテ人工ヲ用ヒ加フルニ本邦婦女子ノ習慣ニ倣ヒ之ヲ坐業トシ廣ク貧士族ノ婦女子ヲ集メテ就業セシメシハ則チ利用厚世ノ經綸ニ出デタリト稱ス大久保内務卿大隈大藏卿等屢々臨場シテ其措置ヲ嘉賞セリトイフ十年第一回内國勸業博覽會ハ風紋賞牌ヲ授ケテ其有功進歩ヲ

賞シ同年九月始ヲ其燐寸ヲ上海ニ輸出シ試賣セシニ頗ル好評ヲ得タリキ是レ實ニ本邦燐寸輸出ノ嚆矢ナリトス十一年七月甜菜砂糖製造方法取調ノ爲ニ歐洲ヘ派遣ヲ命セラル是ヨリ先誠横須賀造船所ニ在リテ官務ノ餘暇甜菜糖ヲ製シテ輸入糖ヲ防止センコトヲ企圖シ佛國ヨリ甜菜種ヲ得テ自ラ之ヲ栽培シ甜菜糖ヲ試製シテ大隈伯ニ觀メス伯大ニ喜ビ今ヤ燐寸業ハ稍其緒ニ就キタルヲ以テ更ニ進ンデ製糖業ニ從事セヨトノ内旨ヲ授ク是ニ於テ甜菜糖調査ノ命ヲ蒙ルニ至リ再ヒ渡歐ノ途ニ上リ往テ佛國ニ赴クヤ當時歐洲巡回中ノ松方伯ハ已ニ人ヲシテ甜菜糖ノ調査ニ從事セシメツヽアルヲ以テ更ニ誠ハ佛、獨、瑞ノ三國ヲ巡回シテ燐寸ノ調査ヲナスベキコトヲ命ゼラレ三國ノ燐寸業ヲ詳細ニ調査シテ翌十二年四月ヲ以テ歸朝ス後官ハ北海道ニ於テ甜菜製糖所ヲ設立セリ而シテ此ノ巡回中不幸ニシテ新燧社ハ火ヲ失シ其諸工場諸機械及原料品等悉ク烏有ニ歸シタリ誠ノ瑞典國ニ赴クヤ安全燐寸ヲ發見セシ同國「ヨンコピング」燐寸製造會社ノ工場ヲ探知セント欲シテ苦心セシガ同社ハ元來厳則ヲ立テヽ他見ヲ許サズ爲ニ徒ニ遠ク彼國ニ赴クモ其効果ナキヲ慮リ佛國ニ到着ノ日ヨリ百方其衝策ヲ講究シ數月ヲ經ルノ間幸ニシテ同社「ストツクホルム」銀行ヨリ資金ヲ仰グヲ以テ此銀行ニ對シテハ百事謝絶シ得ザル情實ノ關係アリ又此銀行ハ「フランス」銀行ノ恩惠ニ浴シ居ルコトヲ探知セシヲ以テ漸次其手續ヲ經テ遂ニ「ストツクホルム」銀行頭取ヨリ「ヨンコピング」燐寸製造會社長ヘ宛タル信書ヲ得タリキ是ニ於テ佛國ヲ發シ急行着瑞シタルモ此信書タル素ヨリ一種ノ奇計ニヨリ得タルモノナルヲ以テ直ニ目的地タル「ヨンコピング」ニ行クヲ得策トセズ爲ニ故ラニ他ノ市邑ニ滯在シ諸工業視察員ヲ裝ヒ優遊無用ノ諸工場ヲ巡視シ又時々其地ノ新聞ヲ利用シテ己カ動靜ヲ記載セシメ務メテ世人ノ嫌疑ヲ避ケ漸クニシテ「ヨンコピング」ニ赴カントセシニ時會〻北歐ノ厳冬ニ際シ降雪頗ナリ汽車中ノ一旅客私ニ誠ニ諫メテ曰ク假令如何ナル信書アリト雖モ同社

ハ嚴確ナル法則ヲ立テヽ他見ヲ許サズ然ラハ則チ往クモ亦何ノ効カアラン寧ロ此ヨリ歸途ニ就クヲ得策ナリトスト然レドモ誠之ヲ聽カズ遂ニ「ヨンコピング」ニ到着シ同社ニ到リ信書ヲ出シテ縱覽ヲ乞フコト慇懃ナリ果シテ謝絶シ得スシテ社長自ラ先導スト雖モ實際他見ヲ厭フヲ以テ社長ハ歩ヲ速メ去ルヲ以テ奇法珍機ノ目ニ觸ルヽモノアリテ停立スレハ則チ直ニ制止セラレテ熟視スルコト能ハズ剩ヘ中途ニシテ誠ノ必ズ日本ノ燐寸業者ナルヲ知リ縱覽ヲ謝絶ス通辯爲ニ百方辯解シテ各地工場巡回ノ狀況ヲ述ベ辛フシテ其疑心ヲ解キ續テ縱覽ヲ全フシタリ抑々該社ノ工場ハ安全燐寸ニ於ケル世界第一ノモノニシテ其製造高モ日々百噸（一噸ハ小爾七千二百個入）以上ニ達ス故ニ僅々一時間以内ノ縱覽ナリト雖モ其間諸種ノ要點ヲ知了スルヲ得テ我燐寸業ノ上ニ非常ノ利益ヲ與ヘタリ誠歸朝ノ後災後ノ困難ヲ排シテ工場ヲ再設シ製造法ヲ改良シ社員ヲ上海香港等ニ派遣シテ一時盛ニ輸出ヲナシ大ニ事業ノ振張ヲ見タリ誠ノ志素ト國家輸出入ノ不均衡ヲ慨シ先ツ燐寸ニ於テ之カ輸入ヲ防止シ其輸出ヲ盛ナラシメントシタルモノナレバ人ノ斯業ヲ始メントスルモノアルトキハ自己ノ利害ヲ顧ミズシテ唯リ製法ヲ教授スルノミナラズ原料機具ニ至ルマデ之ヲ調進シテ授ケタルモノ鮮カラズ神戸監獄署、北海道監獄署等ハ其主ナルモノニシテ一個人ノ營業ニ係ルモノ亦頗ル多シ是レ實ニ短期間ニ斯業ノ全國ニ傳播興起シタル所以ナリ十二年夏全國唐物商人ヲ綱羅シテ開與商社ヲ設立ス是當時輸入燐寸ノ賣捌ハ一ニ該商人ノ手ニ係リシヲ以テ輸入品ニ換フルニ本邦製品ヲ賣捌カシメントノ方案ニ出デシモノナリ而シテ翌十三年夏ニ至リ全然燐寸ノ輸入ヲ防止シ得創業以來五箇年ノ苦心經營ヲ經テ拔ニ始テ輸入防止ノ素志ヲ貫徹シ巴里ニ於ケル吉井伯トノ盟約ヲ全ウスルコトヲ得タリ十四年第二回内國勸業博覽會ハ新燧社ノ燐寸ニ對シ進歩一等賞ヲ授ケテ以テ大ニ誠ノ名譽ヲ表彰セリ是ヨリ先キ新燧社ハ輸出開始以來全然好評ヲ博シ遂ニ舶來品ト同價ヲ以

テ販賣スルニ至リ頗ル利得アリテ大ニ世人ノ注意ヲ惹ケリ是ニ於テ俄然トシテ全國諸所ニ燐寸工場起リ其製造增大セリト雖モ其結果粗製濫造ニ流レ甚シキニ至リテハ點火セザル惡品ヲ出シ外國人ハ一般ニ日本製品ヲ粗惡ナリトシ誠ノ新燧社ノ如キモ亦其影響ヲ受ケ輸出滯滯シテ頗ル困難ノ境ニ陷リタリ加フルニ先年ノ火災ニ由リ内外人ヨリ借入レシ負債償却ノ目途立タス已ムヲ得ズ負債償却ノ延期ヲ内外人ニ懇請シ辛ウシテ十八年ノ秋ニ至レリ此間ノ苦心慘憺眞ニ名狀スベカラザルモノアリテ存スルモ能ク不撓不屈ノ精神ヲ確持シ人ヲシテ感嘆セシメタルモノアリ誠ハ斯ル厄難ニ際シテモ尙且工業者ノ名譽トシテ一日モ其製造ヲ中止セズ甚シキニ至リテハ石炭ニ欠乏ヲ生シ止ムヲ得ズ工場ノ一部ヲ破壞シ汽罐ニ投シテ尙製造ヲ支持スルニ至レリ二十年東京府工藝品共進會ニ於テ金牌ヲ受領シ且出品人總代ヲ命セラレ又其事業モ漸次復興シ其產額ノ如キモ殆ンド以前ニ復シ前途稍好望ヲ見ルニ至リシカ翌二十一年十二月外國債主ノ爲ニ迫ラレ止ムヲ得ズ新燧社ヲ解散シテ鄕里金澤ニ退隱セリ其間ニアリテハ二十八年ニ第四回内國勸業博覽會審査官ヲ命セラレ第一部員トシテ尙燐寸ノ審査ニ任シ二十九年十月特許第二七九六號摺附木軸排列機ノ特許ヲ得タリ本機ハ極メテ簡便ナル効力ヲ有スルガ故ニ女工一人ニテ人工十五人以上ノ作業ヲ爲スヲ以テ原價ヲ低廉ナラシメ燐寸業ヲ漸次益々旺盛ナラシムルニ與リテ大ニ力アルハ世人ノ夙ニ稱贊スルトコロナリ三十年大阪市今橋ニ移住シ市外ニ工場ヲ設ケテ旭燧舘ト稱シ專心燐寸業ノ改良ニ從事シ終テ燐寸機械ノ革新發明ヲ企圖シテ更ニ餘念ナカリキ是年六月特許第二九〇八號ヲ以テ更ニ燐寸軸排列機ノ特許ヲ得之ヲ製作販賣シテ遂寸業ヲ益セシコト多シ三十二年二月八日病ノ爲ニ死セリ享年五十又四金澤玉泉寺ニ葬ル男武雄家ヲ嗣ク——（金澤市役所調査）——

關口開

開幼より和洋の數學を兼習して夙成の名あり洋算を普及して以て數學の進歩を計らんと欲し明治三年數學稽古本を譯し四年數學問題集を輯し六年新撰數學を著し殆ど全國に行はれ刊本前後二十一萬部を超えたりといふ其他數學の著譯二十餘種あり十五年東京に數理書院を起して數學書の出版を計り金澤に衍象舍を創めて數學を諸生に授けたり

【參照】

關口開ハ天保十三年七月金澤ニ生ル幼名安次郎後甚之丞復ヲ開ニ改ム松原新吾ノ第四子ナリ出テヽ加賀藩ノ定番步士關口甚兵衛ノ養嗣子トナル安政五年始メテ藩ニ仕ヘ文久三年家ヲ繼キテ養父ノ職ヲ襲キ切米四十俵ヲ給セラル慶應二年京都守衛ノ班ニ加ハリテ京師ニ之キ居ルコト殆ド一歲明治元年奥羽征討ノ軍ニ從ヒテ功アリ官ヨリ金三兩ヲ賞賜セラル開幼ヨリ藩ノ數學師範人御算用者瀧川秀藏ニ就キテ和算ヲ學ビ夙成ノ名アリ初段中段ヲ歷元治ノ初メ和算免許相傳算法指南勝手タルベキ許ヲ得タリ文久二年戸倉伊八郎藩ニ聘セラレ來リテ御厩教師トナリ航海測量ノ事ニ從フ開就キテ泰西ノ數學ヲ習ヒ明治二年藩ヨリ洋算教授役ヲ命セラル會〻同志坂井良輔長兄松原匠作ト相謀リ瀧川流算祖瀧川有介ガ嘗テ密ニ謄寫シ置ケル本多利明ノ著書並ニ譯書等ニ就キテ高等代數學幾何學三角法測量學軸式幾何學微分術積分術重學等ノ源委ヲ推究シ又岩田某ニ就キテ原書ヲ習ヒ既ニシテ英和辭書等ニ依リ獨學自解シテ終ニ泰西ノ算書ヲ解譯スルコトヲ得開賦性機慧物皆其原理ヲ究メサルハ莫ク爲ニ寢食ヲ廢スルコト連日當時泰西ノ算書ヲ解譯スルニ克ク其困難ニ堪ヘタルハ人ノ驚嘆シテ措カザル所ナリ開夙ニ洋算ヲ普及シテ以テ數學ノ進步ヲ圖ルノ志アリ明治二年初メテ數學稽古本ヲ譯成シ四年數學問題集ヲ輯シ藩ノ學校藏書係之ヲ出版シテ學生ノ修學ニ資ス當時諸藩未ダ泰西ノ算書ヲ版行スルモノ極メテ稀ナリ因リテ需要繁クシテ刊製約三萬五千部ニ達セリ六年新撰數學ヲ著シテ版行シタルニ需ムル者都鄙遠近ニ遍ク殆ド全國ニ普及シ改正增補シテ遂ニ第六版ヲ重ネ刊製約二十一萬部ヲ超ユ以テ其數學ノ開進ヲ資クルコト絶大ナルヲ知ルニ足ル又當時京阪地方ニ屢之ヲ僞版スルモノアリ皆法ニ據リテ處罰セラレタルニ徵スルモ亦以テ其聲價藉甚ナリシヲ知ルニ足ル此他譯ニ幾何初學、代數學アリ編著ニ點竄問題集、算法究理問答、幾何初學例題アリ皆梓シテ世ニ行ハレ其未ダ梓セザルモノ亦多シ是等ハ概ネ門人教授ノ資料トナセリ其著譯書ヲ左ニ表揭ス

書名	編輯著述	冊數	版行	版數	成稿年月	書名	編輯著述	冊數	版行	版數	成稿年月
數學稽古本	譯	全一冊	成稿	○	明治三年	新撰數學	著述	全一冊	版行	六版	明治六年
數學問題集	編輯	上下二冊	版行	二版	明治四年	航海暦用法		同	成稿	○	明治六年
平三角	同	全一冊	成稿	○	明治四年	微分術	譯	同	同	○	明治七年
點竄問題集	同	上下二冊	版行	二版	明治五年	幾何初學	同	全二冊	版行	一版	明治七年
測量		乾坤二冊	成稿	○	明治五年	算法窮理問答	編輯	上中下三冊	同	一版	明治七年
弧三角		全一冊	同	○	明治五年	微分術	譯	全三冊	成稿	○	明治七年以降

答氏

士諸るたし浴に榮光の位贈

贈正五位 安達幸之助

贈從五位 關口 開

贈從五位 清水 誠

微分術附錄	著述	全一冊	成稿	○	明治七年	代數學	抄譯	上下二冊
答氏弧三角術抄譯	飜譯	同	同	○	明治八年	答氏代數學	飜譯	上中下三冊
答氏平三角術	同	上中下三冊	同		同十年	答氏圓錐形截斷術	同	全二冊
答氏幾何學	同	全五冊	同		明治九年同十二年	幾何初學例題	著述	全一冊
答氏積分術	同	一二冊	同		同十一年同十三年	答氏靜力學解	同	成稿

尙濠川派和算ニハ球圓五十問答ノ著アリ明治十一年神田孝平、柳猶愷等東京ニ東京數學會社ヲ起ス開亦入社シテ相偕ニ泰西數學ノ諸名義譯例等ヲ一定スル事等ニ努力シ十五年東京ニ數理書院ヲ起シテ以テ數學書ノ印行ヲ圖ル其數學ノ普及ヲ計畫スルニ熱心ナリシコト以テ知ルベシ藩ノ後區縣立各學校ニ教鞭ヲ執リ又和塾ヲ開キテ衍集舍ト稱シ數學ヲ諸生ニ授ク其門ニ出テヽ名ヲ成ス者頗ル衆ク石川縣ガ一時數學ノ進歩ヲ以テ喧稱セラレタルハ職トシテ是レ之ニ因レリ十七年四月十二日病ミテ歿ス享年四十有三野田山ニ葬ル是年五月二十六日文部省ハ生前ノ功勞ヲ嘉シテ特ニ金參拾五圓ヲ追賞セリ開ニ三男五女アリ其二男四女開ニ前後シテ死シ三男理學士磊三家ヲ嗣ク開嘗テ京都御守衛在勤ノ日連雪居ニ上リ仰テ星座ヲ檢視シ半夜ヲ過キテ止ムコト凡半歲許ニシテ之ヲ星座ニ照シテ二十八宿星座ヲ定メ各星座ヲ誤定セリ其忍苦堪ヘ斯ノ如シ開カ學校教職トシテノ閲歴ハ概ネ左ノ如シ

一明治五年區學校二等教師トナル

一同六年小學校二等出仕トナリ一等出仕ニ進ム

一同八年石川縣師範學校教師トナル

伊藤美代　越中善左衛門　越村キン

高齢者式場に聚合す

尾崎ツヨ　富田てつ　中山テツ　越山イソ

一同九年啓明學校在勤雇監事トナル
一同十年中學師範學校教師トナル
一同十四年石川縣專門學校三等教諭雇金澤師範學校三等教諭トナル
一同十五年石川縣師範學校三等教諭雇石川縣專門學校三等教諭トナル尋テ專門學校三等教諭ニ專任ス

——（金澤市役所調査）——

是日。聖旨あり、市の耋耄六百餘人に杯を賜ふ。因りて其捧授式を石川縣廳に擧行し、市長等此に列れり。耋耄感喜し、聲涙共に下る者あり。皆　聖壽の萬歳を禱れり。

賜杯捧授式は是日午前十時を以て石川縣廳内に擧行せられたり縣知事代理内務部長夏秋十郎は謹嚴なる態度を以て左記御沙汰書を捧讀せり

耋ヲ存シ耄ヲ問フハ人ニ孝ヲ敎フル所以ナリ惠ヲ敷キ恩ヲ垂ルルハ民ノ乏キヲ濟フヨリ先ナルハナシ玆ニ登極ノ初メニ方リ祖宗

ノ遺範ヲ紹述シテ養老賑恤ノ典ヲ行フ其レ

有司ニ諭シテ朕カ意ヲ宣布セシメヨ

捧讀し了り平易の辭を以て循々として聖恩優渥養老の典を擧げさせ給ひし趣意を說諭せり次で縣吏は市各區の高齡者總代七人に杯と酒肴料とを併せ授け夏秋內務部長は更に拜受者の光榮を祝福し自愛を祈望せり是に於て市吏員は縣より交付せられたる杯と酒肴料とを六百數十人に授與して式を終れり市長山森隆・助役飯尾次郎三郎・收入役由比勝之曁び名譽職市參事會員等皆式に臨めり是日杯を賜はりたる耋耄は實に左記の如し

百歲以上　一人
九十歲以上　三十九人
八十歲以上　六百十三人
合計　六百五十三人

就中九十五歲以上の者併せて七人あり其居所氏名等は左記の如し

石坂川岸町　人力車挽吉太郎父　越中善左衞門　石坂町　貸座敷業重太郎母　越村きん　文化十二年三月二十六日生
尻垂坂通三丁目　職業不詳より母　越山イソ　新堅町三丁目　醫師清治母　伊藤美代　文政元年二月三日生
塞所町二番丁　農業庄助母　尾崎つよ　文政元年二月七日生
高岡町下藪ノ內　料理業藤三郎養母　富田てつ　文政三年五月十日生
文政四年十二月十三日生　白銀町繪具商高治祖母　中山テツ　文政三年十一月二十七日生

九十歲以上の者の居所氏名は左記の如し

笠市町　能崎いよ　彥三七番丁　板村筆　彥三七番丁　出口すて　蛤坂町　荒井惣右衞門　（以上文政五年生）
儒中町　榊原ゐね　鍛冶町　岩崎ゑへ
田丸町　松田サキ　尻垂坂通二丁目　吉田シユン　彥三三番丁　荒木田むゑ　泉町　押野ゐふ　（以上文政六年生）
野田寺町四丁目　年田ちけ　石坂角場三番丁　野村ぞよ　泉町　室田イソ　四馬場町　松木孝友　（以上文政七年生）
木ノ新保四番丁　野尻ミツ
中野町三番丁　小松喜三平　折違町　島田作乙　上石引町　狩鹿野いよ　新堅町二丁目　午谷傳兵衞　（以上文政八年生）
長町川岸　大澤ユキ　彥三四番丁　中村きく　木ノ新保三番丁　中木イチ

高道新町　越田孝治　岩根町田丸サタ　泉町須田ツル　石坂町二日市キン
長土塀一番丁　勝木鑄　茨木町伊達サト　池田町四番丁　岩崎孝て　上野町宮上いよ
下小川町　木吉はき　彦三五番丁　島村露

（以上文政九年生）

又式の當日各區總代に選まれたる高齢者は左記の如し

第一區　越中善右衛門　第二區　岩崎孝て　第三區　越野はつ　第四區　越山イツ
第五區　富田てつ　第六區　中村太平　第七區　人見忠正

○養老の典に關する通牒　是より先き十月二十九日石川縣知事官房よりの依命通牒に云ふ

今般大禮御擧行ニ際シテハ歴朝ノ嘉例ニ依リ卽位禮當日ヲ以テ養老賑恤ノ典可被爲擧　聖旨ニ有之養老ノ儀ハ數ヘ年八十歳以上ノ高齢者ニ對シ木杯竝酒肴料下賜可相成趣ニテ來ル十一月十日午前十時當廳ニ於テ奉授式擧行候條別記ノ事項右該當者ヘ傳達相成度尙當日貴職其ノ他重ナル公職者竝名望家參列ノ樣御取計相成度候也

追テ八十歳以上ノ者ニ對シテハ木杯(小)壹個酒肴料金五拾錢、九十歳以上ノ者ニ對シテハ木杯(大)壹個酒肴料金壹圓、百歳以上ノ者ニ對シテハ木杯壹組酒肴料金壹圓五拾錢ヲ下賜可相成趣ニ有之候條御含マテ申添候也

別記

一　奉授ヲ受クベキ高齢者ハ十一月十日午前九時三十分マデニ石川縣廳ニ參集スベキコト

二　不得已事情アル者ノ外ハ本人出頭スヘキコト
三　服裝ハ可成非禮ニ亙ラサルモノヲ着用スヘキコト

○御禮執奏等に關する通牒　十一月二日石川縣內務部長よりの通牒に云ふ

木杯並酒肴料拜受御禮ハ本人ヨリ市長ヘ、市長ヨリ知事ヘ其執奏方ヲ申出ル事
木杯並酒肴料ヲ下賜セラルヘキ高齢者ハ卽位禮當日午前零時生存者タルヘキ事

○式場參列の通牒　十一月三日市長山森隆は其筋よりの通牒に本づき市の公職者等に養老式に參列の儀を求めたり其公職者等は左記の如し

一　市會議員全部
二　市選出縣會議員全部
三　名望家

飯尾次郎三郎　由比勝之　相川久太郎　飯森益太郎　富田輝象
丹羽幹　萩原昌朔　松本於菟　藤井務　横山隆興
古丸藤三郎　村彦兵衛　佐野久太郎　石黒傳六　山川庄太郎
素谷篤爾　素谷喜沙久　中屋彦十郎　中島德太郎　藤村理平

男爵前田孝　男爵奥村則英　男爵長基連　男爵奥村榮滋　吉田丈治
河北榮太郎　石田正珍

【參照】

一天澄み渡る秋晴れに瑞氣漲る曠古の御卽位大典の當日午前十時から市の高齡者六百五十名に御下賜あり
たる養老杯御酒肴料の奉戴式は縣廳に行はれた廳舍の門前には注連縄を張つて大國旗が交叉され玄關
式臺には紫の幔幕を張つて勸業、會計の左右の室から廊下が養老者の控室に充てられてある、正面の應
接室には金光輝く屏風を立て廻し右手に純白の陶器彫型のライオン雌雄の置物に左手には絲瀧を常磐に
大輪の黃菊白菊竹を競ふて咲き亂れしか大花瓶に生けてある限りない目出度い恩典に浴する尉姥は午前
七時頃から介添の孫や息子と共に車を駈るもの徒歩で手を引れるものや續々式場へと參集した服裝は多
くは紋服の晴着を飾り市役所の受付係の出張した八時頃には既に二百名許りも詰掛け控室に端座して居
たが定刻までに殆ど踵を接して出場した夫に大抵一人の老人には一人二人の付添ひが居るので總人員千
二三百名に達して座席は狹隘を告げ滿場立錐の餘地なきまでに充滿して玄關にまで溢れて居た鶴髮童顏
の老人達は何れも滿面に笑み湛へ式場内は靄きの氣分が籠つて實に清々しい感に打たれて居た、聽て定
刻となるに連れて縣知事の代理夏秋内務部長は奏任の大禮服を着し大島警察部長以下高等官等出場し市
役所よりは山森市長、飯尾助役を始め市參事會員等一方の席に侍立し今日の目出度席に列せんと軍服の
河北豫備陸軍少將、石田後備陸軍少將を始め飯森、古丸の兩醫師は清楚な燕尾服にて參列した午前十時
愈々小竹縣屬が開式を告げると待ち焦れたる尉姥は容姿を正すと共に夏秋知事代理は謹嚴なる態度を持
して卓前に起立し本日の御卽位式に方り天皇陛下には午前九時大隈内閣總理大臣に對し全國養老者賑恤

の曠大なる御聖意を下された一同感激に堪へざる處なりと述べ音吐朗々御沙汰書を捧讀した有難き御沙
汰書を拜聽した老人附添等は聖恩の拳ふるさに暫し頭も上げ得ずして感涙に咽んだのである、夫より井
村縣屬は市内各聯區の高齡者の代表者の氏名を呼んで養老杯と酒肴料を授與せられたが代表者は席の最
前面に居並び劈頭に市内第一の高齡者百一歲の一聯區石坂川岸の越中善左衞門は息子に手を引かれて夏
秋知事代理の前に進み出で親しく桐箱入の養老杯と酒肴料一封を授けられ之を頂いて頭より高く捧げ餘
りの嬉しさ嬉さに感極まつて其場を暫し退ぞき得なかつたを息子に引立てられて元の坐に復しても矢張
り其儘頭に戴いて兩眼から嬉し涙が頰を傳ふて居た次で第二聯區岩崎すて（九〇）第三聯區越野はつ（九
八）第四聯區越山いそ（九八）第五聯區富田てつ（九五）第六聯區中村太平（八〇）第七聯區人見忠正（八八）
の各代表者に順次授與せられたが何れも隨喜の涙に咽んで居た、就中第四聯區の越山いそは九十八歲の
身でありながら一人の付添も居ないで動作から容姿は鑽鑠壯者を凌ぐ元氣さに一同の視線を惹いた之れ
で式は終りを告げて夏秋知事代理は席を離れ前面の老人席に歩を進め會心の笑を咖みて
皆樣本日は天子樣の御卽位式を行はせらるゝ最も目出度き此日に天子樣はあなた方に御盃と御酒肴料
を下賜になりましてお喜びは此上もありません茲に御祝ひ申します天子樣の御鴻恩によつて益す壯健
に長い〳〵壽命を保たれんことを望みます
一場の祝辭を述べた、夫れから殘りの高齡者に對し市吏員等は縣より受けた養老杯と酒肴料とを夫々授
け與へたが何れも恩賜の盃や酒肴料を抱いて聖代の御代に生き永らへた有難さを感じ合ひ介添者に連れ
られて自宅へと引取つたが斯くて市内の高齡者は目出度き裡に滯りなく恩惠に浴したのであつた
——（北陸新聞）——

是日午後三時三十分に先だつこと二分、號砲卯辰山巓に轟く。市民一齊高く萬歳を唱へ、其聲天地を震撼せり。

是日午後三時三十分は內閣總理大臣が紫宸殿に萬歳を奉唱する時刻なり市は此時刻に先だつこと二分卯辰山上に號砲を一發し遍く其時刻を知らしむ此に於て市民一齊に萬歳を三唱し其聲天に震ひ地を撼かし抃舞其極に底れり

是日市奉祝式を市議事堂に擧行し、市長式を司り、敬んで奉祝の辭を申ぶ。市名譽職員、市公職者曁び市吏員等此に列り、齊く萬歳を唱へたり。

市の大禮奉祝式は是日の午後二時を期し市議事堂階上に擧け市の名譽職員公職者曁び吏員一同列を正して相對す市長山森隆司會者と爲り敬虔の態度を持し諸員敬禮の中に奉祝の辭を述べて曰く

聖上陛下ニハ本日御卽位ノ大禮ヲ行ハセ給ヒ瑞祥ノ氣四海ニ滿ツ吾等臣民カ斯ル千載一遇ノ幸慶ニ逢ヒタルハ實ニ無上ノ光榮ナリ敬ミテ諸君ト共ニ寶祚ノ無疆ヲ祈リ萬歳ヲ三唱シテ奉祝セン

稍ありて卯辰山上號砲を發つ乃ち司會者の發聲に和し一同萬歳を三唱して式を終れり

○奉祝順序の通牒　是より先き十月四日石川縣知事官房は其筋の通知に本づき卽位禮當日諸官廳奉祝順序の通牒を市に致せり市の奉祝式順序亦此に據り左記の如く定めたり

卽位禮當日奉祝順序

十一月十日午後二時市議事堂ニ會同

但シ服裝ハ禮服

次ニ市長司會者ト爲リ席ニ著ク

次ニ司會者開會ヲ告ク

次ニ司會者萬歳ヲ唱フ三聲一同之ニ和ス

但シ萬歳ハ午後三時三十分之ヲ唱フ

次ニ一同敬禮

次ニ司會者閉會ヲ告ケ一同退散

萬歳奉唱方左ノ如シ

司會者
天皇陛下萬歲
諸員
萬歲
司會者
萬歲
諸員
萬歲
司會者
萬歲
諸員
萬歲

是日。市立各學校も亦奉祝式を擧行し、校長式を司り、職員生徒兒童相偕に奉祝の歌をうたひ、時を以て萬歲を三唱せり。

是日市立女子職業學校・市立商業補習學校・市立小將町高等小學校・市立高岡町高等小學校・市立味噌藏町尋常高等小學校・市立野町尋常小學校・

市立新堅町尋常小學校・市立菊川町尋常小學校・市立石引町尋常小學校・市立材木町尋常小學校・市立松ヶ枝町尋常小學校・市立長町尋常小學校・市立長土塀尋常小學校・市立芳齋町尋常小學校・市立此花町尋常小學校・市立瓢簞町尋常小學校・市立馬場尋常小學校・市立森山町尋常小學校は午後二時を以て奉祝式を擧行し大禮奉祝歌を唱へ三時三十分校長は天皇陛下萬歲を高唱し職員生徒兒童は此に和唱し校長復た萬歲を唱ふること二、職員生徒兒童亦和唱して式を終れり但小將町校・高岡町校・味噌藏町校は曩に御眞影を下賜せられたるに因り是日御眞影拜賀式を終へ直に奉祝式を擧行せり

是日學校生徒兒童の奉唱したる大禮奉祝唱歌は左記の如し

一　天地のむた窮なき
　　天津日嗣の御位に
　　我が大君ののぼります
　　今日の御典の尊さよ。

二　垂穂の稻の大御饌に
　　白酒黑酒を取りそへて
　　皇御神にさゝげます
　　大御祭のかしこさよ。

三　大き正しき君が代の
　　大御祝に外國の
　　つかはし人も列りて
　　共にことほぐめでたさよ。――（文部省選歌）――

○萬歳奉唱方の通牒　是より先き十月四日石川縣內務部長は大禮奉祝儀式の中萬歳の奉唱方に關し市長に通牒を致せり其要に云ふ

當日ノ儀式ハ午後二時ヨリ開始シ萬歳奉唱ハ凡紫宸殿ニ於テ萬歳ヲ唱フル時刻ヲ以テ之ヲ行ハシム

學校長
天皇陛下萬歳
職員生徒兒童
萬歳
學校長
萬歳
職員生徒兒童
萬歳
學校長
萬歳
職員生徒兒童
萬歳

是日。官衙學校會社工場竝び組合等、皆奉祝式を擧行し、長官校長社長場主等式を司り、時を以て齊しく萬歳を唱へたり。

是日第九師團司令部・石川縣廳・金澤地方裁判所・金澤商業會議所・第四高等學校・金澤醫學專門學校・金澤專賣支局・金澤鐵道工場其他の官衙・學校會社・工場竝び各業組合に在りては皆午後二時を以て奉祝式を擧行し三時三十分を以て一齊に萬歳を三唱せり

是日より十四日に迄る。市民の市議事堂に抵り、自ら奉賀

簿に記名したる者、九百餘人。

是日より十四日に迄るの間市議事堂の玄關に金屏風を繞らし卓上に奉賀名簿を置く市民來りて自ら其姓名を錄したる者實に九百五十四人に上れり

萬歳臺を出羽町練兵場に築き、以て萬歳三唱の用に當てたり。

萬歳臺を出羽町練兵場に築く臺は方八尺にして高二十尺あり中央に萬歳旛を樹て行列又は催物の類は此に來り其司會者此臺に登りて萬歳を奉唱せり尚臺の四邊に高張提灯を樹て夜間の便を計れり

是日官縣立學校聯合提灯行列を催せり參加するもの七校、殆ど二千人

十一月十一日。市立各小學校聯合運動會を出羽町練兵場に催行し、以て大典を奉祝す。會同學校都べて十有六、參加兒童總べて一萬三千四百二十餘、其運動回數合せて十二。何れも整然として一絲亂れず。終りて會長萬歳を唱へ、職

員兒童齊く之に唱和せり。是日覽る者堵を成し、光景盛を極めたり。

是日大典奉祝運動會を出羽町練兵場に催行せり會場の中央に擬滿艦飾を立て周圍六百間の外埒を設け以て兒童の整頓線に當て外埒に沿ひて數百旒の彩旗を列ね更に場内に周圍四百三十間を劃して演習場と爲し場圍に沿ひて八十旒の國旗を樹てたり

市立各小學校兒童職員は午前九時半を期して會場に集合し九時五十分一同整頓線に就き號砲の合圖に依り一齊に君が代を再唱し左記順序に從ひて運動を行ひ規律整正、何れの運動も大禮奉祝の意を寓し各運動は樂隊又は喇叭に依りて動作せり

順序	時間	技目	學年	兒童數
一	午前九時五十分	君が代（再唱）	一同	
二	自同十時 至同十時四十分	旗行列	尋常一學年	男 二六八〇 女
三	自同十時四十分 至同十一時	旗體操	尋常三學年	女 一一七〇

四　自午前十一時　至同十一時二十分　綱引　尋常四學年　男　一〇八〇

五　自同十一時二十分　至正午　旗行進　尋常二學年　男女　二七六〇

六　自午後零時三十分　至同零時五十分　步法演習　高等一學年二學年　女　六六〇

七　自同零時五十分　至同一時十分　旗取　尋常三學年　男　一三〇〇

八　自同一時十分　至同一時三十分　行進遊戯　尋常四學年　女　九七〇

九　自同一時三十分　至同一時五十分　體・操　尋常五學年六學年　男　二一三〇

一〇　自同一時五十分　至同二時十分　リングダンス　尋常五學年六學年　女　一八四〇

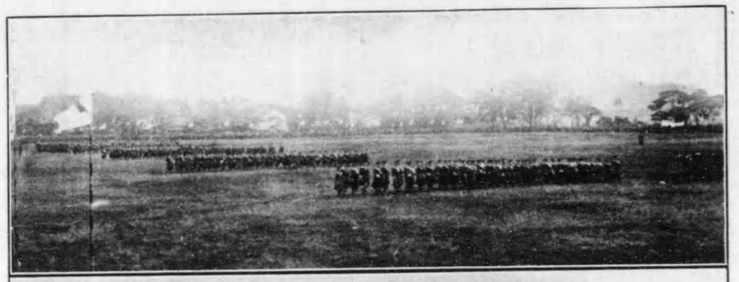
一一　自同二時十分　至同二時三十分　分列式　高等一學年二學年　男　一〇四〇

一二　同二時三十分　萬歲（三唱）　一同

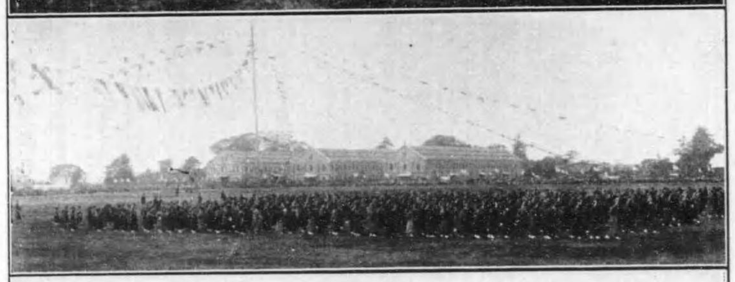
午後二時三十分豫定運動を終る此に於て號砲の合圖に依り一同整頓線に就き會長代理副會長飯尾次郎三郎の發聲に依り萬歲を三唱して散會せり

○小學校聯合運動會催行の決定　是より先き八月二十八日市は市立各學校長を召集し大禮奉祝事業として市立各學校に於て擧行する

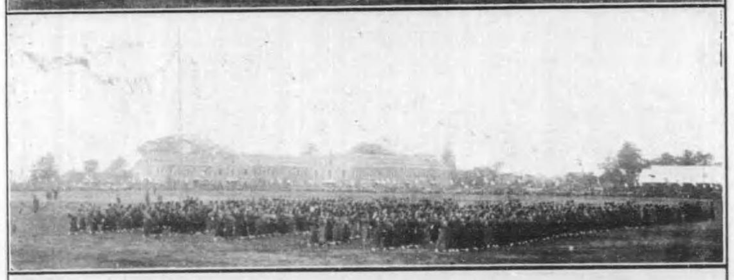
市立小學校聯合大運動會（其壹）



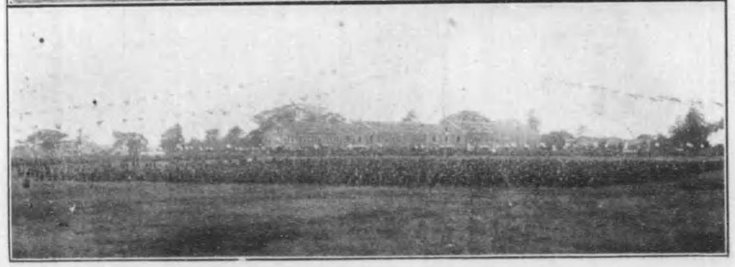
高等科男兒分列式



高等科女兒步法演習（其壹）

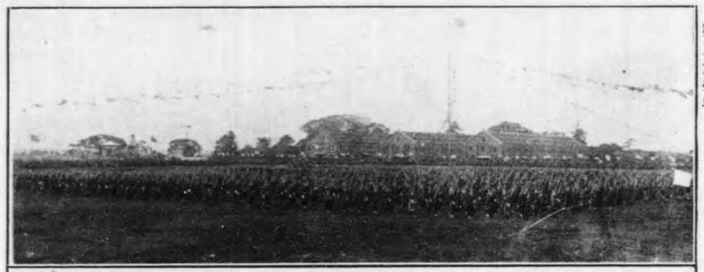


同　上（其貳）



尋常科男兒徒手體操
第五六學年

市立小學校聯合大運動會（其貳）



尋常科第五六學年女兒リンゲダンス

尋常科第四學年男兒綱引

尋常科第四學年女兒行進遊戯（其壹）　同　上（其貳）

に適當なるもの及び其方法の撰定に關し諮詢する所あり九月六日更に各學校長及び市學務委員を召集して協議を悉し遂に市立各小學校聯合運動會と市立各學校教育品展覽會を開催するに決定し聯合運動會經費豫算金千二百圓は十月五日の市會に於て可決せられたり

○市立各小學校聯合運動會規程並役員　聯合運動會の規程は左記の如し

一、期日　大正四年十一月十一日但十三日マテ雨天順延

一、會場　出羽町練兵場

一、時限　午前十時開始午後二時三十分閉會但晝食時間ハ正午ヨリ零時三十分マテトス

一、運動回數

學年別	高等		尋常						計
	男	女	五		六		三	四	
			男	女	男	女	男	女	
回數	一	一	一	一	二	二	四	四	一二

各運動ハ一回ニツキ二十分トス

又役員は左記の如し

會長　市長　山森　隆

副會長　助役　飯尾次郎三郎

顧問

學務委員　餝谷與右衛門　學務委員　辰村　米吉　學務委員　清水　清二

學務委員　永井　喜之男

理事長　視學　矢部彌太郎

庶務係

主任　中越錠三郎（野町校長）

係員　齋藤熊太郎（瓢箪町校長）　池田循吉（長土塀校長）　中　重俊（此花町校長）

會場係

主任　前田捨次郎（新堅町校長）

係員　村田宣保（松ヶ枝町校長）　北川友三郎（馬場校長）　稲川尙新（森山町校長）

中宮佐久太郎（鍋川町校長）　高口安太郎（學校醫）

運動係

主任　佐久間啓太郎（小將町校長）

係員　太田定義（長町校長）　中村常三（石引町校長）

會計係

主任　岡崎政照（高岡町校長）

係員　石川太郎次（味噌藏町校長）　高桑準一（芳齋町校長）　内藤才次郎（材木町校長）

加藤俊一（市書記）

【參照】

運動場は出羽町練兵場一帶の地に埒を廻らせる周圍九町三十八間に達し埒外には市内十六校夫々控席を設けて校旗を樹立し北面の埒の中央を來賓席となし埒には無數の彩旗を以て廻らし場の中央には秋天を貫ける竿頭の大國旗より萬國旗を四方に張り渡し場内亦國旗の林を爲し美觀を極む午前九時までに集合せる兒童數は實に一萬四千七百三十名諸般の設備は遺憾なく整頓し軈て定刻午前九時五十分には一發の號砲を合圖に職員を始め全校兒童の君が代の再唱あり曠古の御大典を壽ぎ記念せんが爲の運動會として聲調如何にも謹嚴にして思はず襟を正し場内は瑞氣充ち溢るの感慨ありし夫より左の順序を追ふて各種運動は開始されぬ

旗行列　尋常第一學年の男女兒童二千六百八十名は嬉々として手に手に小國旗を翳し北陸軍樂隊の吹奏聲裡に足並揃へ二隊となりて行進を始めたるが天眞爛漫たる兒童等が桃太郎の唱歌を唱へつゝクルリクルリと螺旋形となりて場の中央二個所に集團して國旗を高く打振りながら一齊に萬歲を三唱し再び四人一列となりて場を退きたり參觀人は可愛らしき運動振りに拍手は急霰の如くに場の四隅より起りたり

旗体操　尋常第三學年女兒千百七十名兩手に國旗を携へ四人縱隊となりて十數隊に列を正し喇叭の吹奏にて行進を始め前面定めの區域に足を停めて職員の號令により体操を始めたるが動作に連れて國旗が

一時に颯々と風を切る音と國旗の色彩との調和は美觀壯觀云ほん方なく思ぼず快哉を叫ばしめたり

綱　引　尋常第四學年男兒千八十名は場の東西隅より袴の腿立ち取つて紅白の運動帽を冠り先頭の源平の旗を押し立て一列となりて行進し一直線の隊列を形作るや更に源平十數隊縱隊を爲して分れ號砲の合圖に綱引を開始せるが源平兩隊の兒童は滿身の勇を鼓してヨイヤ〳〵の掛聲勇しく互に勝負を競ひたる結果は赤隊の勝となりて間の聲湧くが如く更に源平の位置を轉じて更に今一戰を試みしも白軍戰利あらず再び勝利は赤軍の手に歸したりき茲に於て赤軍は萬歲を唱へて兩隊共に喇叭の吹奏に歩調を揃へて退場せり

旗行進　尋常第二學年女兒二千七百六十名の大勢は兩手に國旗を翳して四人横隊となり四組に分れて場の南北兩方面より軍隊の樂譜に合せて御大典の唱歌を唱へつゝ徐々に足並を揃へ行進を始め最後に四隊は一隊となりて縱横自在の行進を取り一場に進合して國旗を高々と振翳して萬歲を三唱し再び隊は解けて原形隊に復し退場せるが極めて美觀を呈したりき

歩法演習　高等一、二學年女兒六百六十名は軍樂隊の行進樂譜により南面より二人縱隊數流の隊列を爲して歩調を進め程よき處に足を停めて愈々歩法の演習となりたるが兩手を翳して足の運び極めて巧妙に横隊となり又は縱隊となり或は廻旋して六人一隊を型作り一擧一動恰も鑄型に嵌めたる如くに其の動作の優美にして高尚なるは道が高等生の熟練せる運動なり退場せるまでの規律亦一糸紊れず參觀者の喝采を博せり

旗　取　尋常第三學年男兒千三百名は赤白二隊となりて先頭に隊旗を押立て東西の兩方面より進み出でゝ手に携へたる赤白の旗を地上に置くと共に列の儘南北に駈足にて分れ旗の置きし起点より三百歩許

りの間隔を保ちて號砲一發轟くと共に各自が携へ來れる旗を拾ひ歸る趣向なりしが其の運速の勝敗は赤隊の勝となりて勝誇りたる赤隊は大に面目を施し萬歲を唱へ兩隊は喇叭の聲諸共駈足にて退場せり

行進遊戯　尋常第四學年女兒九百七十名は赤、紫、綠、柿の四色隊となりて最初南面より始め夫より圓形となり解けては十字形に變し再び圓形の中に十字を描いて其色別を巧に利して行進を取りたることとて千紫萬紅春の野邊に妍を競ふ花の如く艷麗極りなく一般參觀者は此の美觀に醉へる感ありたり

体　操　尋常第五、六學年男兒二千百三十名は勇壯なる扮裝にて一人一列三十隊縱隊に分れ前面の壇上には菊川町校堀訓導司令となり先づ下肢運動より始め全兒童が動作と共に一二三四の掛聲最も勇ましく次て頭の運動、上肢胸平均跳躍足呼吸の各運動は勇壯活潑にして其の擧動の整然たるは日頃の鍛練空しからず眞に肉躍るの慨ありて成績最も良好なりと認められたり

リングダンス　尋常第五、六學年の女兒千八百四十名は樂隊の譜樂に連れて南面より十數隊となりて行進し停歩の後ち兩手に携へたる竹環を以てダンスを巧に操り竹環の戛々と響く音は更に亂れず前回男兒の運動に劣らざる出來榮ゑにて極めて巧妙なりし

分列式　高等第一、二學年男兒千四十名は東端より横隊十二隊を編成し先頭には六名の喇叭手が行進喇叭を吹奏して歩武堂々行進を始め來賓席前に至り中隊長は頭右の號令を掛けて敬意を表し各横隊は順序行進を了へて縱隊に變じ退場せるが歩調整然として高等科生の面目を發揮せり

萬　歲　此にて豫定の運動番組は滞りなく了を告げ最後に飯尾助役始め市會議員運動係員等は場の中央に集合し一發の號砲は澄み渡れる宙天に轟くと共に飯尾助役の　天皇陛下萬歲の發聲にて一萬四千餘の兒童及び職員等も一齊に萬歲を三唱し天地も爲めに震撼せん許りなりき之れにて記念運動會は午後二

時三十分一大盛況の裡に終局を告げたるが聯合運動會にして今回の如く成績の眞好なりしはなく全く職員諸氏の周到なる注意と訓練其宜敷み得たる賜物なりと謂つべし因に當日の盛況を參觀せんと運動場に集合せる群集は四五萬の多きに達し是れ又近年稀有の人出なりし――（北陸新聞）――

金澤市にては先般御大典奉祝の趣旨を以て小學校合同運動會と教育品展覽會とを開きたり」運動會は參加小學校數十有六、出會兒童數一萬五千有餘運動は僅に十回各學年男女別を原則とし上級にては學年を合せ下級にては男女を合せたり何れの組も唯一回出演するに過ぎず毎回の兒童數少きも六百六十名多きは二千七百餘名に達し其の壯觀美觀は看客をして感嘆措く能はざらしめたりかくも大規模にて而かも劃一的なる運動會を行ふに當りては開催前にも開催中にも多大の犧牲を拂はざるを得ざるべし教育的見地よりの判斷は姑く之を措き其壯觀美觀が幾萬の兒童及看客に與へたる印象は頗る深甚なるものありしなるべく千載一遇の御大典を祝し奉る場合の運動會としては或は豫期以上の效果を奏したるやも知るべからざるなり――（石川教育）――

是日。市の青年團聯合大會を出羽町練兵場に開き、會長式辭を讀み、會員萬歳を唱へ。次で提灯行列を行ふ。會同團體二十有七、參加人員千七百有餘。兩ながら、石川縣教育會金澤支會の主催に係れり。

是日石川縣教育會金澤支會の主催に係る市の青年團聯合大會を出羽

町練兵場に開く午後五時號砲に依り一同列を正して君が代を合唱し會長飯尾次郎三郎左記式辭を讀む

登極ノ大禮舊都ノ皇宮ニ行ハセラレ瑞氣四表ニ溢レ祥雲八洲ヲ掩フ是時青年團聯合大會ヲ開キ尙奉祝行列ヲ行フハ寔ニ其處ヲ得タリ惟フニ我國體ノ神髓ヲ恢廓シ我民性ノ精華ヲ博盛スルニハ國中青年諸子ノ持重彊勉ニ待ツコト最モ大ナリ諸子儻シ荒怠自ラ輕ンセハ復タ誰ニ賴リテ以テ國運ノ發展ヲ期スヘケンヤ望ムラクハ諸子盛儀ノ日ヲ以テ大會ヲ開ケル意ヲ牢記シテ永久謬ル丶ナク善ク和衷協同シ善ク持重彊勉シ以テ　聖旨ニ答ヘ奉ル所アランコトヲ

大正四年十一月十一日　　會長　飯尾次郎三郎

更に會長の發聲に和し會員一齊萬歳を三唱せり會同青年團並に參加人員は左記の如し

犀義會	六十人	金澤矯風會	三十人
勤有青年會	七十五人	龍王青年會	七十人

一正會　三十五人　近江町青年會　五十人
旭青年會　七十人　矢口青年團　百　人
嚶鳴會　二十五人　城西博親會　八十人
交友會　四十人　城南正義團　百　人
犀川佛敎青年會　百五十人　致芳青年會　五十人
犀川青年會　七十人　石浦青年團　三十五人
精華會　三十八人　上春日町青年團　四十人
淺野新町青年團　五十人　大樋町青年團　六十人
中島町青年團　百二十人　上山ノ上町青年團　二十五人
淺野川青年會　五十人　下春日町青年團　四十人
大北青年會　六十人　大四會　九十七人
少年義勇團　百六人

大會終るや直ちに提灯行列を催行し其序列は敎育會、金澤支會幹事會にて豫め抽籤確定したるものに據り犀義會を先頭とし少年義勇團を

後殿と爲せり卽ち左記の如し

犀義會—金澤繕風會—勤有青年會—龍王青年會—一正會—近江町青年會—旭青年會—矢口青年團—嚶鳴會—城西博親會—交友會—城南正義團—犀川佛敎青年會—致芳青年會—犀川青年會—石浦青年團—精華會—上春日町青年團—淺野新町青年團—大樋町青年團—中島町青年團—上山ノ上町青年團—淺野川青年會—下春日町青年團—大北青年會—大四會—少年義勇團

樂際は二組とし第一團及第十五團の先頭に附し出羽町練兵場を發し縣廳・市役所の前を通過し河原町を經て犀川大橋に抵り片町・石浦町・南町・堤町・十間町・博勞町・尾張町を經、淺野川大橋を渡りて解散せり提灯行列にうたひたる唱歌は翌夜小學校聯合提灯行列にうたひたるものに同じ

○提灯行列催行の決議　六月十五日市青年團聯合大會を開く實に石川縣敎育會金澤支會の主催に係る是日を以て各青年團聯合の大禮奉祝提灯行列を催行することを決議せり

○提灯行列催行の準備　十月二十一日各青年團代議員會を開き越えて二十三日石川縣敎育會金澤支會幹事會を開き提灯行列の催行準

備に關して協議するところあり又十月三十一日を限り各青年團をして提灯行列指揮係二名を選み又其參加人員を定め各之を通知せしめたり

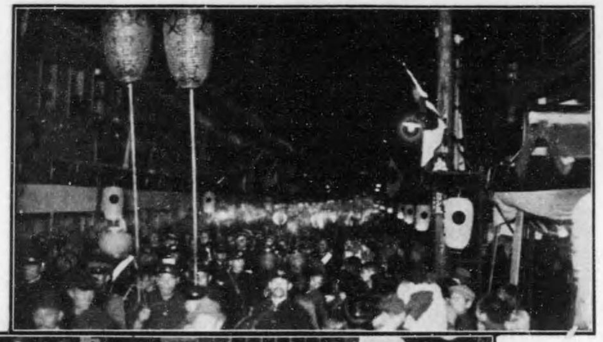
○提灯行列に關する注意　提灯行列に關し豫め注意するところあり其要項に云ふ

一　集合時間ニ遲レザルコト
二　規律ヲ保チ秩序ヲ紊サヽルコト
三　指揮係トシテ各團ヨリ二名ノ代表者ヲ選出シ團員ハ右指揮係ノ命ヲ守リテ進退スルコト
四　服裝ハ假裝ヲ避ケ成ルベク袴ヲ着クルコト
五　小蠟燭三本マッチ一個各自自辯携帶スルコト
　但提灯ハ教育會金澤支會ヨリ配付ス
六　各團會ヘハ團(會)名記入ノ高張提灯ヲ支給スルコト

○聯合大會役員の囑託　石川縣教育會金澤支會は青年團聯合大會の役員を囑托したること左記の如し

庶務係
市書記　宮川米次郎　市視學　矢部彌太郎　市書記　山岸壹正

提灯旗行列（其壹）

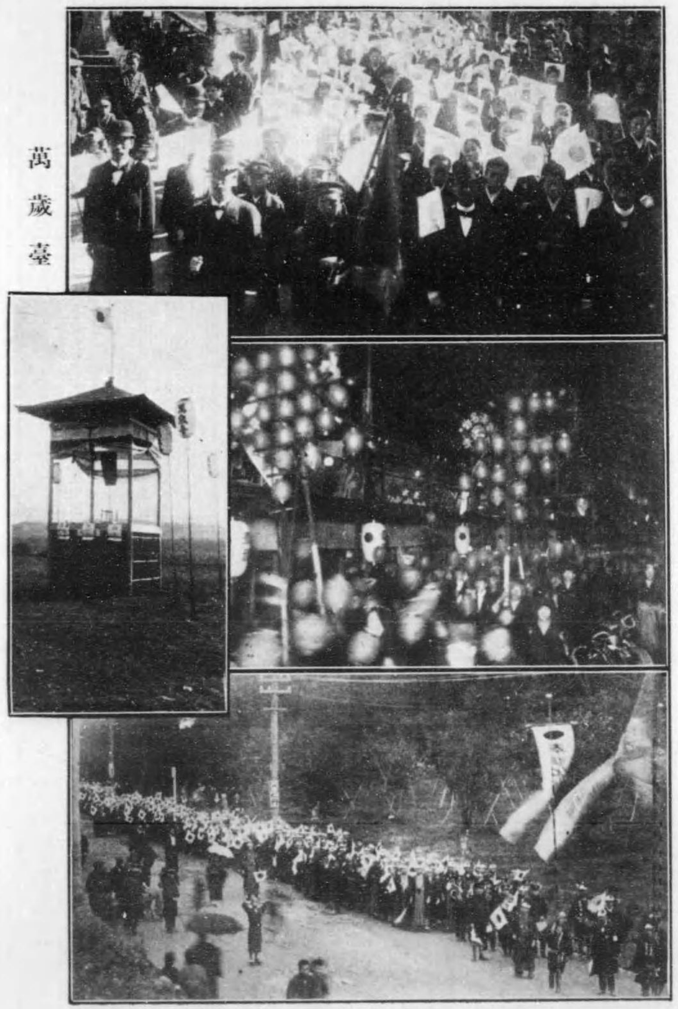


官縣立學校聯合提灯行列

市立小學校聯合提灯行列

青年團聯合提灯行列

提灯旗行列（其貳）



附屬小學校旗行列　北國新聞社主催提灯行列　魚組合旗行列

萬歳臺

會場係　小將町校長　佐久間啓太郎　味噌藏町校長　石川太郎次　瓢箪町校長　齋藤熊太郎
城西博親會幹事　松岡外次郎　下春日町青年團長　能澤拾次

指揮係　第一中學校教諭　渡邊盛次郎　石川縣屬　米村宇一　松ヶ枝町校長　村田宣保
近江町青年會長　野村喜一郎　犀川青年會長　角谷儀太郎　旭青年會長　渡邊正松

十一月十二日。市立各小學校聯合提灯行列を催行す。會同學校都て十四、參加兒童は四千三百二十餘人を數ふ。發するに臨み、會長の發聲に和し、一同萬歳を三唱し、大禮奉祝歌詞を唱へて行進し、隊伍正しく、唱歌能く調ひ。到る處、觀者牆を作せり。

是日市立各小學校聯合提灯行列を催行せり參加兒童は尋常科第四學年以上及び高等科各學年男兒四千三百二十餘人、會長山森隆以下各役員・市吏員・市會議員・各學校職員等約四百人此に加はる午後五時を期し小將町高等小學校庭に集合し五時三十分號砲の合圖に依り一同整列

し會長の發聲に和して萬歲を三唱し樂隊を先頭とし列首は野町校、列後は小將町校にして奉祝歌詞を唱へつゝ各自紅燈を揭げて行進し六時三十分に至り先頭は香林坊に到着するに及び豫定の如く各校順次歸路に就けり奉祝歌詞は實に左記の如し

一、天魔狂ふか歐洲の、　山野を鎖す黑雲は、
　年を閲して猶晴れず、　獨墺二國を敵として、
　英佛露伊の諸强國、　鎬を削る眞只中。

二、大空高く秋闌けて、　千草の露に星宿り、
　黃菊白菊おのがじし、　香りを四方に放ちつゝ、
　瑞氣溢るゝ我國の、　神代ながらの長閑さよ。

三、瑞穗の國を安國と、　堅磐常磐に齋いてし、
　遠天皇の遠つ日を、　かけて偲ぶも畏しや、
　現つ御神は神ながら、　高御座にぞ卽き給ふ。

四、萬國無比の皇國の、　千古未曾有の大典に、

遇へる我等が幸多さ、　いざ諸共に大君の、
　千代の榮えを壽がん、　八千代の榮え壽がん。

（第四高等學校八波教授作歌）

○市立各小學校聯合提灯行列の規程

是より先き提灯行列に關し設定したる規程は左記の如し

一、期　日　運動會擧行ノ翌夜ヲ以テ行フ但雨天順延（十四日ヲ除ク）
一、參加兒童　尋常第四學年以上ノ男子トス（四三二三人）
一、時　間　午後五時集合　同五時三十分出發
一、集合場　小將町校庭
　午後五時三十分號砲一發爆破ヲ合圖ニ
　兩陛下ノ萬歲ヲ三唱シ了リテ樂隊ヲ先途ニ行進ヲ始メ奉祝唱歌ヲ奏シツヽ進行ス
一、行列順　野町校—菊川町校—新竪町校—長町校—長土塀校—石引町校—材木町校—森山町校—馬場校—瓢箪町校—此花町校—芳齋町校—松ヶ枝町校—小將町校
一、通行順路　小將町校裏門ヨリ尻垂坂通・味噌藏町下中丁・橋場町・尾張町・博勞町・十間町・横堤町・上堤町・南町ヲ經、石浦町ニ至リ野町・菊川町・新竪町・長町・長土塀各校ハ片町ヲ通過シ犀川大橋詰ニテ歸途ニ就キ材木町・森山町・馬場・瓢箪町・此花町・芳齋町・松ヶ枝町・小將町各校ハ香林坊ヨリ柿木畠ニ入リ廣坂通・百間堀道路ヲ經テ歸路ニ就キ石引町校ハ廣坂ヨリ歸路ニ就ク

【參照】

縣教育會金澤支會の催しに係る市内小學校十四校の合同大提灯行列は參加兒童は尋常四年級以上の男子にして總員實に四千三百二十三人と註せられたる大團体待ち設けたる小國民は孰れも小跳しつゝ打ち喜び定刻を遲しと草鞋穿の結束も効々しく出て立ちて小將町小學校運動場差して雛せ參じ夫々各教師監督の下に所定の席に集合する鑢て午後五時半號砲を合圖に萬歳を三唱し歡聲天地を搖かすの壯觀を現出する次て嘲嘵たる樂隊を先頭にして一齊に泰祇唱歌を唱へながら赤提灯を振翳！威勢宜く繰り出したる順序は野町校を最先に藥川町・新竪町・長町・長土塀・石引町・材木町・森山町・馬場・瓢箪町・此花町・芳齋町・松ヶ枝町・小將町と隊伍を亂さず堂々と押し出し日頃唱歌で鍛へた聲を張り揚げつゝ提灯を翳したる鳧綺麗さ壯觀さ譬ふるにものなく蜿蜒長蛇の火駕を御するかと思はれ焔々火光烈々たる燈光天地彩りて沿道宛ら白晝に異らぬ美事さ一行は小將町を出て驀地に尻垂坂を味噌藏町下中丁に出て橋場より尾張町に上り博勞町より順路を經て石浦町に至つたが此處で材木町・森山町・馬場・瓢箪町・此花町・芳齋町・松ヶ枝町・小將町校は廣坂通を百間堀へ石引町校は廣坂を上つて夫々歸路に就いた沿道は此の壯觀に接せんものと辻々角々人の黑山を築いて犇めき合つたのは素晴らしい盛況を現じた——（北陸新聞）——

十一月十四日。別格官幣社尾山神社は、大嘗祭を行ふ、勅使參向して、幣物を奉れり。

是日別格官幣社尾山神社は大嘗祭を行ひ勅使石川縣知事代理内務部長夏秋十郎參向し幣帛を奉り祭文を奏せり其祭文に曰く

天皇乃大命爾坐世挂卷母恐伎別格官幣社尾山神社乃大前爾石川縣知事正五位勳四等太田政弘乎使止爲旦白給波久止白左久新代乃始乃大御典止今年乃此月乃今日乃此日天津御饌乃長御饌乃遠御饌止天皇乃大嘗閑食左牟爲乃故爾御使差志旦禮代乃御幣帛奉出志齋祭良世給布事乎平良氣久聞食志旦天皇乃大御世乎手長乃御世止常磐爾堅磐爾齋比奉利茂御世爾幸波倍奉利萬千秋乃長秋爾豐明爾明坐左志米奉利親王王等乎始旦皇朝廷爾仕奉留百官人等天下四方國乃人民爾至留萬旦爾彌益益爾立榮志米給倍止白給布

天皇乃大命乎聞食世止恐美恐美母白須

大正四年十一月十四日

是日。縣社椿原神社、暨び縣社宇多須神社は、大祭を行ひ、幣

帛供進使參向せり。

是日縣社椿原神社・縣社宇多須神社は何れも大祭を行ひ縣屬幣帛供進使を承りて參向せり

是日、豐び十五日。市の鄉社村社は、各大祭を行ひ、市長・助役參向して幣帛を供進し、祝詞を奏す。式は莊重を極めたり。

十四日鄉社久保市乙劍神社外十社は大祭を行ひ市長山森隆・助役飯尾次郎三郎等幣帛供進使と爲りて參向せり其神社等は左記の如し

鄉社　久保市乙劍神社　午前九時　鄉社　安江神社　正午
鄉社　犀川神社　午後三時　村社　諏訪神社　午後五時

右供進使　市長山森隆　隨員　市書記吉田錄三郎　市書記河崎吾郎

鄉社　豐國神社　午前九時　鄉社　尾崎神社　正午
村社　豐田白山神社　午後三時　鄉社　石浦神社　午後五時

右供進使　助役飯尾次郎三郎　隨員　市書記小泉顯治　市書記大塚伸三郎

以上指定神社

村社　地黃煎八幡神社　午前十時　村社　泉野菅原神社　午後一時
村社　市姫神社　午後四時

右供進使　市書記宮川米次郎　隨員　市書記竹內儀三

十五日鄉社泉野神社外六社は大祭を行ひ市長山森隆等幣帛供進使と爲りて參向せり其神社並に供進使等は左記の如し

鄉社　泉野神社　午前十時　村社　藤棚神社　午後二時

右供進使　市長山森隆　隨員　市書記松江甚吉　市書記大塚伸三郎

村社　泉野八幡神社　午前十時　村社　闕野神社　午後二時

右供進使　市助役飯尾次郎三郎　隨員　市書記吉田錄三郎　市書記奥村榮同

以上指定神社

鄉社　金澤神社　午前十時　村社　小橋菅原神社　午後一時
村社　白髭神社　午後三時

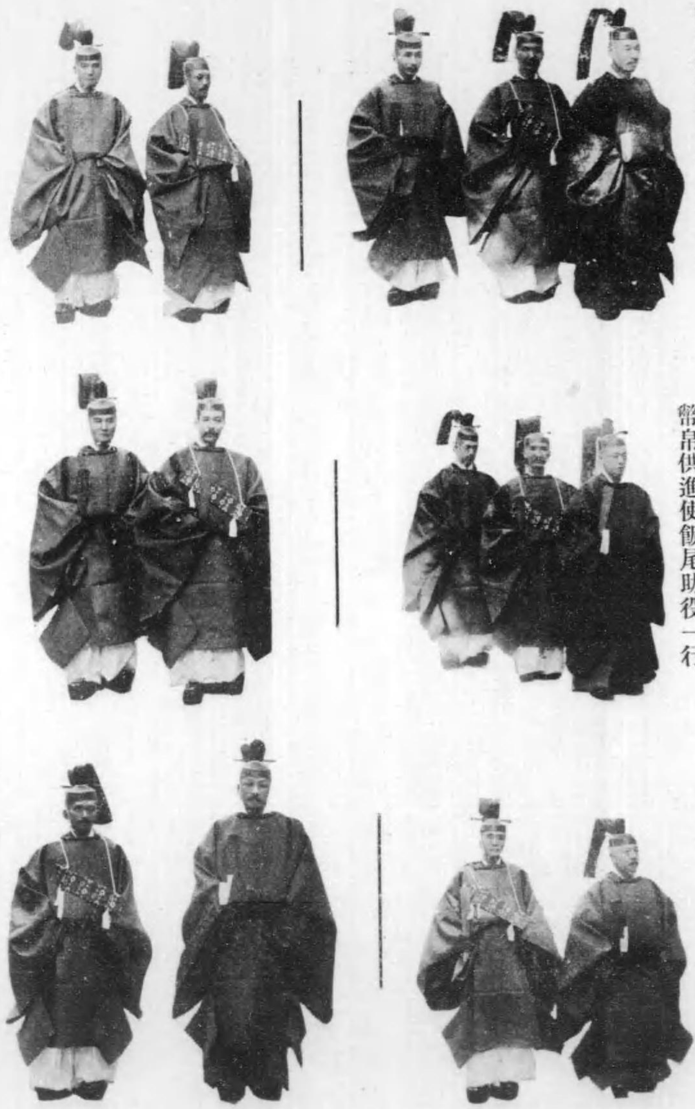
右供進使　收入役由比勝之　隨員　市書記杉山直諒

大祭に各神社神職の奏したる祝詞は左記の如し

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司社掌位勳功爵氏名恐美恐美母白左久天都日嗣高御座乃業乎承傳坐志氏食國天乃下知食須大御世乃始乃今日乃生日乃足日爾天皇命乃大嘗祭仕奉里給布爾依里氏此乃某道府縣郡市區村與里禮代乃幣帛捧奉留賀故爾八束穂爾莫莫然茂禮留秋乃初穂乎和稻荒稻爾仕奉里御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿竝倍氏海川乃物山野乃物爾至留麻傳種種乃物乎几物爾置足波志氏獻奉良久乎平介久安介久宇豆乃比聞食志氏天皇命乃大御世乎堅石爾常石爾齋奉里嚴御世爾幸奉里給比親王等諸王等乎始米氏百乃官乃人等天乃下乃國民爾至留麻傳撫給比惠給比氏天皇賀大朝廷爾五十槵八桑枝乃如久立榮衣仕奉良志米給閉登恐美恐美母白須

各指定神社の大祭に幣帛供進使の奏したる祝詞は左の如し

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾石川縣金澤市長勳四等山森隆恐美恐美母白左久天皇命乃天都日嗣知食須大御世乃始乃大嘗祭仕奉里給布賀故爾石川縣金澤市與里獻奉留禮代乃幣帛乎安幣帛乃足幣帛登



幣帛供進使山森市長一行

幣帛供進使飯尾助役一行

幣帛供進使由比収入役一行

幣帛供進使宮川市書記一行

大饗に召されたる地方人士

貴族院議員 男爵本多政以

男爵總代 男爵 横山隆俊

市選出石川縣會議長 辰村米吉

市選出衆議院議員 横山章

平介久聞食志氏天皇命乃大御食乎天都御食乃長御食乃遠御食登千秋乃五百秋爾平介久安介久聞食左志米給比天皇賀大朝廷乎始米氐天乃下四方乃國乃國民爾至留廉傳守給比幸給比彌高爾彌廣爾立榮衣志米給閉登恐美恐美毋白須

十一月十六日。聖旨あり、饗饌を地方官民に賜ふ因りて石川縣は縣會議事堂を以て、陸軍は歩兵第七聯隊營舍を以て、各賜饌場に充つ。市長・市會議長等、皆其儀に預れり。

是日は大饗第二日なり大饗第一日に召させ給ひし官民の中に市の貴族院議員男爵本多政以男爵總代横山隆俊・衆議院議員横山章・石川縣會議長辰村米吉等あり是日の賜饌に預れる者の中に市長山森隆・市會議長林直・市選出縣會議員米原於菟男・飯谷與右衛門・米村吉太郎・篠原讓吉等あり尚石川縣知事よりの優遇に因り預れる者等は大槩左記の如し

飯尾次郎三郎　奥忠彦　横山章　相川久太郎
野村喜一郎　横井末吉　飯森益太郎　富田輝象

萩原昌朔　丹羽幹松　本於苑　藤井務
男爵横山隆俊　横山隆興　横山ゑは子　横山彰子
横山他子　古丸藤三郎　田中ぎよ子　山根松太
村彦兵衛　佐野久太郎　石黒傳六　山川庄太郎
素谷篤爾　素谷喜沙久

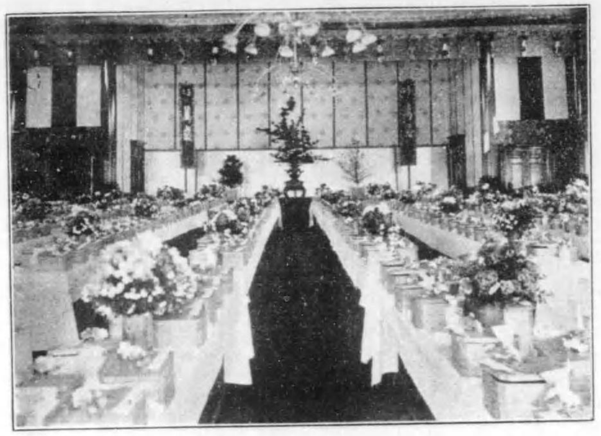
【參照】

地方廳側　式場に充てられたる縣會議事堂には門前に萬歳旗に因める綵門を樹て之に日傘、月傘を冠し向つて右の門柱側に古式の掲示標を立て、賜饌場なることを示せり其他場内外の施設遺憾なく成りて午前十時受付を開始するや十一時三十分の受付締切に於ては八百五十八名の參入者を算し徽章の黄綵、婦人白赤の順にて階上なる式場に入る此の間北陸軍樂會の奏樂「大禮記念行進曲」ありて心耳を澄ましむ正午着席（立食の卓に就く）了るや又北陸軍樂會「君が代」を奏すること二回茲に勅任官中の古參者たる金澤醫學專門學校教授山碕幹當日の上席者として左の賜饌拜戴の詞を述へ引續き御禮執奏方を一同に諮りたり左の如し

御大禮御擧行に際し特に本日を以て辱くも饌を賜ふ　聖旨優渥感激の至に堪へず一同益す奉公の誠を效し皇恩の萬一に報い奉らむことを期す茲に敬て　聖諭の無疆を祝ひ　寶祚の長久を祈り奉る

拜戴の詞には衆最敬禮を表し御禮執奏の詞亦叩頭して其の取計らひを託するの意を示す終つて一同賜戴

賜饌場内部



賜饌場外部

地方賜饌に召されたる市選出縣會議員

米原於菟男

篠原讓吉

米村吉太郎

餝谷與右衞門

を拜戴したるが御料理は御嘉美鯛・鮭穩蒸・蜜柑・炙鴨・菓附淺漬大根・卷昆布・栗の七種にして之に赤飯を合せて二重の折詰(盃は銀砂子蒔)とし清酒は本燒の瓶子に詰め又本燒の土器を添ふ別に右近の橘左近の櫻を擬したる羽二重製の挿頭花を附し之を胸間に翳さしむ次て山崎教授天皇陛下の萬歲を三唱し衆之に和して三唱此れにて目出たく賜饌訖り萬歲行進曲の軍樂にて一同退散したるは午後零時三十分なりき

——(北國新聞)——

陸軍側　(略す)

十一月十六日。市の大禮奉祝會を出羽町練兵場に擧行す。首に會長敬んで賀詞を捧讀し、次に萬歲を奉唱し、會員之に和し、杯を擧げて相慶す。會する者實に二千八百餘人。終始禮を肅み、出入序を端うし、敬虔靜肅、斯の如きは未曾有と稱せり。會長の賀詞に曰く。

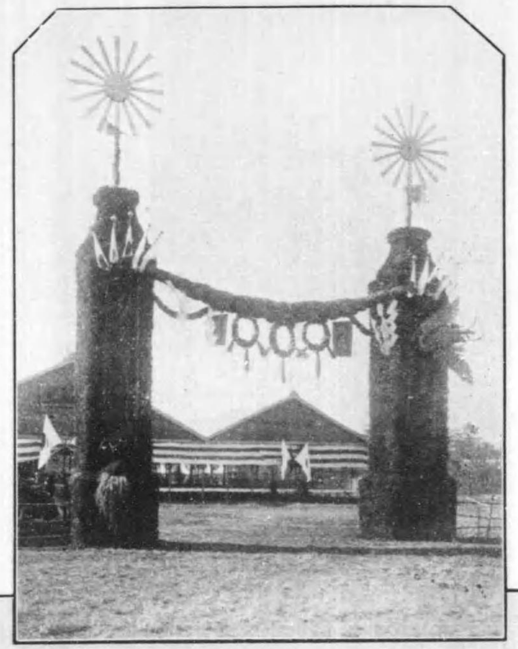
天皇陛下　卽位ノ大典ヲ行ハセタマヒ　宸儀端嚴ニシテ嘉儀荐ニ見ハル崇祀ヲ　宗廟ニ奉シサセタマヒ德音ヲ臣庶ニ降シタマフ　聖德ハ乾坤ニ配シテ愈厚ク　神威ハ遐邇ニ震シテ益重シ經國ノ圖遠クシテ邦基ハ愈固ク御俗ノ範恒クシテ民業ハ益安シ今ヲ以テ

來ヲ度ルニ其レ必ス至隆ノ治振古ニ踰ユルモノアラン隆等幸ニ有慶ノ昌期ニ逢ヒ歡悅ニ任ヘス玆ニ相會シテ壽觴ヲ擧ケ萬歲ヲ唱ヘ仰キテ　寶祚ノ疆ナキヲ祝シマツリ伏シテ　天恩ノ極ナキヲ謝シマツル

大正四年十一月十六日　御大禮奉祝會長山森　隆

御大禮奉祝會場は出羽町練兵場の一隅金澤偕行社の後方に建つ場は東北に面し前口二十四間奥行十七間屋根は三棟より成り別に場の中央後部に前口三間奥行二間の高臺を設け之を萬歲臺と稱ふ場の周圍に埒を繞らす埒は三十間に二十七間なり又會場の前面に三個の出入口を設け此に國旗を交叉し中央出入口には菊花瓣を以て奉祝會の三字を造成したる額面を掲げ場の屋根に無數の小國旗を張り瓦し四周に幔幕を張り天井に擬滿艦飾を施し高臺に萬歲旛を樹て大花瓶を寘き高臺の側に樂隊席を設く又場内を評議員・男子・婦人等各席に分劃し長卓を列ぬること七十餘白布を以て之を覆ふ人相對して立てば優に

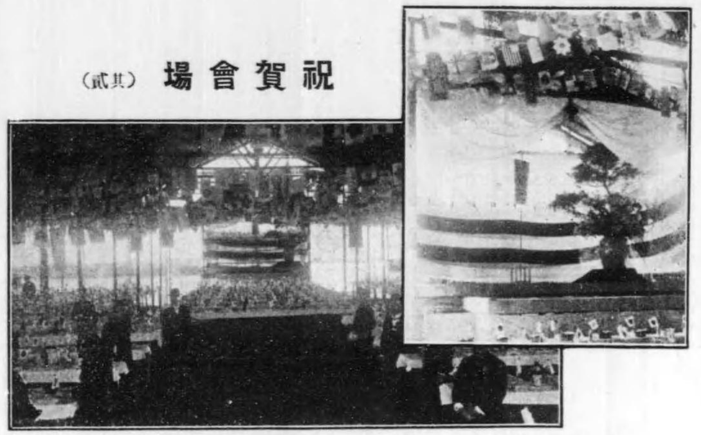
祝賀會場（其壹）



（上）綠門

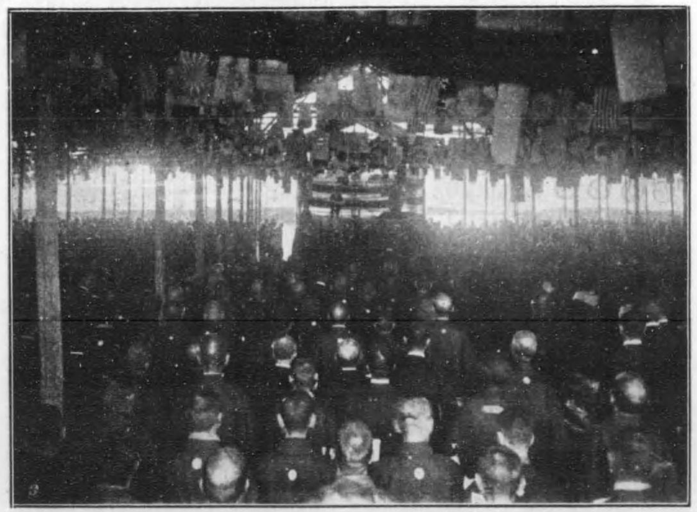
（下）會場

祝賀會場（其弐）



（上）會場高壇　（下）會場内部

會長壇に登り賀詞を讀む



三千人を容るべし又會場の前方に奉祝門を樹つ門柱方五尺高三十五尺兩柱の間隔二十尺あり柱は杉葉にて包み柱頭に日像月像を樹て萬歳旛を叉し右柱の上部に翔鶴左柱の下部に泳龜の造物を施し兩柱に太き注連繩を張り瓦し門内の左方に受附所を置けり

御大禮奉祝會は是日午後を以て開く三時第一振鈴に依り北陸軍樂隊奏樂の裡に會員一同著席し第二振鈴に依りて式を擧げ一同敬禮の裡君が代の奏樂に次で會長山森隆敬虔の態度を以て賀詞を捧讀し更に威嚴を正し萬歳旛の前面に進み天皇陛下萬歳を唱へ一同會長の發聲に和して萬歳を三唱し第三振鈴に依りて宴を開き祝杯を擧げ爆竹を以て興を添へ隨意退散せり

會員には受附所に於て徽章記念杯に會員名簿を添へて交付し又卓上配置の折詰に小國旗を挿したり

會員の來聚する者二千八百數十人始終善く秩序を保ち敬虔端嚴にして些の亡狀なく此の如きは未曾有なりと人皆語り合へり

○御大禮奉祝會の設立　是より先き十月十八日大典奉祝準備委員會を開き是日を以て御大禮奉祝會を開催するの儀を決めたり其會の規則は左の如し

御大禮奉祝會規則

第一條　本會ハ金澤市ニ於テ御大禮ヲ奉祝スルヲ目的トス

第二條　本會ハ御大禮奉祝會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ金澤市役所内ニ置ク

第四條　本會ハ其目的ヲ贊助スルモノヲ以テ組織ス

第五條　本會ノ經費ハ會費及ヒ其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　本會ノ施設スヘキ事業左ノ如シ

一、御大禮奉賀會ノ開催

一、餘興ノ設備

一、奉祝ニ適當ナル施設

第七條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名

副會長　一名

評議員　若干名

理事　若干名

委員　若干名

會長ハ會務ヲ總理シ副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ本會ノ重要事項ニ付キ諮問ニ應シ又意見ヲ提出ス

理事ハ各部擔任事務ヲ分掌シ委員ハ理事ノ下ニアリテ事務ヲ掌ル

又役員を定めたること左記の如し

會長　山森　隆

副會長　飯尾次郎三郎

評議員

市村　塘　今村源右衞門　石川二三郎　石澤辰太郎　林　直
西永　公平　男爵本多政以　領家久太郎　額谷喜兵衞　餝谷與右衞門
米村吉太郎　八日市屋清太郎　横井伊佐美　男爵横山隆俊　高坂　三松
辰村　米吉　田村　岩松　釣谷　他吉　永井喜之男　中堀　米藏
中　太吉　中島喜三次　村　彦兵衞　上田　計二　國原　喜平
山田　定吉　松田文太郎　二木二三郎　小鍛冶市左衞門　小森新太郎
油谷　定吉　阿部太右衞門　坂野權次郎　篠原　讓吉　清水　兼之
清水　清二　平田孫太郎　杉原　幹男　北國新聞社　北陸新聞社
石川新聞社　金澤毎日新聞社　大阪毎日新聞社金澤支局　大阪朝日新聞社金澤支局　新愛知社金澤支局

理事

由比　勝之　宮川米次郎　廣瀨　博久　吉田鋒三郎　小泉　顯治
河崎　吾郎　大森多三郎　松任外次郎　矢部彌太郎　和田文次郎

委員

庶務係

山岸　董正　笹川喜久太郎　戸田　勝直　竹内儀三　森　惣太郎　中西　與七
中條八十男　小堀　義信　伊東一太郎　毛受　吉正　山森喜十郎　奥村　榮同
梅田馨一郎　林　常吉　西　元治　山本　清毅

同　取締監督

後藤　尙行　山本　憑定　村田　間平

同　取締

下村　源太　北村　一男　近藤榮太郎　數枝　鐵吉　吉村彌三松　中川初三郎
澁井　政幸　中田　俊人　西川　茂　石倉鎌太郎　松澤甚太郎　松村　安一
橋爪　正寛　庄田　常保　伊藤　文吉　池田　三郎　井口小三郎　米島　和吉
宮腰清太郎　澤田　正純　柳村喜十郎　山口　不識　村田吉太郎　淺野　霞
渡邊爲三郎　諸江伊三郎　小松清次郎　小坂　忠藏　越田與三郎　蓑地爲次郎
津田　義一　安江與三郎　宮川春太郎　中川與三郎　山崎　亮吉　才川喜太郎

設備係

松江　甚吉　笠松　勝忠　藤田　耕一　西河　貞吉　小杉外三男　園部　俊三
小杉　喜八　河合　治太

會計係

杉山　直諒　清水　正樹　池田　隆　村上佐一郎　島村　平次

○御大禮奉祝會の經費

是日の大典奉祝準備委員會に於て御大禮

奉祝會の經費を左記の如く豫算せり

金貳千貳百貳拾圓　　總豫算

内

金壹千圓　　市補助

金壹千貳百圓　　會費

會員四千名ト假定シ會費一名參拾錢

金貳拾圓　　雜收入

閉會ノ後不用物品ノ賣拂

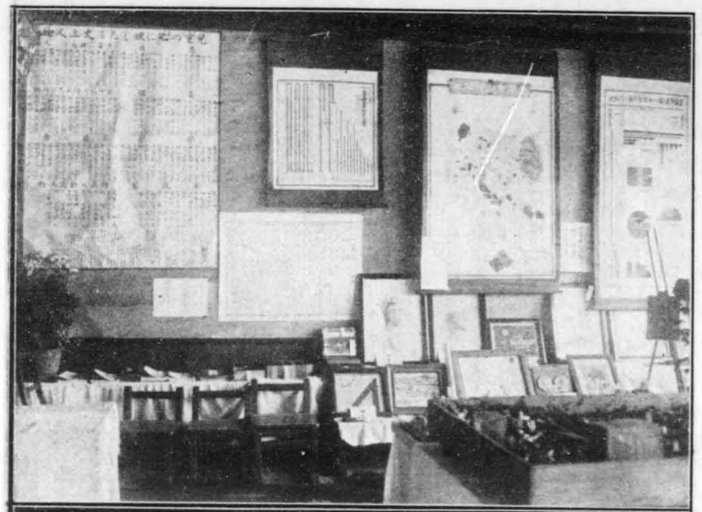
是より先き十月五日市會は奉祝會費補助金壹千圓の支出を可決せるなり

【參照】

金澤市の御大禮奉祝會は出羽町練兵場内に設備せる會場に於て開かれたり加入會員は二千八百に及べるが故に市吏員は午前より會場に出張して準備に從ひたり會場は三千人を容るゝに足るべき假小屋を建て四方に幕を繞らし西南に面したる處に一段高き離舍をしつらへ中央に萬歳旛を掲え男子席と婦人席とに分ち十數列の長卓に白布を覆ひ小國旗を樹てたる折詰を並べ參酒及び清酒を配したり會場前には高き綵門を設け左方に受附を置きたり午後一時より受附を開始し陸續詰蒐くる會員は踵を接し燕尾服に絹帽を戴けるあり大禮服の光彩燦たる正裝の官人あり黒紋附羽織袴の和裝者あれはフロックに山高帽を戴けるあり何れも一列となつて受附へ進みしが其列は蜿々長蛇に等しく練兵場の入口より列に入らざるを得ざるの大盛況を呈し定刻十分前即ち二時五十分には全會員悉く入場せり第一鈴にて一同着席し第二鈴を合圖に「君が代」の奏樂あり一同直立不動の姿勢を持して敬意を表し三千の會衆亦一語を發する無く謹嚴靜肅を極めたり奏樂に次て奉祝會長山森隆氏登壇し恭く祝辭を朗讀し次で會長は正面に飾られたる萬歳旛の前に進みて敬禮を爲し記念盃に祝酒を滿たし　天皇陛下萬歳を三唱するや三千の會衆是に和して萬歳を三唱し何れも滿杯を乾して衷心よりする奉祝の意を表す斯くて一同和氣藹々の裡に十分の歡を盡し何れも千載一遇の御盛儀を祝し奉り漸次退散せるは三時四十分當地方に於ては空前の盛會なりき

——（北國新聞）——

是日より二十日に迄る。市立各學校教育品展覽會を小將町高等小學校に開催し、以て大禮奉祝の微意を表せり。會同學校總べて十有八、出品點數總べて一萬二百九十有餘。二十二室を劃し、以て出品陳列場に充つ。觀覽する者三萬人を超え、教育上參考に資すべきもの尠少ならすと謂へり。



野町尋常小學校

菊川町尋常小學校

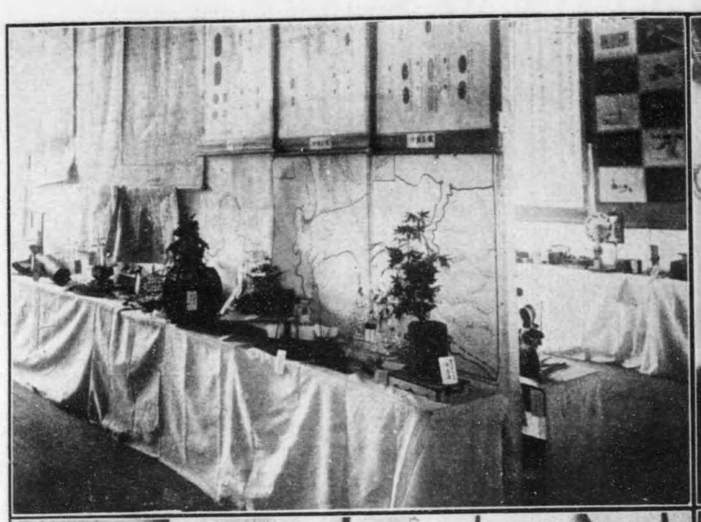
是日より二十日に至る五日間市立各小學校・女子職業學校・商業補習學校總て十八校の合同に成れる大禮奉祝教育品展覽會を小將町高等小學校に開催せり會場は一學校毎に一教室を配當し各其學校に屬する出品を陳列し陳列の場所總て二十二室其面積五百八十八坪あり又講堂を音樂室に充て各小學校選拔兒童に唱歌を演奏せしめ以て來觀者の倦怠を慰め講堂の後方及び側方に市立各小學校兒童身體檢査統計表と石川縣女子師範學校出品とを陳列し又理科教室には小將町高等小學校選拔生徒十數名をして理科器械を使用し且つ說明せしめ又生徒控室には女子職業學校生徒製作品を陳列し尙市內各商店をして教育品並學用品を陳列せしめ共に其販賣を許せり各學校出品點數總計一萬二百九十一點にして內兒童生徒の成績品は七千二百七十七點教師の製作工夫に成る物並に參考品は三千十四點なり出品に大禮奉祝の意を寓したるもの少からず出品を細別すれば左記の如し

一、兒童成績品

徒控室には女子職業學校生徒製作品を陳列し尙市內各商店をして教育品並學用品を陳列せしめ共に其販賣を許せり各學校出品點數總計一萬二百九十一點にして內兒童生徒の成績品は七千二百七十七點教師の製作工夫に成る物並に參考品は三千十四點なり出品に大禮奉祝の意を寓したるもの少からず出品を細別すれば左記の如し

一、兒童成績品

教育品展覽會（其壹）



小將町高等小學校

女子職業學校

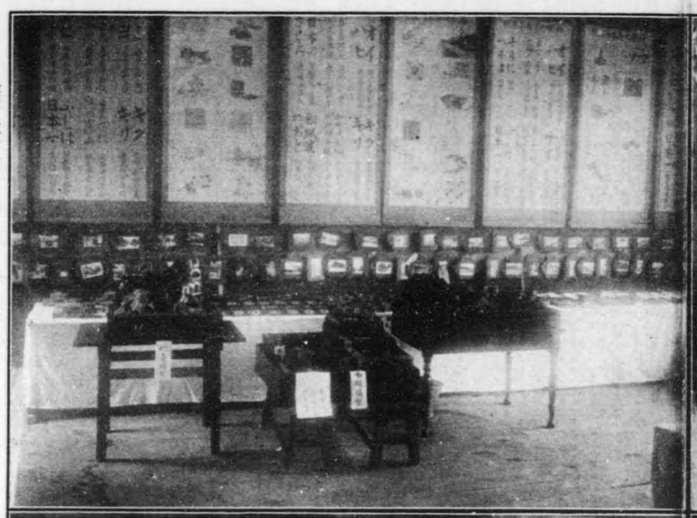
高岡町高等小學校

味噌藏町尋常高等小學校

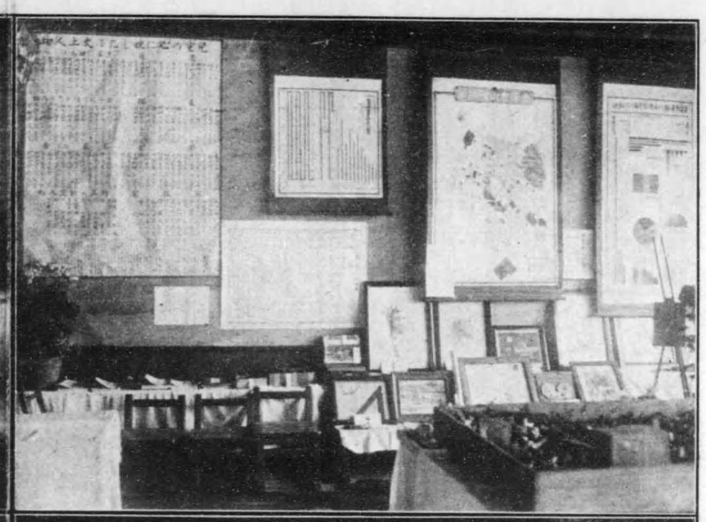
教育品展覽會（其貳）

唱歌室

此花町尋常小學校



新堅町尋常小學校

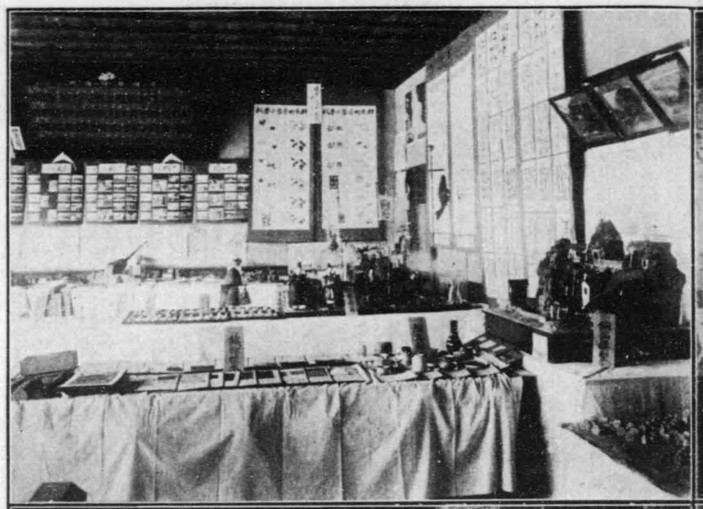


野町尋常小學校

石引町尋常小學校

菊川町尋常小學校

教育品展覽會（其參）



材木町尋常小學校

長土塀尋常小學校

松ヶ枝町尋常小學校

長町尋常小學校

新堅町尋常小學校

石引町尋常小學校

教育品展覽會（其四）

森山町尋常小學校

瓢箪町尋常小學校

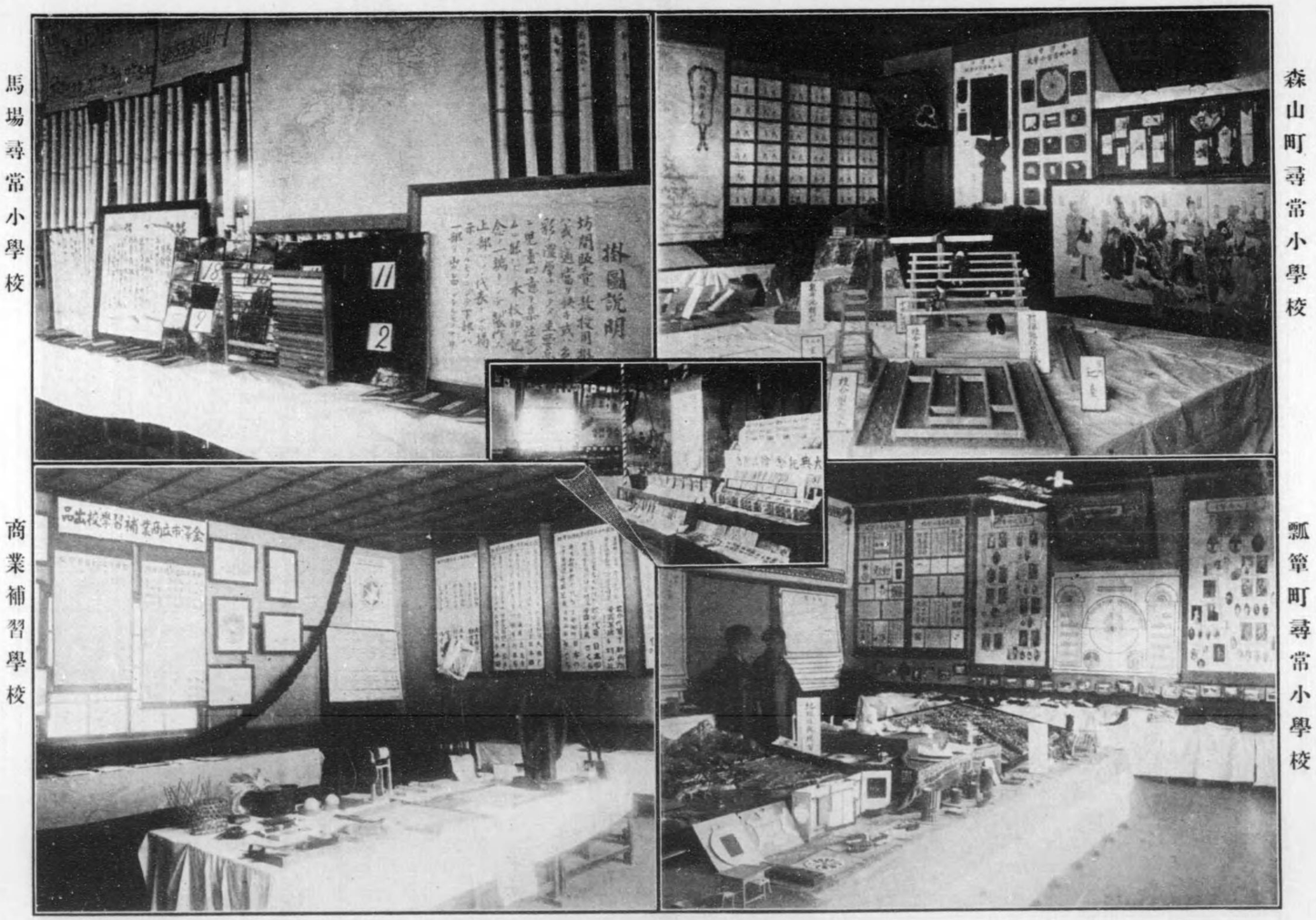
理化實驗室

唱歌室

芳齋町尋常小學校

此花町尋常小學校

（中）會場外部



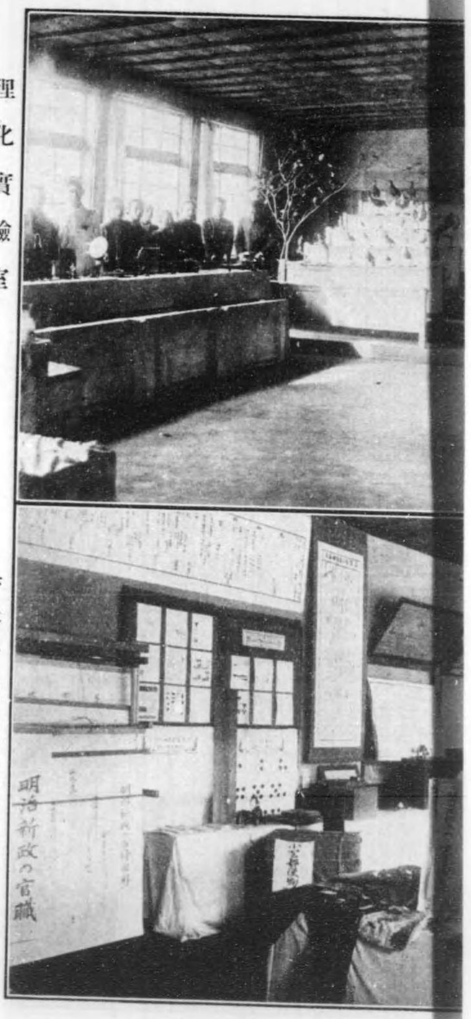
馬場尋常小學校

森山町尋常小學校

商業補習學校

瓢箪町尋常小學校

(中) 教育品販賣店



理化實驗室

芳齋町尋常小學校

小將町高等小學校

書方	五幅	英習字	一幅	圖畫	一八冊
圖畫	四幅	綴り方	一八冊	英習字	九冊	自由製作品	二四一点

高岡町高等小學校

綴方	三幅	書方圖畫（二枚折屏風）	一枚	圖畫	一一冊	手工	一二点
書方	四幅	書方	一一冊	裁縫	一三三點	手藝品	五一点
圖畫	四幅	綴方	一一冊				

味噌藏町尋常高等小學校

書方、手工	二幅	書方	一一冊	裁縫	一〇四点	手藝品	四八点
書方、圖畫	一幅	綴方	五冊	講堂裝飾模造電燈	二個	手工	一三五点
書方、綴方、圖畫	五幅	圖畫	六冊				

野町尋常小學校

書方、綴方、圖畫	八幅	書方	六冊	レース細工（額）	一面	附製作順序	三点
綴方	六冊	圖畫	四冊	同（造花）	一瓶	粘土細工（箱庭）	一個

縫取掛軸　一枚　折紙細工（藥玉）　一個　書方　四綴　貝細工（鳥居類）　一面

粘土細工（兎ト龜）　一組　書方　一幅　菊ノ圖　一枚　手工　二四〇点

同（泰祝ノ光景）　一組

新堅町尋常小學校

書方　二五綴　綴方　一七綴　圖畫　二幅　手工（共同製作）　三〇点

書方　五幅　綴方　一幅　書方、綴方、圖畫　四幅　裁縫　一八点

書方　二一枚　圖畫　一三綴　手工　七一五点

菊川町尋常小學校

書方　一二冊　手工　四六七点　圖畫、書方、綴方　八幅　圖畫　三枚

綴方　一〇冊　書方　二幅　藥玉（折紙合同製作）　一個　裁縫　一三六点

萬歳（折紙合同製作）　一幅　圖畫　八冊　書方　二枚　手工、書方、圖畫、綴方　二幅

石川縣地圖　一枚

石引町尋常小學校

書方　一八冊　圖畫、書方、綴方　八幅　裁縫　四二点　日誌　一二冊

綴方　一五冊　手工　三八〇点　圖畫、書方六個年間成績　一幅　夏季休業中ノ製作品　四五点

圖畫　一二冊

材木町尋常小學校

書方　一三冊　想像畫　二幅　藥玉（折紙合同製作）　一個　觀兵式（厚紙細工）　一枚

書方　三幅　系統的書方　二幅　提灯行列（切紙合同製作）　一枚　燈籠（厚紙細工）　一個

圖畫　四冊　系統的書方　七幅　切抜細工（合同製作）　一枚　手工　四三三点

圖畫　四冊　綴方　四冊

松ヶ枝町尋常小學校

書方　七幅　綴方　一三冊　綴方、書方　一幅　手工　六八〇点

書方　二一冊　圖畫　四幅　圖畫、手工　一幅　手工（共同製作）　一五点

綴方　四幅　圖畫　一一冊　地圖　一冊　裁縫　一〇六点

長町尋常小學校

書方、綴方、圖畫　八幅　綴方　一〇冊　手工（合同製作）　八点　裁縫　一一九点

書方　一二冊　地圖　四冊　手工　二五五点　兒童採取昆虫標本　五箱

圖畫　八冊

長土塀尋常小學校

書方　六幅　圖畫　五幅　裁縫　五〇点　大嘗祭模型（共同製作）　一点

書方　一〇冊　圖畫　八冊　敷字練習成績綴　四冊　巖上ノ兎（共同製作）　一点

綴方　三幅　手工　四幅　歷史年代表綴　三〇冊　軍艦（共同製作）　一点

綴方　五冊　手工　二二二点　讀本中ノ（共同遠足模型）（製作）　一点　神武天皇肯像（共同製作）　一点

鳳凰ト猊（共同製作）　一点
四季籠（共同製作）　四枚
大典奉祝（色板並）　一組

芳齋町尋常小學校

書方	一八冊	圖畫、書方、綴方	一六幅
綴方	一五冊	手工	一六三点
圖畫	一二冊	裁縫	二八〇点

私ノ町模型（共同製作）　一個
祝ノ額（共同製作）　一面
縫取リ額（共同製作）　三面
藥玉（共同製作）　一個
提灯行列（共同製作）　一枚

此花町尋常小學校

書方、綴方、圖畫	八幅	圖畫	一八冊
書方	三〇冊	手工	二二四点
綴方	二四冊	裁縫	一七九点

家屋模型（合同製作）　一点
麥稈縫取額（共同製作）　一面
校地校舍（共同製作）　一面
圖縫取　兒童日誌　一冊

瓢箪町尋常小學校

圖畫、綴方、書方	一八冊	圖畫、綴方、書方	六幅
圖畫	一幅	手工	二六〇点
書方	一幅	裁縫	五三点

日ノ出ニ鶴ノ額（合同製作）　一面
松ニ慶壽ノ文字額（共同製作）　一面
粘土獅子（共同製作）　一個
置物十二月切（合同製作）　一枚

馬場尋常小學校

書方	三幅	手工	二五点
圖畫	三幅	書方	一二冊
綴方	一幅	裁縫	一二冊

圖畫　八冊
書方優等成績　九冊
三組　學びの力　二冊
手工（合同製作）　一一点

森山町尋常小學校

書方	二幅	書方	二冊
圖畫、書方	二幅	圖畫	八冊
綴方	二幅	手工	二幅
書方、綴方	一〇冊		

手工　一六七点
裁縫　前垂にて組みたる屠而額（合同製作）　一面
色板並額（合同製作）　二幅　蜀花裁縫額（合同製作）　一面
桐編物額（合同製作）　二面

各小學校特別學級

綴方	六冊	書方	三幅

書方　六冊
綴方、書方　四幅

商業補習學校

習字、英語、簿記	一幅	英語科	一冊
習字科	一冊	商事要項	一幅

商事要項科　三冊
簿記科　一冊

女子職業學校

圖畫	三幅	圖畫假張	一面
習字、作文	三幅	習字、作文假張	一面
圖畫額	六面	圖畫	一三冊
習字額	二面		

習字　五冊　編物　一九点
作文　五冊　刺繍　一二点
裁縫　四八点　造花　一三点

二、教員製作工夫品並教育參考品

小將町高等小學校

石川縣地圖　二幅
本校遠足地方說明書　一部
歐洲戰局地圖　三幅
兒童ノ父兄トシテ一讀シテ價値アル書籍　八〇冊
石川縣、金澤市家禽調査表　二幅
紀元年數記憶法表　一幅
圖畫用撞葉　一組
昆虫標本　九箱
商業用掛圖（貨幣沿革圖）　六幅
大日本歷史年代圖　六幅
世界雨量圖　一幅
世界海流等溫線圖　一幅
世界重要都市圖　四一幅
綴方教授ニ於ル兒童誤用文字表　一幅
同　誤リ易キ文字表　一幅

高岡町高等小學校

大驚盤　一個
働ト反働トハ相等キコトヲ示ス器　一個
網膜ニ映シタル像ハ暫時消失セサルコトヲ示ス器　一個
反射應用隧顕箱　一個

算術公式表　一幅
セルロイド製造順序標本　一部
同　製品標本　一箱
光ノ分散說明器　一個
虹ノ說明器　一個
合力實驗器　一個
慣性實驗器　一個
水平面實驗器　一個
上、下、側、水壓實驗器　一個
洗浮子　一個
巾着あみ模型　一個
道德意識調査表（說明書付）　一統
商業用廣告書類　一幅
國定教科書ニ見レタル歌加留多　一組
簡易飛ビ臺　一臺
石油精製順序標本　一箱
炭水化物標本　一箱
圓運動實驗器　一個
熱ノ傳導實驗器　一個
試驗管挾　一個
モートル　一臺
禁鳥、保護鳥等ノ剝製　二五〇羽
筆洗器　一個
玩具　七〇点
液体ノ對流實驗器　一個
あぐり網模型　一統
地曳網模型　一統
刺網模型　一統
蒸汽機關模型　一個
古代服裝ノ標本　六揃

歷史年代表　一幅
日本時代別人名一覽　一幅
高等小學理科教授掛圖　二四幅
舊金澤城圖　一幅
學校概覽　一幅
高等小學算術科調査書類　一冊
高等小學算術科教授細目　一冊
高等小學日用簿記例題　一冊
高等小學日用帳並計算一覽表　一冊
女子用高等小學讀本類語類句集　四冊
文學諸表（女子用高等小學讀本卷ノ二第二十四課中ニ出タルモノヲ集ム）　二冊
織物標本　八幅
昆虫標本　三箱
安全瓣模型　一個

味噌藏町尋常高等小學校

校舍平面圖額　一面
沿革史　一冊
校規　一冊
本校施設要覽　一枚
各學年學科教授細目　二一冊
講堂訓話要錄　一冊
各學科教辨物調査書　二冊
兒童身体檢査比較（同上圖表共）　四枚
脊柱矯正一覽　一冊
兒童晝食々量調査書　二冊
兒童晝食々量統計表　一枚
尋常小學讀本漢字部首提示圖　五枚
平、片假名及結構示範圖　五六枚
外國度量衡ニ關スル直觀方便物取扱材料　一枚
大正三年日々氣壓氣溫測量圖表　一枚
日本支那西洋對照年代表　一枚
國勢發展圖　一枚
德川時代人物年代表　一枚
戰國時代群雄年代表　一枚
主要輸出品產地府縣別圖　一幅
金澤附近里程圖　一幅
簡易理科實驗器械　五〇点
圖畫標本　一二枚
本譜掛圖　一二枚
樂譜スタンプ　一箱
裁縫標本　一六点
手工標本　八箱
漆器製作順序　一箱
漆器製作ニ用フル漆並色料ノ種類　一箱

野町尋常小學校

本校々規　一冊
本校兒童訓練要綱　一冊
本校兒童坐右ノ銘　一冊
日用福事ニ關スル比較表　一冊
日用福事問題集（同上答案共）　一枚
兒童ノ心ニ映シタル史上人物比較表　八冊
同上答案　一枚
算術補足問題　四冊

新堅町尋常小學校

石川縣主要物産種別表　一冊
金澤市主要物産種別表　一冊
算術資料石川縣地圖　一冊
算術資料新堅町尋常小學校通學區域圖　一冊
書方姿勢並基本掛圖　一冊
正俗字對照表　一冊
間違易キ假名遣表　一冊
漢字扁旁表　一冊
國定讀本類字表　一冊
算術教材精査案　一冊
理科教授細目要綱　一冊
用具上ヨリ分類シタル畫ノ種類　一冊
新定畫帖取扱ニ關スル新研究　一枚
寫生台　八冊
新考案裁縫箱　一枚
郊外教授用地圖　四冊
石川縣地質圖　一冊
石川縣地質圖附代表岩石　二三点
金澤市鄉土誌教授參考草案　一冊
金澤市土地高低圖　一枚
鄉土誌用金澤市街地圖　一幅
本邦人口五萬以上ノ都市比較表　一幅
金澤市重要物産比較表　一幅
石川縣ニ對スル本邦重要物産比較表　一幅
學校模型　一個
歷史項目年代表　一幅
大日本帝國鐵道線路別地圖　一幅
大日本帝國重要物産主産地圖　一幅
音ノ長短ヲ示ス圖　一幅
有聲無聲ヲ示ス圖　一幅
尋常小學讀本書入　一幅
尋常小學修身、讀本年代考　一幅
商業資料　一幅
昆虫標本　一幅
水の旅教授用箱庭　一個
砲臺模型　一個
教室掲示用回轉自在繪葉書挾二面　一個
石川縣主要物産　一箱
金澤市主要物産　一二冊
參稈染色順序　一八点
參稈製造品　一二点
衽方縫方順序　三点

元祿袖縫方　二点
片布接方種類　六点

菊川町尋常小學校

日數計算表　一枚
保護者職業別統計表　二枚
書キ方注意文字　一一冊
常識試驗解答表　一枚
足利時代年代圖　一枚
燒物製法順序ヲ示ス圖　四枚
神代表　一枚
讀ミ方教材中ノ音ト昔ト今ノ旅模型　一個
讀ミ方教材中稻ノ播種ヨリ收穫ニ至ル作業狀態ノ模型　一個
額面（大典紀念）　一個
廢物利用　一点
四ツ身ヲ用ヒテ本裁縫方ニ直ス仕方　一点

石引町尋常小學校

紫宸殿御前ノ儀模型　一個
大典記念京都近傍地圖　四枚
額面（大典奉祝）　一枚
石川縣地圖　一枚
石川縣歷史地圖　四枚
石川縣物産地圖　二枚
石川縣はめ繪　一枚
石川縣地理見立　一個
石川縣ヲ中心トシタル日本地理統計表　一枚
金澤市地圖　一枚
金澤市附近地圖　一枚
金澤市附近地理模型　一枚
金澤市四境展望圖　一枚
金澤市氣象圖　一枚
金澤城平面圖　一箱
金澤市高低繪圖　一枚
金澤市歷史年表　一枚
前田家系圖　一枚
金澤市內學校系統圖　一枚
金澤市內官衙系統表　一枚
金澤市人口推移（各市比較）表　一枚
金澤市產業調査表　一枚
金澤市內重要物産標本　四〇種
歐洲戰亂國色別地圖　一幅

日本陸海軍配備圖　一幅
日本領土發展圖　一幅
本校兒童身長發育表　一枚
本校兒童ノ投票シタル偉人見立鑑　一枚
本校兒童夏季休業前後体重比較表　一枚
本校兒童夏季休業中旅行方面調査表　一枚
本校兒童賃仕事調査表　一枚

材木町尋常小學校

奉祝唱歌額　一面
銅山模型　一奉
簡易理科器械　一個
磁石ト電流ノ關係ヲ示ス機械　一組
織物標本　一組
本材標本　一組
陶器標本　一組
本校々舍圖　二枚
本校一覽表　一枚

松ヶ枝町尋常小學校

大典當日兒童住所分布圖　一幅
職業別學業操行等比較表　一枚
兒童成績比較表　一枚
輸出入品統計表　五枚
金澤郷土直觀材料　一枚
金澤市重要產業發達史　一枚
兒童体格累年比較表　一枚
兒童脊柱累年比較表　一枚
兒童疾病累年比較表　一枚
臺灣、滿洲、朝鮮、樺太ノ風俗ヲ示ス物品　八四点
豐太閤桃山殿屋根瓦　一枚
大砲ノ彈丸附屬機具　足　一領
古代人形　六個
五人囃子　一組
內裏雛　一組
五月幟　一基
本校兒童病氣調査表　一枚
日本織物標本　三五種
造花藥玉　一個
新按計數牌　一個
新按兒童用計數牌　三個
大鷲　一個
本校學校園術畧圖　一幅
本校學校園ニ栽培シタル菊花　一枚
本校學校園ニ栽培シタル千輪咲　二〇本
學校園ニテ採取シタル昆虫標本　二鉢
學校園ニテ採取シタル植物標本　八枚
日本織物產出圖　一四枚
日本織物產出圖　一幅

大嘗宮模型　一個
オンドル模型　一個
カーチス式飛行機模型　一個
關ヶ原戰場模型　一個
簡易理科機械　二〇点
石川縣對照本邦重要物產統計表　三冊
本校一覽表　一枚
本邦古今官制比較表　一幅
壯丁體格累年比較表　一枚
身体檢查統計累年比較表　一枚
金澤市工產物累年統計表　一枚
累年輸出入比較統計表　一枚
小學校參考歷史科繪葉書　二冊
小學校參考修身科繪葉書　一冊
算術科教材說明器　十三点
裁縫標本　一綴
兒童嗜好教科調査表　一枚
教室用紙筒　一個
兒童參考現時要路人士一覽　一面

長町尋常小學校

雛壇　一組
ゴム風船球製作順序標本　一組
地球模型板　一個
速算練習器　一個
製銅順序標本　一組
電池附燈臺模型　一個
軍艦模型　一個
動的歷史年代板　一個
簡易掛圖掛　一個

長土塀尋常小學校

國勢發展表　七枚
金澤市主要工產物比較表　一幅
最新金澤市街地圖　一幅
尋常科算術數ノ擴張一覽表　一枚
算術教材通覽表　一枚
讀本中主ナル會意形象文字調査表　二枚
書方基方点劃表　二枚
學校施設一覽表額　一面
學校平面圖額　一面
校下學區分地圖額　一面
兒童体格比較表額　二面
職員一覽表額　一面
兒童身体學力操行町別調額　三面
沿革等一覽表額　一面
各教科教授上ノ注意　一冊
我校ノ執ル主義　一冊

金澤市鄉土誌用地圖　二幅
地理教授用模型　四個
地層斷面並掘井模型　一個
地勢高低示教模型　一組
闇歇溫泉模型　一組
犀川產魚類　四一個
蠶ノ發育順序標本　一二個
簡易鏡影擴大箱　一個

芳齋町尋常小學校

金澤市附近地圖　一枚
金澤市及附近主要地表高圖　一枚
日本現勢說明圖　一枚
領土沿革說明附圖　九枚
歐洲交戰各國略圖　一枚
南洋畧圖　一二
繭物製作順序及標本　一二
脊柱彎屈兒童矯正法實施規程　一冊
學校園植物案內　一枚

實物幻燈機　一組
三才女模型　一組
保護者會々則　一冊
長土塀尋常小學校々規　一冊
通學區ノ狀況　一八冊
長土塀尋常小學校施設概覽　一枚
講堂訓話要錄　一冊
數字練習用紙　一冊

漢字練習用紙　一冊
地理のたすけ　三〇冊
漢字ノ書取　三冊
歷史年代表　一枚
東洋パナマ帽編方順序標本　一組
實力試驗成績統計表　一枚
蝦夷松　一鉢
椴松　一鉢

交戰各國ト我國トノ主要貿易品表　一枚
各府縣勢統計圖表　二枚
本邦主要山脈縱斷表高圖　一枚

此花町尋常小學校

裁縫掛圖　二二枚
修身科德目等一覽表　一枚
母音發音口形圖　一枚
國定尋常小學算術書教材配當表　一枚
手工切紙標本　一四枚
鄉土地圖　一枚

瓢箪町尋常小學校

金澤市輸出入品圖案的一覽表　一枚
石川縣產業地圖　一幅
國力發展及國勢比較表　一幅
皇室ノ御繁榮系譜（御背像入）　二幅
第一學年書方示教圖　三八枚
裁縫教授解剖示教圖　二七枚

石川縣々勢統計圖表　一枚
本邦輸出入額統計表　一枚
金澤市ニ於ル生產額並配當額　二枚
生產額上ヨリ見タル縣下ニ於ル金澤市ノ位置　一枚

金澤鄉土地誌教授用模型　一個
手工製作順序　三四枚
物產比較表　二六枚
理科掛圖　四枚
町別學年比較表　二枚
町別學年操行比較表　二枚

田族のいそしみ　一枚
屬面上ノ勅語分解　一枚
母韻口形圖　一枚
桃太郎凱旋模型　一組

町別學年体格比較表　二枚
地理部分圖　一五幅
硫黃結晶　一点
國定讀本及修身書ニ表ハシタル人物表　一枚
在籍兒童異動調査　一枚
簡易理化實驗器械　三二点

兒童身体檢查成績累年比較表　一枚
保護者職業別人員並ニ保護者職業ト兒童成績トノ關係調査表　一枚
兒童体格學業操行ト保護者實力トノ關係調査表　一枚
通學町別兒童學業操行關係調査表　一枚
中途入學兒童ト在來兒童トノ比較並ニ兒童學業操行ト家族關係調査表　一枚

臨畫ニ於ル特殊觀察方法（附額）　一枚
大典奉祝記念紫宸殿ノ御儀押繪額　三面
裁縫教授用標本　一面
地理示教模型　二〇点
鄉土地理教授用金澤市街模型　一個
鉛筆製造順序標本　一個

醬油製造順序標本　一組
飴製造順序標本　一組
石鹸製造順序標本　一組

馬場尋常小學校

各科教授ノ方針　一三冊
訓練細目要綱　一冊
修身書ニ於ル教材内容ノ系統　一冊
訓練實施事項學年配當　一冊
綴方文題及教授要項　一冊
書方新出文字ノ調査　一冊
運筆順ノ調査　一冊
基本劃運筆練習毬書　二四枚
讀方科ト聯絡シタル地理書新出文字調査　一冊
讀方科ト聯絡シタル修身書新出文字　一冊
讀方科ト聯絡シタル理科書新出文字　一冊
讀方科教授要項　三冊
暗算教程　一冊
應用問題構成資料　一冊

理化實驗簡易器械　九点
圖畫教授用展開法示教圖　一枚
圖畫教授用切斷法示教圖（附切斷標本）　一枚
簡易寫生臺　一個
圖畫教授用植物畫方示教圖　一枚

圓ノ面積ヲ求ムル木製圓板　三二個
圓周率說明板　三六枚
矩形ノ面積ヲ求ムル說明板　三二枚
各種ノ形ノ面積ヲ求ムル說明板　一〇種
計數器　一個
分度器　一個
一學年用計數實物　六種
一學年用計算練習板　一枚
竹製ノ桝　四個
尺度　三種
計算練習掛圖　五枚
寒暖計目盛廓大表　一幅
讀方ニ現レタル理科教材理科ト他教科ニ現レタル理科教材トノ聯絡程度　一冊
讀方及修身ニ現レタル地理及歷史教材　二冊
他教科ニ現レタル地理及歷史教材　二冊
新舊地理附圖ノ比較研究　一冊
歷史掛圖　一一幅
歷史人物配布圖　一幅
歷史年代表　二幅
地理掛圖　一六幅
木邦物產地圖　一幅
理科掛圖　二一幅
理科簡易器械　一六種
透視標本　二種
冬季遊戲法　一冊
體操科教材調査　一冊
小運動會要覽　一冊

薄弱兒童取扱ノ概要　一冊
裁縫標本　二學年兒童練習用算術　一冊
手工掛圖　一組　各部研究記錄　六冊
音符長短比較表　三九幅　統計表額面　五個
唱歌掛圖　一幅　二宮尊德像　一個
時計模型　七七幅　乃木大將像　一個
搭所掲示　一個　校訓圖解額面　一個
　　一冊　校歌　一枚

森山町尋常小學校

校舍附近理科地圖　一枚　御大典記念幅　一冊　出席歩合比較額面　二個
理科簡易器械　一八点　本校一覽　一枚　市輸移出入主要日用品一覽表　一枚　大正額（參釋細工縫取）　一面
泉、井、池ノ模型　一個　繪葉書縱横自在挿　一個　郊外用辨當掛　一面　出席歩合表彰額　二個
尋常小學校學校園植物一覽表　一枚　包紙標本類　二面　皇朝風俗發達畫屏風　一点　校下學區別地圖額面　一個
星ノ圖　一枚　結紐標本類　二面　實物幻燈　一組　校舍模型　一個
木劍体操細目圖解　一冊　遊戲体操器械　五点　校下物產　八点　校舍圖　一個
木劍体操細目　三枚　織物標本　七五点　木鍬　一揃　國定教科書ニ現レタル作物一覽　一個
人物年代表　一枚　飛行機　一臺　昆出ニ就テノ俗說ト迷信　一箱　飛行機模型　一個

小學校特別學級

教授用日本地圖　一二幅
教授細目　七冊
特別學級一覽表　一枚
兒童及保護者職業別表　一枚
兒童身体檢査統計及父母存否調査統計表　一枚
特別學級兒童用地圖　一冊

商業補習學校

學校沿革　一枚
學校大要一覽　一枚
科別一覽表　一枚
現在生徒業務及保證人職業別調表　一枚

女子職業學校

圖畫ノ種類額　八面
編物額　二面

高口學校醫

金澤市小學兒童身長等比較表　一枚

特別學級兒童父母存否比較表　一枚
特別學級兒童在籍及出席比較表　一枚
マニラ眞田織機械（附屬用具）　六点
機業管桑機械　一点
刺繍及其型　三点
金箔及製箔用具　一揃

現在生徒年齢比較一覽表　一枚
現在生徒入學前ノ教育比較表　一枚
最近五ヶ年間入學生比較表　一枚
最近五ヶ年間半途退學生比較表　一枚

造花植鉢　二個
刺繍袋物　二個

金澤市小學兒童三疾病等學科ノ比較表　一枚

マッチ及其製造材料　一揃
線香及其製造材料　一揃
竹細工製品　三点
木箱　一点
其他　二点

最近五ヶ年間卒業生比較表　一枚
最近一ヶ年間在籍生徒百ニ對スル日々出席平均數各自比較表　一枚
最近一ヶ年間在籍生徒百ニ對スル皆勤生徒數各月比較表　一枚

裁縫袋物　二個

金澤市小學兒童各年齢間發育度合表　一枚

金澤市役所

學事一覽表　二枚

石川縣女子師範學校附屬小學校

兒童現住所一覽表圖　一枚
コドモトオマツリ　一枚
兒童家長職業別表　一枚
校舍平面圖　一枚
兒童出身地表　一枚
兒童住所分類一覽　一枚
兒童家庭電話一覽　一枚
モンテツソリー女史考按視覺練習用板餅　一組

モンテツソリー女史考按視覺練習用型紙　一枚
同考按視覺練習用錘刺　一枚
同考按視覺練習用方塔　一枚
同考按視覺練習用階段　一枚
同考按視覺練習用角柱　一枚
同考按視覺練習用糸卷　一枚
同考按觸覺練習用組滑板　一組

モンテツソリー女史考按觸覺練習用布箱　一組
同考按觸覺練習用文字板　一組
同考按筋覺練習用壓重　一組
同考按聽覺練習用音筒　一組
同考按教ヘ方練習計數板　一個
同考按數ヘ方練習用計數函　一個
同考按手指運用練習用具　一組

是日午前九時開會式を擧ぐ首に君が代を合唱し次に會長山森隆式辭を朗讀し次に奉祝歌詞を合唱せり式辭に曰く

振古未曾有ノ大典ヲ行ハセ給フノ時ニ當リ市ハ教育品展覽會ヲ開キ此ヲ以テ大典奉祝ノ一法トナス惟フニ聖旨深遠ニシテ常ニ教育ヲ奬勵セサセ給ヒ民智ヲ啓キ道義ヲ正フシ以テ國本ヲ培養セシメ

給フ茲ニ本會ヲ開キ之ヲ展觀シテ比較研究セシメ以テ敎育ノ發達上進ニ資セントス其効果素ヨリ當ニ尠カラサルヘキヲ信ス庶幾クハ亦以テ聖旨ノ萬一ニ答ヘ奉ルヲ得ンカ局ニ當ル者幸ニ此意ヲ諒シ終始事ヲ圖ルコト愼重ニシテ忠實ナランコトヲ望ム一言以テ式辭トナス

大正四年十一月十六日　大典奉祝敎育品展覽會長　山森　隆

二十日午後四時閉會式を行ふ首に君が代を合唱し次に會務を報告し次に會長山森隆式辭を朗讀せり式辭に曰く

振古未曾有ノ　大典奉祝ノ一方法トシテ市ハ本月十六日ヨリ敎育品展覽會ヲ開催セシニ各學校ノ出品自ラ特色アリ當事者カ苦心經營ノ跡歷々トシテ存スルヲ見ル然シテ開期中觀覽者日々萬ヲ以テ計フ惟フニ稗益ヲ敎育上ニ及ホシタル蓋シ鮮少ナラサルヘシ亦以テ奉祝ノ微意ヲ貫徹シタルヲ喜フト共ニ當事者ノ勞ヲ多トス茲ニ本日ヲ以テ閉會ノ式ヲ擧クルニ當リ一言以テ式辭トス

大正四年十一月二十日　大典奉祝敎育品展覽會長　山森　隆

又觀覽者は一日平均六千餘人に當り五日間を通じ總計三萬を超えたり

○市立各學校敎育品展覽會の規則並役員　是より先き九月六日各學校長並市學務委員協議を盡し敎育品展覽會をも開催して大禮奉祝の微意を表することに決定し敎育品展覽會經費豫算金千圓は十月五日の市會にて可決確定を經たり規則は實に左記の如し但別に處務細則あり此に省く

大典奉祝敎育品展覽會規則

第一條　本會ハ御卽位大典ヲ奉祝シ敎育ノ發達上進ニ資スルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ大正四年一月十六日ヨリ二十日ニ至ル五日間小將

町高等小學校内ニ開設ス

第三條　本會事務所ハ小將町高等小學校内ニ置ク

第四條　本會出品ノ種類ハ左ノ如ク之ヲ定ム

一本市立各學校生徒兒童ノ成績品

但小學校兒童ノ成績品ハ書キ方綴リ方圖畫手工裁縫トス

二教員ノ工夫製作ニ成レル教授用具並研究調査物件

三教育上ノ參考品

第五條　教育品製作者又ハ販賣業者ハ本會ノ承認ヲ經テ參考品ヲ出品スルコトヲ得

第六條　各學校ニ於テハ品目數量ヲ明記シタル出品目錄ヲ調製シ開會當日迄ニ本會事務所ヘ提出スヘシ

第七條　出品物ノ陳列方ハ本會ノ指定スル場所ニ於テ各學校適宜ニ處理スヘシ

第八條　公衆觀覽ノ時間ハ毎日午前九時ヨリ午後四時迄トス

但時宜ニ依リ時間ヲ伸縮シ又ハ臨時入場ヲ止ムルコトアルヘシ

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名　副會長　一名　顧問　若干名

理事　若干名　委員　若干名

第十條　會長ハ本市長之ニ當リ本會一切ノ事務ヲ統理ス

副會長ハ本市助役之ニ當リ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ代理ス

顧問ハ會長ノ諮問ニ應シ會務ヲ補助ス

顧問理事及委員ハ會長之ヲ囑託ス

理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ニ從事シ委員ハ會長ノ指定ニ依リ理事ノ事務ヲ助ク

第十一條　本會處務ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

又役員を置けること左記の如し

會長　市長　山森　隆

副會長　助役　飯尾次郎三郎

顧問

學務委員　林　直

學務委員　清水兼之

學務委員　能澤長太郎

學務委員　二木二三郎

理事長　市視學　矢部彌太郎

庶務主任理事　野町校長中越錠三郎

庶務理事　瓢箪町校長齋藤熊太郎　長土塀校長池田循吉　此花町校長中重俊

市書記山岸董正

庶務委員　小將町校訓導小川信之　小將町校訓導中村彦次郎

會場主任理事　小將町校長佐久間啓太郎

會場理事　長町校長太田定義　石引町校長中村常三　馬場校長北川友三郎

菊川町校長中宮佐久太郎　森山町校長稲川尙新　材木町校長内藤才次郎

學校醫高口保太郎

會場委員　小將町校訓導山崎忠固　小將町校訓導淺野乙吉　小將町校訓導岡崎信全

小將町校訓導飯倉好久　小將町校訓導野村外次郎　小將町校訓導野村豐康

小將町校訓導野村義信　小將町校訓導土方益三郎　小將町校訓導黒瀨覺太郎

接待主任理事　女子職業學校長井上茂

接待理事　新竪町校長前田拾次郎　松ヶ枝町校長村田宣保　芳齋町校長高桑準一

接待委員　小將町校訓導松崎友吉　小將町校訓導加藤留信　小將町校訓導竹屋藏

小將町校訓導佐々木定安

會計主任理事　高岡町校長岡崎政照

會計理事　味噌藏町校長石川太郎次　市書記加藤俊一

會計委員　小將町校訓導中村爲吉

理科實驗委員　小將町校訓導中村齊　小將町校訓導木村修治　小將町校訓導宮口與吉郎

小將町校訓導山崎磯兵衛

【參照】

御大典奉祝として小將町高等小學校内にて催されたる市内各小學校の教育品展覽會は正門に大典奉祝展覽會と花文字にて記せる扁額を掲げたる大アーチを建設し門内には大國旗を立てそれより縱横に擬滿艦飾を施しあり入口は生徒昇降口にして入口を入りて正面の控所には各種商品賣店ありて職業學校生徒作品を始めとして坂田香海堂、松村文具店、中小合名會社、見砂機械店の各商店軒を並べ場の中央には入場者休憩所を設けたり此處より附屬館階上を上れば小將町校の陳列場あり書畫手工教授用品等所狹き迄に並べられ何れも生徒の苦心になれるもの、就中二年生男子の描ける佐久間校長の肖像畫一年生の手になれる高砂座の模型紅葉の造花頗る巧なるものにして書畫等も亦筆蹟中々に見事なるものあり」次の高岡町校の室は女子校の事なれば裁縫物多くを占め奈良、平安等の各時代の裝束はよく人の注目をひけり出品點數多くに達せちと何れも未來の良妻賢母の苦心の作のみなれば中々に見事なり」野町校室にて先最も人目につくは金澤

市街地圖なるべし教授用品なるが頗る巧なり其他の生徒の作品皆よく出來たり」新竪町校にて最も眞に迫りて巧なるものは職員の作になる炭坑の模型にして生徒の作品亦道が名望ある前田校長に育まれゐる生徒の事とて秀逸なるもの多し」菊川町校室には入口右方の壁間に卯年に因みて小さなる織物にて作れる兎には奉祝大典の四字を表せる大なる額を揭げ天井中央には色彩美しき大花球を吊しあり生徒の作品は之を中心として陳列されあり」附屬舘階下理科實驗室には机上に鳥獸類の剝製を並べ生徒數人は化學物理の實驗をなしゐるが數人の此處に集り何れも珍らしげに驚異の眼を睜り最近化學の進歩に驚きゐる者あり」石引町校室にては巧妙なる金澤市街地圖を中心として優秀なる作品を多く並べられたるが壁間には朝鮮產の三尺有餘の鷺眼を光らせ居り生徒の手になれる紫宸殿の模型は巧妙なるものといふべし」材木町校には朝鮮鏡、下駄等最も人目をひき正面壁間の樂譜の大額は著目點面白し」此處より本舘に移りて階下に職業校の作品室あり造化刺繍裁縫物等所狹き迄に並べられ絢爛として美しき限りなり」階上第一室は味噌藏町校にて裝飾美しく作品何れも上出來のものゝみなり」松ヶ枝町校にて最も人目を惹くは巧妙なる大晉宮の模型にして職員の手になれものゝ由なるが構造頗る巧に時節柄周圍には人多く集りて讃嘆し居たり朝鮮のオンドル模型も巧みなり」長町校にては雛段美しく飾られ富士山附近の地理模型は簡朴ながら教授用品としては可なるべく奉瀞牛蕃の首袋は戰慄粟を生ぜしむ生徒の作品亦よし」長土塀校室にては大晉宮の模型は巧みにして犀川產の魚類はよくもかく集めたるものかなと思はしめたり出口壁間の生徒作千代の壽と題する額面は三年生の作としては秀れたるものなるべし」芳齋町校の桃太郎の作り物は巧みにて、明治維新の頃の官制はそゞろ明治天皇の御鴻業を偲ばしむ」此花町校にては金澤附近の地圖最も巧に造られ其他生徒作品も亦た秀れたり、女子職員作の紫宸殿模型は頗る見事にて市街模型も亦た頗る詳細なもの五年女生作の聖壽と書せる額面竹細工にて製せる五六年男生の額面は優秀なるものなり」馬場校の天井には飛行機を吊され生徒作品先上々」階段を下りて角には森山町校室あり天井には十一月十日午後八時の星の位置を示せる圖を貼りたるが着想極めてよく時代風俗屏風又よろし、此處より音樂室に到れば可憐なる女子常に唱歌を奏て清韻疲れたる腦を癒して心緒始めてすがゝし」――（石川新聞）――

各地とも大典奉祝記念の爲め色々な催物があつた、市内各小學校及び女子職業學校、商業補習學校、夜學校合同の教育品展覽會も亦其一であるか而も至誠の籠つた備物であつた單純なる個別的品評を避け成るべく同會を通して教育界近時の一般的傾向を知るべく其の感想を略述すれば

作品は實用的　兒童の出品數は七千點以上約七割を占めて居る個別的に批評すれば各校各生に依つて優劣長短のあるのは免れないが只從來のやうに紋切型の教科書本位のやり方でなく教師は成るべく兒童の自治心に訴へて作らしめたやうなものが多かつた此の精神の發動に依つて出來た品であるから手工品も圖畫も裁縫も自分の家に要るやうなもの乃至は自分の趣味嗜好を其作品に發揮し得るやうに極めて實生活と結ひ付て居たのは兒童出品の異彩である

簡易教具の製作　從來の教師は教具の簡短な自分で出來るやうなもの迄一々買込で積置くと云ふ流義であつたが段々豫算の制限を受け妄りに買込むことも出來ないやうになつて來て居るから教師も愈〻眼を覺まして自分で作り得らるゝものは掛圖でも標本でも簡易機械でも御互に製作に努力するやうになつたやうだ

各校の特色發揮　之れ迄の合同展覽會は大抵科別陳列法で各科の優劣を各校科別に比較するやうに仕組であつたが、今度は校別に陳列してあるから何處の學校は如何な風に働いて居るかは多少心ある人には鑑

別出來るやうになつて居る、こんな風に一校が心を揃へて劣らないやうに奮闘したならば各特色ある校風を作り得るやうになるであらう

郷土研究の新潮流　立山下の後生頓はずの諺の如く從來の教育は郷土の研究を怠つて居たやうであつたが近く教育界は此の積弊を矯めて郷土研究に相當力を染めるやうになつた此の潮流に促されて校下の民情風俗産業の研究にも注意を拂つて居る此の新らしい氣分を此會は誰れにも判かるやうに示して居る

各學校の産業研究　過去の教育は通じて讀方、書方に主力を注いだやうであつたが近く各校は産業的、經濟的研究に向つて熱心に努力して居るやうだ其掲げてある産業統計、製造圖解、製造用具などを透して一般産業の概況を誰にも了解し得るやうに出來て居る斯く教育は社會に接近するやうになれば教育に依つて一層社會進歩の理想に接近し得るやうになるに相違ない其仕方には勿論優劣はあれど此の傾向を疑ふ餘地はない

教科書の具体化　此の頃の教育者は教科書を其儘寝かして置かないで模型に依つて直ぐ了解し得るやうに仕組であるものも多かつた、あんな風に凡てが實際化するやうになれば死で居る教材も屹度兒童の肉や血となつて生氣ある人間を作り得るやうになるであらう此の善き傾向を助長誘導して一層實質的發展を期するやうに努力したならば更に一層好成績を上くるに至るにあらう　――（北國新聞）――

展覧會の出品は市立各學校生徒兒童の成績品、教員の工夫製作に成れる教授用具並研究調査物件及教育上の參考品とし各學校に一室を配當し陳列方は當該學校の適宜とせりされば宛然たる學校比較展覧會の觀あり學校の比較には其の種類編制等に依りて相當の斟酌を要す此には比較を避け教員の工夫製作及研究調査にかゝるものに就いて概言すべし此の種の出品には個々の學校の特色を發揮せるものあるは勿論なれども大體に於て市教育界目今の趨勢を識認せざるを得ず郷土的實際的傾向を帶ぶるが如き其の著しきものにて實に教員の自覺を現はすものなり蓋し是に由りて更に其自覺を促すこと亦尠からざるべし御大典奉祝の趣旨に至りては貫徹せるに庶幾からん　――（石川教育）――

十一月十日より二十日に迄る。官衙・學校・會社・工場曁び團體等は、旗行列提灯行列並獅子舞・祇園囃子・假裝行列等の餘興を催す者頗る多く、竟に醜陋風を敗る者なし、覧る者途に咽噎し唱歌の聲、絃鼓の音、日夜巷衢に盈てり。

大禮期間市民奉祝の熱誠を傾注し金澤郵便局・金澤鐵道工場・金澤專賣支局・日本硬質陶器株式會社・魚商組合・絹糸團體等の旗行列・提灯行列は連日連夜盛に行はれ北國新聞社主催の聯合提灯行列並に金澤毎日新聞社主催の聯合太鼓行列は其最も大なるものとす其他洋服業組合の假裝行列を首め各町より繰出せる獅子舞・祇園囃子・彌彦婆婆及び各種假裝行列は其數殆ど一百孰れも敬虔を旨とし意を奉祝に寄せたる餘興少からず而して竟に滑稽に過ぎて風を壞り醜陋に失して俗を害す

るものなく去來旁午觀覽する者堵列して路を杜塞し市中日夜の殷賑前古未だ曾て其比を觀ず光景譬へ難し

【參照】

金澤郵便局及び專賣支局合同の大提灯行列は兩局職員、現業員、職工、傭人等合せて六百餘名昨日午後五時を合圖に各局に集合して隊伍を整へ郵便局側は十間町を下りて堤町に出で專賣局側は正門より松ヶ枝町を經て堤町を出で茲に兩局合併して一團となり南町より大通りを犀川大橋詰より河原町に入り廣坂通りより出羽町萬歲臺に至り萬歲を三唱し瓜垂坂より九人橋、味噌蔵町、尾張町を經て博勞町に至り其處にて合併を解き兩局員所屬の局前にて萬歲を三唱して解散せり

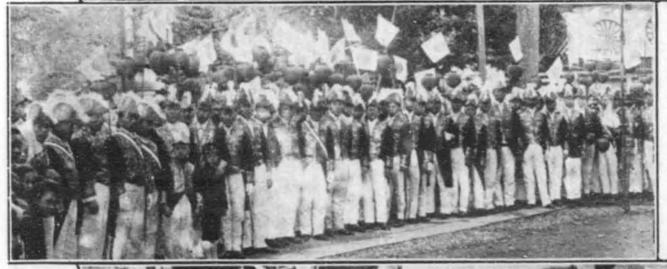
△金澤市魚商組合魚市場組合にては合同旗行列を擧行せるか組合員六百餘名は何れも羽織袴の整然たる裝扮にて出發せるか四人一列となり最先頭に魚商組合の旗を御大禮奉祝の長旗を飜し樂隊の嚠喨たる奏樂に連れ肅々と行進を開始し第一部より第七部迄引續き紅白の帽を被りモスリン製の体裁よき小國旗を手に〳〵翳し祝へや千載一遇のと行列の歌を高唱しつゝ市姫通より堤町を順路廣坂通に出で縣廳及び市役所を祝意を表し百間堀より淺野川大橋を渡り觀音町より卯辰山に登り記念撮影をなし午後三時奉祝會を開き萬歲を三唱し會衆一同之に和して天地を震撼せしめ卯辰山を下り天神坂より尾張町十間町を經て公會堂に到着したりき

旗行列　師範學校附屬生徒一同は旗行列を偖し市中を行進したり生徒は小さくとも流石に規律ある教員の手に統率されしことゝて整然として足並を揃へ手に〳〵赤き眞心を表示したる小國旗を翳し可愛き口

各町の催物（其壹）

堀川臺の手古舞

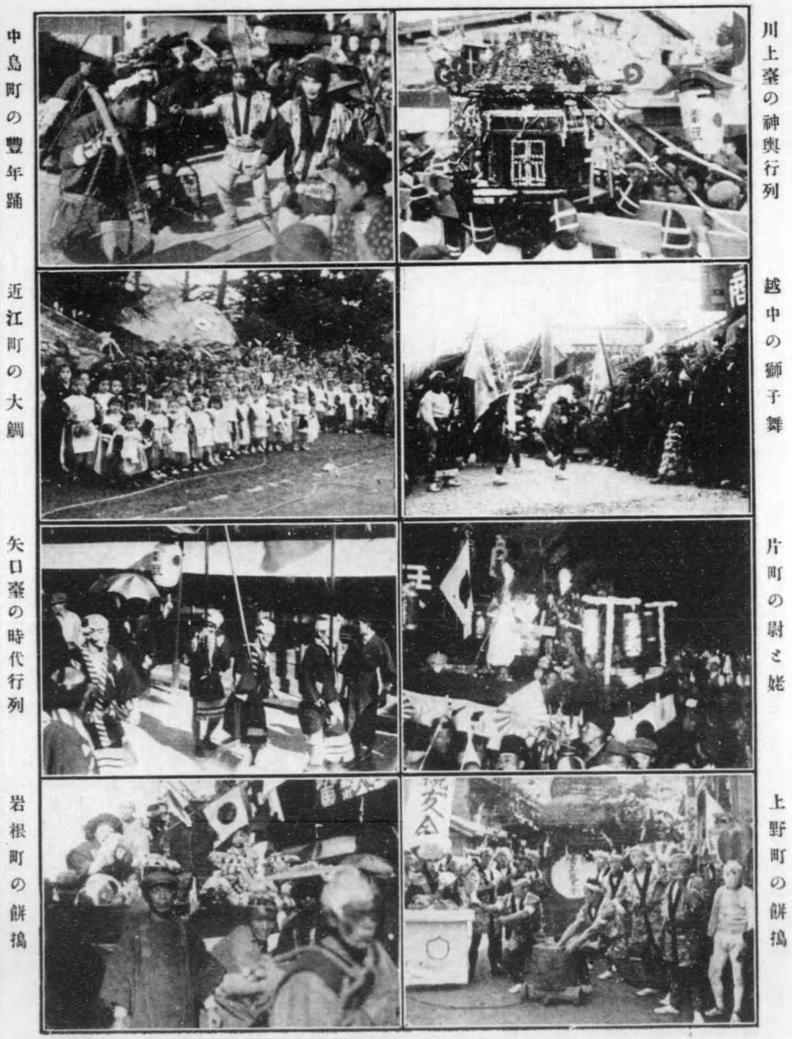
矢口臺の時代行列



洋服業者の假裝

岩根町の手古舞

各町の催物（其貳）



川上臺の神輿行列　越中の獅子舞　片町の馬と姥　上野町の餅搗

中島町の豐年踊　近江町の大鯛　矢口臺の時代行列　岩根町の餅搗

元より一齊に迸り出つる唱歌は爽かに澄みたる秋の空に谺していとも美はしくいとも床しく見受けられ白晝の催し物として快感を覺えしめぬ又午後に至り御歩町主催少年少女の彰義隊は先頭の少年隊か白の鉢巻白襷に揃ひの袴を穿ち兩刀を手挾み少女隊は同しく白鉢巻に白襷甲斐甲斐しく手に手に薙刀を掻込み一樣に聯隊旗を負ひ彰義隊の歌を合唱しつゝ隊伍整々行進を續けしか人數の少き代りにはよく統一せる美事の行列なりき

黍團子　岩根町にては桃太郎の大行列を練り出したるが先頭には献上の荷物を美々しく飾り立てたるをお手古が擔ひ木遣音頭にて練り過ぐれば其に次で大なる屋臺を曳き來り其上にて太鼓笛の調子を合せ黍團子を製造するなど大趣向を凝し賑かに囃し立て行く後より黑紋附の童女が花笠を冠りて桃太郎が戊と申と酉とを連れたる山車を挽きて群衆の視線を集めたり

農事行列　中島町一帶にては農事行列を繰り出せるが農具一切は器用に作られ種蒔より早乙女の田植は云ふ迄もなく田草取もあれば鳥威あり稻架もあれば籾取器械など一々間然する處なく餅搗には麻糸を餅の代とし豐年ちや萬作ちやと節面白く囃し立て花笠を被りたる可愛の童女には綱を曳かせ最後に米を屋臺に積みて農家に於ける一年の行事を細大洩さず模したるは上出來にて喝采を博せり

板獅子　大衆兔の板獅子は一風變つた黑色の獅子にて棒振の熟練したる技倆を示したるが殊に頭の使ひ方の巧妙なる多くの獅子中に於て嶄然頭角を顯したり

越中獅子　中越兩郷郷友會員の發企になる奉祝獅子舞は態々越中より參加せしものにて大鼓を据えし小さな屋臺を押して先頭に立ちたるが獅子の胴は金澤のに比し三分の一許りにて四人の舞子は獅子を殺すにあらずして遊ばすのが目的らしく笛と太鼓の囃子に連れ首尾共に動いて全体の活動するさま目先頗る變り

て大喝采を博したり

餅　搗　親友會の催しに係る餅搗きは大なる紅白鏡餅を大なる三寶に戴せたるを曳出せしが一切を縄にて造れるは却々の手際にて搗ひの衣裳にて代り合ふての餅搗きは手拍子足拍子よく揃ふて練熟の技を見せたり

士農工商行列　堀川口各町合同に係る士農工商の大行列は最先きには金襴銀縫の五彩目覺むる許り派手やかなお揃ひの羽織に揃ひの菅笠といふ扮裝で荷宰領に引添へ一群のお手古が御幣や國旗で美々しふ飾りだした「献上御荷物」を擔ぎながら歌節面白く足並揃へて進むと其後には侍の一列が續く帯の社狩に大太刀を佩いた武士、赤合羽に饅頭笠の赤垣源藏、蛇の目の立烏帽子で紙の甲冑で身を固めた加藤清正、大前髪に陣羽織の桃太郎など千差萬別の後には子供も大供も夫々鬘の社狩姿で練り歩くと次ぎは裳笠に鋤鍬を擔いだ百姓、赤襷赤褌卷の早乙女が行く大根の化けが通る惠比須も出れば飴屋も居る向ふ鉢卷に紺の腹掛股引の着屋、野菜物を天秤で擔いた八百屋、柳葛屋・龍紋氷室の氷屋等總べての階級と有らゆる種類の職業とが雜然混雜入り交つて賑かなこと此上ない其後には揃ひの花笠を被ふて手ゝ手に國旗を翳した堀川や七ツ屋町の少年少女連と附添の父兄姉妹連等がゾロ〳〵練り歩き最後に鳳凰を棟に飾つた屋臺に彩光鮮かな太平樂の三人形を載せて曳いたのは沿道の目を驚かした

旗行列　五寶町より出でたる旗行列は黑紋付に袴を穿ちたる約百名の少女が紅燃ゆる日章旗を手に手に振翳して行進し最後に大鏡餅を据えたる大三寶を曳きたるは白豐の催し物として美しかりき

青獅子　觀音町の青獅子は東廓藝妓連の中囃子一隊目覺しく囃し立て、來り太刀を振りし演技者の身輕な振舞と云ひ勇氣に滿てる擧動と云ひ熟練の程を偲ばしめたり

赤獅子　泉出町の赤獅子は曩年東宮殿下台覽の光榮に浴したる記念の旗を押立て揃ひの裝束したる囃方六人を先頭とし面白をかしく囃したてたる後に自慢の赤獅子が身振ひ勇ましく練り廻れり

惠比須行列　兩近江町にては先頭に造り物の屋臺を曳き囃子立てつゝ種々の假裝行列をなし「すばらん」を踊れるか差手引手も鮮やかにて觀者を驚かしたり次いてば男女の子供連が一樣に惠比須の假裝をなし手に〳〵笹を持ちて行列を整へ滋團扇にて巧みに造れる大鯛を引き行けるは芽出度いといふ意味もあり時に取つては好趣向なりき

御輿行列　川上有志の催しに係る御輿行列は何處迄も眞面目なるが好し先つ數十人の仕丁に數名の神主も交りて練りたるか仕丁七八人に依りて擔かれたる御輿は菊花にて造られ鳳凰は鶴を用ひしが手際頗る巧妙を極めたり行列の殿は川上新町の台覽白獅子を以てせしが之も總て白毛白裝束にて好評を博したり

仕丁行列　主計町にては仕丁行列を繰出すこと〻し「君が代」及び「菊かさね」の踊の二曲を添へ淡紅色裝束斗目の着物に白の指貫を纏ひ先頭には柴垣に菊花を繞らせる屋臺を立て鳴物の音賑かに囃し立てたり

△提灯行列　鐵道の分は運輸保線兩事務所、金澤驛、同機關庫同工場の吏員にて全員千餘名を赤誠隊（工場）鐵隊（工場）道隊（工場）縱隊（保線）車隊（驛及列車）員隊（列車電燈、電力機關車分教所）の六隊に分ち各隊名を附したる大角行燈を掲げ泰祝唱歌を合唱しつゝ驛前より白銀町、安江町を市姫通りに拔け尾張町中町大手町より裁判所前に出て凡垂坂を出羽町練兵場に至りて萬歲を三唱〻歸路廣坂通り石浦町南町堤町より安江町に入り東別院前を經て停車場新道より驛前に歸着して解散せるか整然たる行列にて壯觀を極めたり

△絹糸團体四百二十餘名は午後五時參集同三十分出發にて順路大通りを行進せしが國旗に數個の紅提灯を

振り分けたるを手に手に翳して各所に萬歳を唱へつゝ群集を縫ひ行きしが朱欄の高臺に盛裝せる官人を置き電燈にて裝飾を凝らせるを中間に最後には目の覺むるばかりなる屋形を曳き一九席出演の雷門助六一座の囃子は鍛えし腕さて冴え一朶の紅雲街巷を閉して大壯觀を極めたり

△洋服業組合にては組合員百二十名何れも大禮服に擬したる揃ひの洋裝にて禮帽を戴き紅提灯を振翳して大通りを順路行進を續けたるが遠かお手前物の洋裝が燈光と相映して美觀を呈したり

△日本硬質陶器株式會社にては總勢六百を十二區に分ち小提灯を振翳して行進したる中々裝觀なりき

市立各學校に樹を栽ゑ、以て大禮の記念とし、其樹は卯辰山より採れり。

市の卯辰山造林中より松樹を選採し之を市立女子職業學校・市立各小學校の校庭に栽植し以て大禮記念に當つ栽ゑたること各一株但事は八月二十八日市立各學校長會議の協定に據れり

自製の物品を獻上せんことを請ひ、聽されて石川縣知事より傳獻せられたる者、市に三人あり。一は雕刻硯筥、一は丹鳳朝陽畫、一は菓子長生殿なり。

市民相川豐男は自作の浮彫硯箱一個を、中濱元重は自畫の丹鳳朝陽圖一本を、森八合名會社は自製の御所落雁長生殿百十個を獻上せんことを出願し石川縣知事は更に傳獻の儀を稟申し其筋の採納する所となり各獻納の手續を了れり

○獻上品採納の通牒　十一月五日石川縣知事官房の通牒に云ふ

御大禮奉祝ノ爲左記ノ者ヨリ頭書ノ物品獻上方出願ニ付知事ヨリ傳獻ノ事ニ取計相成候處今回採納可相成旨其筋ヨリ通牒有之候條本人ヘ傳達相成度候也

硯箱壹個　金澤市油車　相川豐男

繪畫壹本　同市古寺町　中濱元重

御所落雁長生殿百十入一箱　金澤市尾張町　森八合名會社

尋で二十四日復た通牒あり左記物品の獻上を採納せられたり

○知事傳獻の獻上品　是より先き個人の物品獻上に關し其筋の通牒に心得數箇條あり其中に云く

産業奬勵上裨益アリト認ムヘキ獻上品及地方名望家ノ獻品ニシテ地方長官ノ傳獻ニ係ルモノ

と蓋し三人の獻上品は此に據り採納の榮を辱ふせり

大禮の記念とせむが爲に、奬學基金等を市に寄附する者あり、皆之を聽せり。

大禮に際し市に學事奬勵基本金、小學校校旗等を寄附して以て記念に當る者あり其市參事會に議りて許可を與へたるは左記の如し

市學事奬勵基本金五百圓　　右　森下町　越澤太助

市立新竪町尋常小學校校旗壹組
但頭附塗竿、立臺、帶革附以上代金七拾圓八拾五錢　　右　新竪町小學校同窓會代表者　前田捨次郎

市立野町尋常小學校庭内植附松樹壹株
但同附屬石柵一組以上代金貳拾五圓　　右　帝國在鄕軍人會金澤市第一分會長　安田順太郎

卯辰山公園植栽櫻樹百五十本
但價格百五拾圓　　右　金澤絹糸團體

神社は、社殿を修造し、神林を經營し、又は維持基金を蓄積して、以て大禮の記念とせり。

○神社の大典記念施設に關する通牒　石川縣内務部長は曩に左の通牒を市長に致し神社に於ける大典記念施設に關して豫め注意を要むるところあり

明年秋季ヲ以テ曠古ノ御大典御擧行被爲在候ニ付テハ之ヲ機トシテ各神社ニ於テ諸種ノ記念施設計畫可有之コト、存候處之カ施設ノ撰擇ニ付テハ最モ考慮ヲ要スヘキ義ニ有之即チ社殿ノ修造其他神社ニ於テ必要ナル建物及工作物ノ建設境内地ノ整善記念神林ノ經營或ハ防火設備ノ完成等ノ如キ或ハ又此際由緒調ヲ完了シ社記ヲ作ルカ如キハ最モ神社ニ適應シタル擧ト被存候然ルニ從來各地ニ行ハレシ單ニ記念碑ヲ建設スル等ノ如キニ在リテハ神社ノ施設トシテ直接必要ヲ認メサルノミナラス却テ之カ爲神社ノ尊嚴境内ノ風致等ヲ損傷スルノ結果ト可相成候條此等ノ點ニ關シ豫メ篤ト御注意相成度候也

○記念事業の決定　記念事業の既成又は著手中のものは大概左記の如し

別格官幣社尾山神社

神門前石階全部改築　此費用金五百八拾圓
神門前黑木鳥居改築　此費用金四百五拾四圓
賽錢箱　一個　新調　此費用金參拾圓

縣社椿原神社

境內南西外圍柵石建設　此費用金百參拾八圓五拾錢
本殿拜殿並廊下雪垣等修繕　此費用金七拾五圓七拾錢

縣社宇多須神社

社有山林杉苗二千七百本植栽　此費用金貳拾七圓五拾錢

鄉社安江神社

翠簾並壁代新調　此費用金百參拾圓
制札並社名標改築　此費用金百六拾圓

村社諏訪神社

境內社地取横　此費用金百拾貳圓參拾錢

村社闕野神社

維持基本財產　金壹千圓造成
拜殿並幣殿改築　此費用金貳千六百圓

鄉社豐國神社

社有地檜一千本杉一千五百本松五百本植栽　此費用金壹百圓

鄉社金澤神社

維持基本財產　金參千圓造成

村社藤棚白山神社

維持基本財產　金貳百八拾五圓造成
社有地百十二坪買入　此費用金六百五拾圓

村社泉八幡神社

社務所改築　此費用金五百圓
境內社地植栽　此費用金五拾圓

青青會は、繪畫展覽會を開きて、大禮を奉祝し、本派別院は、金澤佛敎日曜學校を起して、大禮を記念し、加越能史談會は贈位者の爲に慶讃法會を修せり。他此に類する者多し。

青青會は十一月六日より十六日に迄る大禮奉祝繪畫展覽會を前田侯別邸內舊圖書館に開き本派別院は金澤佛敎日曜學校を同院內に興し

大禮記念に當て十二月五日を以て開校式を擧げ加越能史談會は十一月二十一日贈位諸士慶讃法會を妙慶寺に修し前田侯特に人を遣して代參せしめたり其他此に類する事業多し

【大禮奉祝記終結】

大正五年二月二十九日印刷
大正五年三月一日發行

石川縣金澤市役所

金澤市高岡町九十番地
明治印刷株式會社
印刷人　澤田助太郎